

秋田市外旭川地区まちづくり基本構想 骨子（案）に対する意見募集結果

○1章 まちづくりの目的

No.	意見	意見に対する市の考え方
1	<p>国（国土交通省）がすすめる「コンパクトシティの形成に向けて」に反している。 参考→https://www.mlit.go.jp/common/001083358.pdf 秋田市立文化会館を閉鎖してミルハスに県・市の文化施設を集約・統合させたのが「コンパクトシティの形成に向けて」の実践と言える。 外旭川地区にこの施設を作ることで、市街地が拡散し低密度な市街地を形成することになる。 （八橋地区の運動系施設と分散される） 1ヶ所に集約させるのがコンパクトシティ。 秋田県は毎年1万人以上人口が減少していて、将来は大湯村以外は消滅するとも噂される。 人口（利用者）が減少しているなか、施設（選択肢）を増加させることにより利用者の奪い合いが起こり共倒れとなる。 これで各都市が持続可能と言えるのか？ 御所野ニュータウン・イオンモール秋田ができた時も、秋田駅や四ツ小屋駅から電車発着時刻に合わせてシャトルバス出せばいいのにそれをしなかった。秋田市は街づくりを全く考えていない。 南ヶ丘も、きりり支援学校が出来て10年経ってやっと住所が「上北手」から「南ヶ丘」に変更した。 なぜ最初から「南ヶ丘」にしなかったの？ 街づくりがなっていない。</p>	<p>外旭川地区のまちづくりは、本市がこれまで取り組んできた多核集約型コンパクトシティの考え方を基本としつつ、将来のまちづくりを見据え、行政だけでは実現できない、民間事業者の知見やノウハウを活用したまちづくりを行うものであり、多核集約型コンパクトシティを補完するモデル地区と位置付けるものであります。このモデル地区では、AIやICTなどの技術を活用した先端的なサービスの導入により、本市が抱える課題の解決を他の地域に先駆けて行い、この実証的な取組で得られた成果を他の地域にも波及させることで、全市をより充実発展させてまいりたいと考えております。いただいたご意見については、今後の参考とさせていただきます。</p>
2	<p>多核集約型コンパクトシティという人口減少下がベースにあつての基本構想だとは思いますが、同時に人口増加につながる雇用や子育て環境の充実にも計画化して欲しいです。</p>	<p>外旭川地区のまちづくりでは、若者が将来に希望を持ち、「これからをこのまちで暮らしていきたい」と感じられるような魅力あるまちとなることを目指してまいります。なお、雇用の場の確保に加え、事業パートナーであるイオンタウン株式会社からは、スポーツこども園や放課後児童施設といった子育て環境の充実に関する提案も受けており、引き続き協議を進めてまいります。</p>
3	<p>外旭川地区に工業団地を設置してはどうか。若者離れを減らす為にも。</p>	<p>外旭川地区のまちづくりは、これまでにない新たな官民連携の取組として、先端技術の活用や民間事業者の優れたノウハウと知見を生かした様々な取組により、「人口減少下にあっても持続可能な社会基盤の構築」と「交流人口の拡大による新しい活力や魅力づくり」を目指すものであり、モデル地区を含む外旭川地区に工業団地を整備することは考えておりません。</p>
4	<p>・第一印象として「総花的」でテーマがはっきりしていない。 ・考え方としてもっと「食」「花」「スポーツ」のコラボを深掘りして追求していただきたい。</p>	<p>外旭川地区のまちづくりでは、「人口減少下にあっても持続可能な社会基盤の構築」と「交流人口の拡大による新しい活力や魅力づくり」という2つの目的からモデル地区で目指す7つの取組を位置付け、それぞれの取組の連携についても検討を進めているところであります。いただいたご意見については、今後の参考とさせていただきます。</p>
5	<p>今回の外旭川まちづくり構想については、様々な分野における連携・連動させることが重要だと考えます。 防災・農業・スポーツ・観光・デジタル・AI・エネルギー、そして秋田県、秋田市が最も重要な課題である人口減少対策に対して、全国に発信できるモデルケースになりえると考えられます。 そのために必要なことは、民間（地域企業・大学・研究機関）による知見を活かすことだと思います。 第14次秋田市総合計画に基づく秋田市の課題についてより民間（イオンタウンを含む民間事業者）の構想を取り入れ、行政機関の役割は規制緩和を中心とした法規制の対応、国からの補助金活用を中心とし整備のサポートが重要であると思います。</p>	<p>外旭川地区のまちづくりは、これまでにない新たな官民連携の取組として、先端技術の活用や民間事業者の優れた知見とノウハウを生かした様々な取組により「人口減少下にあっても持続可能な社会基盤の構築」と「交流人口の拡大による新しい活力や魅力づくり」を目指すものであります。本基本構想の策定に当たっては、柱として位置付けた7つの取組をどのように連携させていくかが重要になると捉えており、いただいたご意見については、今後、本市が主体となって、7つの取組と施設機能をどのようにマッチングするかや具体的な取組を検討する際の参考とさせていただきます。</p>
6	<p>本県および秋田市の最大の課題は人口減少の進行です。人口の自然減を抑え社会増を図ることが必要です。市民意識のアンケートで秋田市に住み続けるため必要なこととして「雇用の場の確保」とありますが、単に働く場所がないのではなく、所得の高い（給料）職場が少ないことにあります。イオンショッピングモールが出来たら千人単位で新規雇用があると思うが、ほとんどがパートであり市民の所得向上に寄与しないと考える。</p>	<p>本市では、40歳未満の非正規雇用者を正社員化した企業や女性が働きやすい環境づくりに取り組む企業に対する支援のほか、キャリアアップに役立つ資格の取得等に対する支援などにより、雇用の質の向上に努めております。いただいたご意見については、事業パートナーや協力企業・団体にも申し伝え、今後の参考とさせていただきます。</p>
7	<p>外旭川地区を核とし全市のより充実発展させる役割を担う特殊な“核”とありますが、その核を持って他の地区へどのような効果が期待できるかもっと具体的に知りたい。</p>	<p>モデル地区は、7地域の核と同じ役割ではなく、他の地域、ひいては全市を、より充実発展させる取組を行う役割として考えております。他地域への波及を目指す成果などについては、来年3月までに取りまとめる本基本構想において、その考え方を示すこととしております。</p>
8	<p>「泉外旭川駅の開業により、利便性の向上が図られる」とあるが、私がマイタウンバスを利用して泉外旭川駅まで行って秋田駅方面のホームに立つと電車が来るまで30分待たされた。この時間帯のマイタウンバスを利用することは二度とない。 マイタウンバスの運行表は、電車のダイヤ改正に併せて変更されなければならない。改正されても通院や買い物には影響が出ないと思う。 また、都市整備計画道路泉外旭川線についても触れているが、現在の天徳寺通りは2～3年前から車の交通量が増えている。現在工事中の泉外旭川線が天徳寺通りまで開通すると、大渋滞になることは誰の目にも明らかである。開通に合わせて迂回路を整備することが望まれる。</p>	<p>公共交通機関やシャトルバス等によるアクセスの確保はもちろん、計画地周辺の交通量増加に対する対応も同時に進めていく必要があると捉えております。本基本構想は、「外旭川地区まちづくりの基本的な方向性」を定めるものであるため、いただいたご意見については、マイタウン・バスと都市計画道路泉外旭川線を所管する部署にも申し伝え、今後の参考とさせていただきます。</p>
9	<p>まちづくりの目的はある程度理解できましたが、「モデル地区」として整備する根拠には納得できませんでした。モデル地区の成果が必ず得られるのでしょうか？ モデルにする理由が分かりませんでした。図1で成果を7つの地域に波及するが他の地域と同じ核ではないと言っています。特殊な核となるとはどのような意味が分かりませんでした。実施しないという案は無いのでしょうか。何も無い場所から作る方が効率的とは思いますが、他の方策も検討して欲しいと思います。</p>	<p>モデル地区は、「人口減少下にあっても持続可能な社会基盤の構築」と「交流人口の拡大による新しい活力や魅力づくり」を、これまでにない官民連携という枠組みによって行うことで新たな価値や魅力を創出し、そこで得られた成果を他の地域に波及させていくものであります。また、モデル地区を「特殊な核」とした表現については、「7地域の核と同じ役割ではなく、他の地域、ひいては全市をより充実発展させる取組を行う」に修正する予定にしております。将来的にこれらの取組の成果を他の地域での活用や新たなビジネスの創造につなげるなど、「都心・中心市街地や6つの地域中心を核としたまちづくり」の充実・発展につながるものができるよう検討してまいります。</p>

10	<p>ぜひ、新スタジアムの建設に賛成の方向で進めていただきたいです。秋田は美味しいごはん、お酒があり、美しい自然もあり、海も山も堪能できる観光スポットとしてはとても魅力のある地域だと思います。ですが、街の中でお話を聞くと秋田なんて、というマイナスなお話が多くあります。こういう方の意識を変えるきっかけのひとつとしても新スタジアムを建設し、ブラウブリッツ秋田と共に大きく成長するべきだと思います。本当に必要としている人達の声を聞いてほしいです。ただ不便だから新しくする、ではなく、みんな未来のことまで考えて建設を望んでいます。ぜひお力添えいただけますと幸いです。何卒、宜しく願いいたします。</p>	<p>新スタジアムについては、これまでの県・市・関係機関による検討内容も踏まえ、プロスポーツ単体での利用にとどまらず、これからの秋田を担う若い世代への楽しみの場の提供、秋田の活性化や魅力あるまちづくりおよび健康増進、防災拠点など様々な観点での活用の可能性についても検討を進めてまいります。</p>
11	<p>まちづくりの目的としては、いいと思う。しかし、新スタジアムを外旭川に造ることによって八橋はどうなるのか。</p>	<p>外旭川地区のまちづくりでは、卸売市場再整備、官民連携で行う新スタジアム整備および民間施設の整備と、先端技術を活用した様々な取組を一体的に行うことで、「人口減少下にあっても持続可能な社会基盤の構築」と「交流人口の拡大による新しい活力や魅力づくり」を目指すものです。また、新スタジアムを外旭川地区に整備したとしても、市民のための総合運動公園という八橋運動公園の位置付けが変わるものではありません。</p>
12	<p>モデル地区とする理由、地域性、図1の波及イメージが丁寧で分かりやすかったです。</p>	<p>引き続き、分かりやすく丁寧な説明に努めてまいります。</p>
13	<p>秋田では何をしても車移動orバス移動が必須みたいところがあるので、スタジアムを作るなら無料の駐車場は必ず設けなければいけないと思います。(秋田駅周辺に平日人が集まらないのは駐車場がほぼほぼ(買い物をしなくて)有料だからだと感じるのです。)できればシャトルバスも欲しい。免許返納した高齢者などへのアクセス、交通の提供が課題だと思います。</p>	<p>交通アクセスについては、自動運転によるオンデマンドPMVやオンデマンドシャトルバスの提案を受けているところであり、本市で進めている公共交通網の再編に向けた検討とも調整を図り、利便性の確保に向けた検討を進めてまいります。</p>
14	<p>持続可能な社会とは漠然のレベルでしか理解できないのですが、より具体的に説明して欲しい。AIやICT活用の先端的サービスで、新しい社会を構築していくのは時代の必然性で歓迎するところではありますが、逆にその波に取り残される人が数多く予想されます。そのフォローアップはどのように考えているのでしょうか。</p>	<p>本市が目指す持続可能な社会基盤とは、安定した仕事や収入、防災等の安全安心、子育てしやすい環境、健康長寿、充実した公共交通、新しい日常を支える先端技術など、人口減少下にあっても日々の暮らしを支えるしっかりとした土台となるものです。本市では、ICT等の利用に不安を感じる方への支援やデジタル活用支援員と連携した各種講座の実施も進めており、こうした取組を組み合わせながら、フォローアップしていきたいと考えております。</p>
15	<p>目的を立ちあげても、理想的に感じられ、ほんとうに実を結ぶのか不安です。いろいろなアイデアがあるのなら、外旭川地区に特化せず、市内の施設を利用して実行したらよいと思います。</p>	<p>外旭川地区のまちづくりでは、卸売市場再整備、官民連携で行う新スタジアム整備および民間施設の整備と、先端技術を活用した様々な取組を一体的に行うことで、「人口減少下にあっても持続可能な社会基盤の構築」と「交流人口の拡大による新しい活力や魅力づくり」を目指すものです。このモデル地区では、AIやICTなどの技術を活用した先端的なサービスの導入により、本市が抱える課題の解決を他の地域に先駆けて行い、この実証的な取組で得られた成果を他の地域にも波及させることで、全市をより充実発展させてまいりたいと考えております。また、外旭川地区は、泉外旭川駅の開業、秋田北インターチェンジや秋田港への近接、都市計画道路泉外旭川線の整備など、交通・物流機能に優れた地域性を有することに加え、卸売市場と新スタジアム、民間施設を活用した地域活性化が見込めることなどから、現卸売市場とその周辺をモデル地区の範囲としたものです。</p>
16	<p>今まで御所野イオン一択しかないのが、分散されるのはよいのかなと思う。10代だと足がないので、交通機関の利便を整える必要があるかと思う。</p>	<p>交通アクセスについては、自動運転によるオンデマンドPMVやオンデマンドシャトルバスの提案を受けているところであり、本市で進めている公共交通網の再編に向けた検討とも調整を図り、利便性の確保に向けた検討を進めてまいります。</p>
17	<p>若者の定住に必要なものは娯楽施設や「たまり場」ではなく、教育・研究のできる大学や職場だと考える。経済産業の支えとなる「働く世代」のとり込みの方が人口減少の歯止めになると考える。</p>	<p>本市が目指す持続可能な社会基盤とは、安定した仕事や収入、防災等の安全安心、子育てしやすい環境、健康長寿、充実した公共交通、新しい日常を支える先端技術など、人口減少下にあっても日々の暮らしを支えるしっかりとした土台のことであり、これらを安定的に確保していくことが、人口減少や少子高齢化社会において重要であると考えています。いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます。</p>
18	<p>秋田県、秋田市を活性化させるため、天候に左右されない、屋根付きJ1やACLの基準を満たすサッカー専用スタジアムでありながら、使わない日は民間も多様な使い方ができるスタジアムを作り、日常の買い物や非日常の楽しみ、両方楽しめる街づくりをしていただきたいと思います。</p>	<p>新スタジアムについては、これまでの県・市・関係機関による検討内容も踏まえ、プロスポーツ単体での利用にとどまらず、これからの秋田を担う若い世代への楽しみの場の提供、秋田の活性化や魅力あるまちづくりおよび健康増進、防災拠点など様々な観点での活用の可能性についても検討を進めてまいります。</p>
19	<p>新スタジアムにそもそも反対である。泉外旭川駅からの動線が全く見えない。泉外旭川駅はバスの発着も不可能ではないか？スポーツ施設の立地は八橋に集約すべきである。</p>	<p>新スタジアムについては、これまでの県・市・関係機関による検討内容も踏まえ、スタジアム整備のあり方検討委員会(平成30年1月)において、本県が少子高齢化や人口流出などといった課題を抱える中、これからの秋田を担う若い世代への楽しみの場の提供、秋田の活性化や魅力的なまちづくりなどの点から、その必要性が整理されてきており、一定の理解が得られていると捉えております。また、交通アクセスについては、自動運転によるオンデマンドPMVやオンデマンドシャトルバスの提案を受けているところであり、本市で進めている公共交通網の再編に向けた検討とも調整を図り、利便性の確保に向けた検討を進めてまいります。なお、令和2年2月に秋田県と秋田市においてとりまとめた、「新スタジアム整備に向けた諸課題の調査・研究について(最終報告)」において、候補地とされていた八橋運動公園については、第2球技場(スペースプロジェクト・ドリームフィールド)と健康広場の代替地の案がなく、設置は困難であると整理したところであります。</p>

20	<p>私は他県出身であるからこそ感じるのは、秋田は雪国で年間の晴れの日数も少ない県でありながら、屋内施設が少なく、天候の悪い日に遊ぶ場所が圧倒的に少ないと感じます。 全天候型のスタジアムや、イオンができ、こうした天候の悪い日でも市民が集える場所ができたなら街の活性化になると思います。</p>	<p>外旭川地区のまちづくりでは、卸売市場再整備、官民連携で行う新スタジアム整備および民間施設の整備と、先端技術を活用した様々な取組を一体的に行うことで、「人口減少下にあっても持続可能な社会基盤の構築」と「交流人口の拡大による新しい活力や魅力づくり」を目指すものです。いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます。</p>
21	<p>そもそも外旭川にばかり大規模な設備を建設するのではなく、分散したほうが良いのでは？イオンショッピングモールを作り雇用を生み出すのであれば良しとしてもスタジアムと市場を併設するメリットが分からない、渋滞や経済効果を考えたら分けた方がいいと思った。また下北手付近でモンベルやスノーピークなどを誘致してオートキャンプ場を作るとか、セリオン周囲で釣り公園を整備するとか自然を活用したレジャー施設はどうでしょうか。</p>	<p>外旭川地区のまちづくりでは、卸売市場再整備、官民連携で行う新スタジアム整備および民間施設の整備と、先端技術を活用した様々な取組を一体的に行うことで、「人口減少下にあっても持続可能な社会基盤の構築」と「交流人口の拡大による新しい活力や魅力づくり」を目指すものです。 また、事業パートナーからは、体験・参加型施設を整備したいとの提案を受けているところでもあります。ご意見をいただいた自然を活用したレジャー施設等については、今後の参考とさせていただきます。</p>
22	<p>人口減少が進む秋田市において、「安定した雇用の創生」が最優先ですが、10～20代の若い世代を引き留めるには、それに加えて「魅力ある娯楽の場、楽しみの場が必要」という今回のまちづくりの理由は的確だと思います。市民の意見を踏まえた良い取り組みであると感じました。事業パートナーに実績あるイオンタウンを選定したのも適切な判断でした。また秋田市中心部から近く、泉外旭川駅や秋田港、ICが近い外旭川地区をモデル地区とした理由も納得できます。今後、さらに詳細な構想が練られていくと思いますが、自治体とイオンタウンは「若い世代にとって魅力あるまちづくり」を最優先に検討していく必要があります。</p>	<p>外旭川地区のまちづくりでは、「人口減少下にあっても持続可能な社会基盤の構築」と「交流人口の拡大による新しい活力や魅力づくり」という2つの目的からモデル地区で目指す7つの取組を位置付けたところであり、7つの取組の連携についても検討を進めているところであります。本市が、若者が将来に希望を持ち、「これからをこのまちで暮らしていきたい」と感じられるような魅力あるまちとなることを目指し、取り組んでまいります。</p>
23	<p>・まちづくりの背景として「人口減少・少子高齢化」を掲げ、それに対して「これまでにない新たな視点が必要」と導き出していますが、人口減少・少子高齢化は今に始まったことではなく、またかねて予測され、強く警鐘がなされていたことでもあり、それに対しては市も（県も）様々な取り組みをしてきたはずであるのに、その検証もせずに、新たな取り組みとして、この外旭川を持ち出す背景とするのは如何なものでしょうか。単なるこじつけとしか思えません。人口減少対策なら、その対策の一環として論ずべきことではないでしょうか。それもせずにここに問題意識だけを結論に有利に援用する形で持ち出すべきではないと考えます。 ・本市がこれまで取り組んできた「コンパクトシティ」は、まさしく人口減少に対応して、無闇に手を広げるべきではないことから推進されたのではなかったのでしょうか。そのコンセプトと、今回の外旭川街づくりはどのように整合がとれません。どうして外旭川なのか、どうして商業施設なのかについて、根本的な疑問・疑念が解けないまま、無理やり先に進めようとする意図が見え隠れします。まして、それをもって「市街化調整」の制限を外してしまうのは、筋が通らないというべきでしょう。 ・「公募型プロポーザル」という形式は、今回のイオンタウン社が、自ら手を挙げやすくするために市に働きかけたのではないかという疑念は拭えません。なぜなら、かねてそのような噂で市内は持ち切りだったからです。後から屁理屈をつけたに過ぎないと思われる方も致し方ありません。この点についても、本構想を論ずるにあたっては明確に説明すべきであると思います。 ・本構想が、イオン社の商業施設構想に「卸売市場の再整備」や「新スタジアム整備」と結びつけられたことは、単にイオン社の外旭川構想の実現を目指しただけのものだったのではないのでしょうか。なぜなら、両者とも、それぞれ別個に進めることができたものを、市が山王地区へのスタジアム建設を渋って、無理やり外旭川に結び付けたものと考えられるし、市場はまだ時間的余裕があると考えられるからです（まして本構想では、卸売市場は現在の市所有地で再整備する方向になったようですから、イオン社の商業施設とは何ら関係はないといえます）。この経緯について一般市民の一部には大きな疑念を抱いている人がいると考えられます。これに対する明確な説明が必要であると思われる。</p>	<p>本市では、令和3年に策定した総合計画「県都『あきた』創生プラン」において、これまでの取組を検証し、人口減少問題を正面から受け止め「秋田市を元気にすること」、「元氣な秋田市を次の世代に引き継ぐこと」を目指し、必要な分野に一体的かつ集中的に経営資源を投入して取り組む創生戦略を設定し、「先端技術を活用した地域産業の振興としごとづくり」を戦略1としております。その中では、今後のまちづくりのモデルとして、民間との協働により、先端技術を活用し、産業分野とその他の分野を一体的に展開することで、人口減少・少子高齢化に伴う地域の課題解決につなげるための新たな重点プログラムとして「先端技術を活用した地域の活性化」を掲げており、こうした考え方に基づき外旭川地区をモデル地区として様々な取組を行いたいと考えております。 また、人口減少・少子高齢化を見据え、将来にわたって市民が身近な地域で日常生活に必要なサービスを容易に受けられるようにする多核集約型コンパクトシティの形成を目指す考えに変わりはなく、外旭川地区は、この多核集約型コンパクトシティの考え方を基本としつつ、先端技術を活用し、様々な分野を一体的に展開することで、持続可能な社会基盤の構築や交流人口の拡大につなげ、若者が未来を思い描くことができる魅力あるまちづくりのモデル地区として整備しようとするものです。そのため、このモデル地区での実証的な取組で得られた成果を、広く他の地域へ波及させることは、コンパクトシティの取組を補完するものと考えております。 なお、本事業は、民間事業者の技術や創造性を生かした自由で幅広いアイデアを求めるため、公募型プロポーザル方式により事業パートナーを選定することにしたものであります。 説明が不足しているというご指摘は真摯に受け止め、引き続き、市民への丁寧な説明に努めてまいります。</p>
24	<p>多核集約型コンパクトシティとは言っても、外旭川地区の成果を他の6つの地域にどのように波及させるのかが全く見えなと思います。 特に距離もある河辺・新屋・雄和に関してどう波及させるのか、具体例を示して欲しいです。 全国的に公共施設が不採算で解体・閉鎖され自治体の財政が厳しい状況であえてスタジアムを新設する意義について非常に懐疑的に感じています。スタジアムを物理的に、環境的に、経営的に維持する算段があるのか。もっと母子世帯や教育補助、生活インフラの整備等足元に目を向けて頂きたい。明石市の移住増加策、市民満足度向上策等も踏まえた市政を行って頂きたい。</p>	<p>外旭川地区のまちづくりは、本市がこれまで取り組んできた多核集約型コンパクトシティの考え方を基本としつつ、将来のまちづくりを見据え、行政だけでは実現できない、民間事業者の知見やノウハウを活用したまちづくりを行うものであり、多核集約型コンパクトシティを補完するモデル地区と位置付けるものであります。また、波及させる成果については、取組そのものを広めるだけではなく、そこで実証された官民連携と民間事業者の優れたノウハウの活用方法なども波及させていく考えであります。 また、スタジアムやアリーナの整備について、スポーツ庁の「スタジアム・アリーナ改革指針」では、「にぎわいの創出や持続可能なまちづくり等の実現と投資以上の効果を地域にもたらす施設にする必要がある」とされているため、新スタジアムについても、この点に留意しながら秋田県や関係者との協議を進めてまいります。</p>
25	<p>市税減少や医療費などの社会保障費の増加が進み先細りになるなか、行政単体で課題解決に向けた取り組みを行うことは将来的にも持続困難であり、本構想を民間企業と共同で行うのはこれからの街づくりの在り方だと思います。その地域の社会的課題の解決を図るための取り組みを持続可能な「事業」として展開していくことが重要であり「地元のプロスポーツクラブ『Jリーグクラブ』」はソーシャルビジネスと呼ばれるほどその効果は絶大です。よって、本構想の目的において、スタジアムの位置づけは最も重要だと考えるべきだと思います。</p>	<p>外旭川地区のまちづくりは、卸売市場再整備、官民連携で行う新スタジアム整備および民間施設の整備と、先端技術を活用した様々な取組を一体的に行うことで、「人口減少下にあっても持続可能な社会基盤の構築」と「交流人口の拡大による新しい活力や魅力づくり」を目指すものです。 新スタジアムについては、その規模や多用途での活用方策、民間施設等との相乗効果を生み出す取組などについて、引き続き県や関係者と十分に協議するとともに、市民・県民の理解が得られるよう丁寧に説明してまいります。</p>

26	<p>開発する外旭川地区を交通等の利便性が高い地域としているが、実際にはJRの駅から相当に離れており、路線バスもろくに走らない不便な場所である。昨今の自家用車での移動ありきの視点で見ても手形山のトンネルと橋が慢性的に渋滞しており、便が良い場所では無い。</p> <p>スタジアムについても、外旭川に整備したところで県外から訪れる観客をどのようにして移送するのか？ 現在の八橋であればバス路線の大動脈で本数も多く、秋田駅から徒歩で向かう人も見かける。そもそも民間企業が経営するサッカーチームのスタジアムを自治体が主導して整備するのは問題があるのではないか。</p> <p>最近のイオンタウンは外旭川の開発が決定事項のように秋田大学などと声明を発表しているが、企業間での駆け引きに使われるような手法を自治体、市民に使って彼らの意に沿うようにさせているが、秋田市がすでにイニシアチブを失っている状態で外旭川の開発をおこなっても利益を得るのはイオンタウンと田を売ったりしたひとたちだけだ。</p> <p>外旭川は市場の整備のみにして、秋田駅周辺の賑わいを取り戻すことが将来の秋田市の利益になる。</p>	<p>交通アクセスについては、自動運転によるオンデマンドPMVやオンデマンドシャトルバスの提案を受けているところであり、本市で進めている公共交通網の再編に向けた検討とも調整を図り、利便性の確保に向けた検討を進めてまいります。</p> <p>また、新スタジアムについては、令和2年2月に秋田県と秋田市が取りまとめた「新スタジアム整備に向けた諸課題の調査・研究について」の最終報告をうけ、令和3年7月に「外旭川地区（卸売市場敷地とその周辺）」を候補地とすることを本市として決定し、秋田県に報告したものであり、その後、外旭川まちづくり事業パートナー選定プロポーザルにおいて、民間主導で行政が支援する事業スキームでの提案を、公募型プロポーザル方式で求めたものです。本市としては、モデル地区において卸売市場再整備、新スタジアム整備および民間施設整備と、AIやICTを活用した取組を一体的に行うことで、にぎわいの創出等における相乗効果が得られるものと考えております。</p>
27	<p>コンパクトシティとは中心市街地に人や物を集めると勘違いされている方が見受けられますがそうではなく、それぞれの地域に中核となる地区を設け、そこをつないで点を線にしていくということではないかと考えます。秋田市の計画を読んで、私が考えていたことと同じことだったと理解しました。</p> <p>外旭川の開発によって、中心市街地が廃れるという意見もありますが、中心市街地には新しい文化施設ができ、なにかいがある。美術館も二ヶ所。JRが駅周辺の開発もしています。これからはそれをどう活用するかということであり、これからは何か施設を作ることではないと思います。</p> <p>利活用するのは誰か。厳しいことを言うようですが、それはその地域の住民であり、商店、地権者だと思います。</p> <p>また、外旭川地区を開発すれば中心市街地の空洞化が進むとの意見がありますが、それは疑問が残ります。</p> <p>秋田市に来る観光客は、秋田駅を通過します。空港からのリムジンバスは始発、終点は秋田駅だからです。路線バスも秋田駅が始発と終点です。外旭川地域に行く場合も、秋田駅から外旭川駅まで電車、バスです。秋田駅を通過させない工夫を考えるべきです。高速道路を利用する場合は少し違いますが、それならば車を利用して来秋する観光客を、どう駅前に誘導するかを、秋田駅周辺の商店や地権者が考えるべきです。</p> <p>それから中心市街地は雇用を産むでしょうか。この計画が、一年、二年、三年と後ろ倒しになるとどうなるか。三年経つと高校一年生が三年生になる。大学一年生が就職活動の時期になる。働く場所がなければ、出て行きます。いつまで計画を検討しているのでしょうか。やると決めたらすぐにやらないと、高校一年生は三年生になります。私は教職についていますが、生徒の就職先、進学先で頭を悩ませている一人です。いつまでも待ってられないと思います。</p>	<p>これまで本市は、魅力あるまちづくりを目指し、中心市街地に文化施設機能を集積し、芸術文化ゾーンとして充実させることで、「まちの顔」である中心市街地の活性化とにぎわいの創出に取り組んできたところであり、一定の成果が見えてきたものと認識しております。この動きを今後も変えることなく、中心市街地のさらなる活性化への取組を進めてまいります。同時に、若者が未来を思い描けるまちづくりを進めるという観点での新たな政策展開も求められています。</p> <p>こうした認識の下、多核集約型コンパクトシティの考え方を基本としつつ、今後のまちづくりのモデルとして、外旭川地区において、民間事業者の知見やノウハウを生かし、AIやICTなどの先端技術を活用したまちづくりと併せ、卸売市場の再整備、新スタジアムおよび民間施設の整備を一体的に進めてまいります。</p> <p>また、外旭川地区のまちづくりでは、雇用の場の確保に加え、起業支援や農商工の様々な仕事と学生・若者をマッチングできるような場なども検討しております。若者が将来に希望を持ち、「これからをこのまちで暮らしていきたい」と感じられるような魅力あるまちとなることを目指してまいります。</p>
28	<p>外旭川に新たなまちを作ることでのどの程度の効果が得られるか疑問ではあるが、人口減少など秋田市の抱えている問題については理解できる。</p> <p>何もしなければ変わらないため、秋田市の新たなステージに期待して、計画をぜひ実現してほしい。</p>	<p>外旭川地区のまちづくりは、卸売市場再整備、官民連携で行う新スタジアム整備および民間施設の整備と、先端技術を活用した様々な取組を一体的に行うことで、「人口減少下にあっても持続可能な社会基盤の構築」と「交流人口の拡大による新しい活力や魅力づくり」を目指すものであります。この基本構想で掲げる7つの取組を連携させながら様々な取組を行い、本市が若者にとって魅力あるまちになるよう努めてまいります。</p>
29	<p>人口減少対策としてこのまちづくりをすすめていくことは、大変良いことだと思います。</p> <p>現在でも秋田市は子育てしやすい都市だと私は感じているので、このような大きな計画を行うことによって、働く・結婚する・子育てするのに良い場所なんだということを県内外の若い人に周知するきっかけになればと思います。</p>	<p>人口減少・少子高齢化は本市の最重要課題と認識しております。</p> <p>モデル地区が、若者が将来に希望を持ち、「これからをこのまちで暮らしていきたい」と感じられるような魅力あるまちとなることを目指すとともに、その周知についても努めてまいります。</p> <p>なお、雇用の場の確保に加え、事業パートナーであるイオンタウン株式会社からは、スポーツこども園や放課後児童施設といった子育て環境の充実に関する提案も受けており、引き続き協議を進めてまいります。</p>
30	<p>活性化のある秋田市になってほしいと思います。</p>	<p>「人口減少下にあっても持続可能な社会基盤の構築」と「交流人口の拡大による新しい活力や魅力づくり」の実現に向け、引き続き取り組んでまいります。</p>
31	<p>人口減少になっても持続可能な策が不可欠と思う。沢山良い物があるにもかかわらず単発・孤立しておりこれらが連携する事で多くのアイデアが浮かんでくる。観光地としては食、回り、芸術では、ミルハス、美術館、東京のハトバスの、半日コース、1日コースとか、“食”、“芸術鑑賞”、“体験コース”とか浮かんでくる。</p>	<p>いただいたご意見は、中心市街地との連携など、モデル地区で行う様々な取組の参考とさせていただきます。</p>
32	<p>秋田県の高齢者の喫緊の課題である医療・福祉の充実と思われま。高齢者の老後には不安を抱える方々の為にもサポートが大変重要であると思えます。一日も早くまちづくりの実現に向けて活性化してほしいと願っております。</p>	<p>人口減少・少子高齢化は、医療や介護等に係る社会保障費の増加など、市民生活に多くの影響をもたらすことから、本市の最重要課題であると捉えております。</p> <p>モデル地区の取組に「次世代医療」を掲げており、その中で、健康長寿につながる高齢者自らの生きがいづくりや高齢者が安心して日常生活を過ごすことができる環境の整備などについても検討してまいります。</p>
33	<p>外旭川地区まちづくりモデルに賛成します。</p>	<p>「人口減少下にあっても持続可能な社会基盤の構築」と「交流人口の拡大による新しい活力や魅力づくり」の実現に向け、引き続き取り組んでまいります。</p>
34	<p>コンパクトシティを目指すといいながらなぜ新たな場所に町を作るのかという疑問があったが、時代に合った新しい町を作るには何も無いところを作る方が作りやすいのだろうということは理解できた。</p>	<p>「人口減少下にあっても持続可能な社会基盤の構築」と「交流人口の拡大による新しい活力や魅力づくり」の実現に向け、引き続き取り組んでまいります。</p>

35	<p>秋田市のたくさんの施設を整理していく必要がある。 また、外旭川地区だけでなく、各地域の施設とのつながりができないか検討してほしい。</p>	<p>本市が管理する全ての公共施設については、その状況や課題を客観的に把握・分析し、秋田市公共施設等総合管理計画にとりまとめて適正に管理しています。 モデル地区で整備を予定している公共施設は、現段階では卸売市場ですが、官民連携の公的スペースを整備する場合には、公共施設等総合管理計画との調整を図りながら検討を進めてまいります。いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます。</p>
36	<p>本県・本市は子育て環境の充実を図るという観点から、親が小さい子供を連れて気軽に、安全に、そして快適に過ごせるようなまちづくりに寄与するような地区であって欲しい。</p>	<p>外旭川地区のまちづくりでは、若者が将来に希望を持ち、「これからをこのまちで暮らしていきたい」と感じられるような魅力あるまちとなることを目指してまいります。 また、雇用の場の確保に加え、事業パートナーであるイオンタウン株式会社から、スポーツこども園や放課後児童施設といった子育て環境の充実に関する提案も受けており、引き続き協議を進めてまいります。</p>
37	<p>秋田市に住み続けるために必要なことの中に「若者にとって魅力のあるまちづくり」とあり、令和元年の調査結果から「新たな賑わいの創出が必要」と結論付けていることから、計画を具体化した段階で、再度若者を対象に「この計画で秋田市に住み続けたいと思うか」聞いてから事業実施を判断すべきである。併せて外旭川に整備する理由に3つ挙げているが、若者が願う新たな賑わいの創出の場所として中心市街地より外旭川が良いか、あるいは外旭川が相応しいか聞いた上で、裏付け・根拠を持って付け加えるべきである。多核集約型コンパクトシティの概念図は、普通に考えれば外旭川地区の部分が中央地域と重なった方が、人口減少下の持続可能な社会基盤の形成に繋がりが易いと考えそうだが、あえて外した以上、外旭川地区の特性から得られたどんな成果をどのように全市に波及させるつもりなのか、具体的に示すべきである。少なくとも中央地域で事業を行うより、効果的であるという理由が求められると思う。 また、スタジアムの立地場所を誰もが望む八橋を外し集客に不利な外旭川と決めたのは秋田市であり、本年4月22日付秋田魁で巨額スタジアム案に対して、名古屋学院大准教授の国内外の事例で「スタジアムが地域の所得雇用賃金税収増加につながる裏付けはない」と警鐘を鳴らしていることについて、誰もが納得する反論をすべきである。</p>	<p>外旭川地区のまちづくりは、本市がこれまで取り組んできた多核集約型コンパクトシティの考え方を基本としつつ、将来のまちづくりを見据え、行政だけでは実現できない、民間事業者の知見やノウハウを活用したまちづくりを行うものであり、多核集約型コンパクトシティを補完するモデル地区と位置付けるものであります。このモデル地区では、AIやICTなどの技術を活用した先端的なサービスの導入により、本市が抱える課題の解決を他の地域に先駆けて行い、この実証的な取組で得られた成果を他の地域にも波及させることで、全市をより充実発展させてまいりたいと考えております。また、波及させる成果については、取組そのものを広めるだけではなく、そこで実証された官民連携と民間事業者のノウハウの活用方法なども波及させていく考えであります。本基本構想の策定に当たっては、外旭川地区まちづくり懇話会において、様々な立場の方から意見を伺っているほか、このパブリックコメントにおいても広く意見を募集したところです。今後、基本計画の策定時など、各段階においても、懇話会やパブリックコメント等の手法により幅広く意見をお聴きしたいと考えております。 また、新スタジアムについては、令和2年2月に秋田県と秋田市が取りまとめた「新スタジアム整備に向けた諸課題の調査・研究について（最終報告）」で、八橋運動公園を含む3つの候補地のいずれも課題があるとされたため、候補地については市が選定し、その後、県等と整備に向けた協議を行うとされております。 このような経緯の中で、本市としては、モデル地区を検討している外旭川地区において、卸売市場と新スタジアム、民間施設を一体的に整備することで得られる相乗効果をまちづくりに生かすとの考えから、同地区を候補地としたものであります。</p>
38	<p>少子高齢化などの問題解決のために取り組みを進めて行く必要があると強く感じていますが、それがこの「まちづくり」なのか疑問があります。外旭川地区を整備することで、どのくらいの市民に利益があるでしょうか。またこの程度で規模では、若い方が秋田市に残る理由になるとは思えず、持続可能とはならないのではないかと考えています。</p>	<p>外旭川地区のまちづくりは、本市がこれまで取り組んできた多核集約型コンパクトシティの考え方を基本としつつ、将来のまちづくりを見据え、行政だけでは実現できない、民間事業者の知見やノウハウを活用したまちづくりを行うものであり、多核集約型コンパクトシティを補完するモデル地区と位置付けるものであります。 このモデル地区では、AIやICTなどの技術を活用した先端的なサービスの導入により、本市が抱える課題の解決を他の地域に先駆けて行い、この実証的な取組で得られた成果を他の地域にも波及させることで、全市をより充実発展させてまいりたいと考えております。いただいたご意見については、今後の参考とさせていただきます。</p>
39	<p>市の構想、危機意識には同感するところがあります。何か対策をしなくてはならないことも充分理解できます。其れが何故、外旭川でなければならないのか、土地があるから、新スタジアム候補地となっているから、民間事業者と共同で進行できるから、卸売市場の再築と進行できるから、期を一にして可能であることが挙げられておりますが、市の衰退の原因として、テクノポリス構想により、街が分割された状況に他ならないと考える市民としては、また同じ誤りをとを考えてしまいます。</p>	<p>外旭川地区のまちづくりは、卸売市場再整備、官民連携で行う新スタジアム整備および民間施設の整備と、先端技術を活用した様々な取組を一体的に行うことで、「人口減少下にあっても持続可能な社会基盤の構築」と「交流人口の拡大による新しい活力や魅力づくり」を目指すものです。 外旭川地区は、泉外旭川駅の開業、秋田北インターチェンジや秋田港への近接、都市計画道路泉外旭川線の整備など、交通・物流機能に優れた地域性を有することに加え、卸売市場と新スタジアム、民間施設を活用した地域活性化が見込めることなどから、現卸売市場とその周辺をモデル地区の範囲としたものです。</p>
40	<p>秋田市はこれまで「コンパクトシティ」に取り組んできましたが、本基本構想はコンパクトシティの考え方に反するものであり、この基本構想で1章に掲げるまちづくりの目的を達成することはできません。 1章の(1)に書かれている通り、本市においては人口減少が進行しています。その状況において外旭川地区で新スタジアムや観光コンテンツの提供、ショッピング空間の形成を行って「新たなにぎわいの創出」を図れば、人口が減少していく本市の人出を外旭川地区が吸収することになります。その結果、中心市街地からは人出がなくなり、中心市街地の衰退が加速します。このことにより、秋田県立美術館、にぎわい広場、にぎわい交流館AU、あきた芸術劇場ミルハスなどを建設し、中心市街地における交流人口拡大やにぎわいの創出のために投資を行った効果が失われ、多額の公費支出が無駄になります。 これは上位計画である「県都『あきた』創生プラン基本構想」にある「中心市街地の活性化やコンパクトな市街地形成などに取り組む」という基本理念、将来都市像とまったく反する取組です。 中心市街地から人出が消え去り、中心市街地が衰退した都市は、1章(2)でまちづくりの目的として掲げている『若者が将来に希望を持ち、「これからをこのまちで暮らしていきたい」と感じられるような魅力あるまち』とは程遠いものです。したがって、この基本構想によって1章に掲げる「まちづくりの目的」を達成することは不可能です。</p>	<p>外旭川地区のまちづくりは、本市がこれまで取り組んできた多核集約型コンパクトシティの考え方を基本としつつ、将来のまちづくりを見据え、行政だけでは実現できない、民間事業者の知見やノウハウを活用したまちづくりを行うものであり、多核集約型コンパクトシティを補完するモデル地区と位置付けるものであります。 このモデル地区では、AIやICTなどの技術を活用した先端的なサービスの導入により、本市が抱える課題の解決を他の地域に先駆けて行い、この実証的な取組で得られた成果を他の地域にも波及させることで、全市をより充実発展させてまいりたいと考えております。いただいたご意見については、今後の参考とさせていただきます。</p>

41	<p>外旭川地区にモデル地区を整備する理由のうち、ウのスタジアムの記載は削除する必要があると考えます。スタジアムの建設予定地の外旭川地区は、いまだ候補地の一つであり、整備することが正式に決定した事実はなく、八橋地区への整備についての意見も根強くあります。このような曖昧な状況でモデル地区を整備する理由にスタジアム整備を位置付けるのは時期尚早で不適切です。</p>	<p>令和2年2月に秋田県と秋田市が取りまとめた「新スタジアム整備に向けた諸課題の調査・研究について（最終報告）」では、八橋運動公園を含む3つの候補地のいずれも課題があるとされたため、候補地については市が選定し、その後、県等と整備に向けた協議を行うとされています。このような経緯の中で、本市としては、モデル地区を検討している外旭川地区において、卸売市場と新スタジアム、民間施設を一体的に整備することで得られる相乗効果をまちづくりに生かすとの考えから、同地区を新スタジアムの候補地とし、県にも報告しております。</p>
42	<p>令和元年、20代から30代の男女を対象に秋田市が行った調査で本誌に住み続けるとために必要なもの。 1、 娯楽施設の増設。 2、 お店。 3、 レジャー施設。 4、 商業施設。 5、 遊び場。 6、 イベントの開催 とあります。 現状の秋田市中心地を否定するわけではないが、有料駐車場しかない中心地では、上記の「必要なもの」を具現化していくのは、ほぼ無理だと思われませんか？ 相当数の駐車スペースがまず確保され、その上で半日でも1日でも遊べる時間を過ごすことができる新しい都市空間の新設は必要だと思われる。 また、人口減少に対しては、新しい職場の創出が課題であると考えています。多様な業種、さまざまな選択肢があってこそ、人がそこに集い、生活が成り立ってゆくと思われまます。 さらには、人口を増やしていくために、秋田の素晴らしさを観光に繋げ、秋田県に関心を持って”何かに挑戦したい”という人たちにアプローチし、関係人口の増加につとめ、積極的に県内外、そして世界に発信していくことを望みます。そしてそこから秋田への定住につなげていきたい。まずは、秋田に関心を持って何かに取り組みたいという人たちのような関係人口を増やすことだと思います。 「まちづくりの目的」とは”街”即ち”人が集まる所”です。</p>	<p>本市が目指す持続可能な社会基盤とは、安定した仕事や収入、防災等の安全安心、子育てしやすい環境、健康長寿、充実した公共交通、新しい日常を支える先端技術など、人口減少下にあっても日々の暮らしを支えるしっかりとした土台のことであり、これらを安定的に確保していくことが、人口減少や少子高齢化社会において重要であると考えています。 モデル地区は、「人口減少下にあっても持続可能な社会基盤の構築」と「交流人口の拡大による新しい活力や魅力づくり」を目的としており、若い世代のニーズも踏まえて取組を検討してまいります。いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます。</p>
43	<p>ここに書かれている内容についてはその通りですと思わせる内容で共感・理解できる。 事業パートナーの選定についても各委員等が評定した点数により明確化しているのが納得できる。 P3(4)についてはぼんやりとしか理解できませんが納得できます。</p>	<p>外旭川地区のまちづくりは、卸売市場再整備、官民連携で行う新スタジアム整備および民間施設の整備と、先端技術を活用した様々な取組を一体的に行うことで、「人口減少下にあっても持続可能な社会基盤の構築」と「交流人口の拡大による新しい活力や魅力づくり」を目指すものです。 事業パートナー選定プロポーザルでは、外部委員を含む審査委員会を開催し、最優秀提案者を選んだものであり、現在、事業パートナーとなった最優秀提案者とともに協議を進めているところです。 P3(4)は、令和3年に策定した総合計画、総合都市計画の中に外旭川地区のまちづくりがどのように位置付けられているのかを整理したものです。</p>
44	<p>今更なのですが、卸売市場を中心にその周辺と考えている。そもそも卸売市場は一般市民には利用性がない所。本市の課題解決（人口減少・少子高齢化の進行）に卸売市場を位置づけたのか今だに納得・理解出来ません。</p>	<p>通常、卸売市場は一般の利用はできませんが、場外市場を設置し新鮮な食材を提供したり、現在も行っている市場開放デーや市場まつりなどのイベントを民間施設等と連携することで、にぎわいの創出を図っていきたくと考えております。また、卸売市場は、市民に安全で安心な食料を安定的に届ける重要な役割を担う施設であり、人口減少が進む本県においては、県内の農作物を広く県外に向けて出荷する拠点市場として、本県の経済の活性化に寄与していきたくと考えております。</p>
45	<p>以前からニュースを見て楽しみにしている計画です。 卸売市場の再整備が最も中心となると思っていましたが、新スタジアムの建設や新しい商業施設の設置など、北部地域の者としては、地域の活性化につながる期待をもって見守っていきたくと思います。</p>	<p>外旭川地区のまちづくりは、卸売市場再整備、官民連携で行う新スタジアム整備および民間施設の整備と、先端技術を活用した様々な取組を一体的に行うことで、「人口減少下にあっても持続可能な社会基盤の構築」と「交流人口の拡大による新しい活力や魅力づくり」を目指すものです。このモデル地区では、AIやICTなどの技術を活用した先端的なサービスの導入により、本市が抱える課題の解決を他の地域に先駆けて行い、この実証的な取組で得られた成果を他の地域にも波及させることで、全市をより充実発展させてまいりたいと考えております。</p>
46	<p>人口減少に伴うと共に、少子高齢化が進む、団塊世代の定年退職と、やりがい無くした団塊世代の認知症や、生活習慣病の増大が懸念されていることから、統合医療（自然農法/農医連携/食育・芸術活動/ホスピタルアート）を据えた、小さな地域が支え合う、心身共に健康なストレスの少ないコミュニティづくりが大切であると考えます。</p>	<p>本市が目指す持続可能な社会基盤とは、安定した仕事や収入、防災等の安全安心、子育てしやすい環境、健康長寿、充実した公共交通、新しい日常を支える先端技術など、人口減少下にあっても日々の暮らしを支えるしっかりとした土台のことであり、これらを安定的に確保していくことが、人口減少や少子高齢化社会において重要であると考えています。 モデル地区は、「人口減少下にあっても持続可能な社会基盤の構築」と「交流人口の拡大による新しい活力や魅力づくり」を目的としており、若い世代のニーズも踏まえて取組を検討してまいります。いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます。</p>
47	<p>市民の想定をはるかに上回る加速度で少子高齢化が進行している昨今、この基本構想は現在の課題解決につながりうる契機であると捉えるので歓迎したい。「まちづくり」や「モデル整備」といった抽象的で大局的な構想ではなく、より実現性が高く、具体案を細かく策定し実行に移していただくことを期待したい。若者の県外流出を食い止め、かつ秋田定住を促すために、プロスポーツチームの専用スタジアム造成はたいへん意義のあることであると考えます。</p>	<p>人口減少・少子高齢化は本市の最重要課題と認識しており、このまちづくりが、若者が将来に希望を持ち、「これからをこのまちで暮らしていきたい」と感じられるような魅力あるまちとなることを目指してまいります。 具体性については、現在事業パートナー等と協議をしており、このまちづくりのモデル地区が実現性の高いものとなるよう検討してまいります。 外旭川地区のまちづくりでは、卸売市場再整備、官民連携で行う新スタジアム整備および民間施設の整備と、先端技術を活用した様々な取組を一体的に行うことで、「人口減少下にあっても持続可能な社会基盤の構築」と「交流人口の拡大による新しい活力や魅力づくり」を目指すまいります。</p>
48	<p>少子高齢化、人口減少は秋田市のみならず、全国的な喫緊の課題であり、持続可能な社会基盤の構築は絶対的に目指し実現しなければならない。その為のモデル地区として、類似的な構想ではなく、世界に先立つ先進的な日本を代表する、これぞ秋田という地域の特徴を存分に活かしたモデル地区として欲しい。</p>	<p>人口減少・少子高齢化は本市の最重要課題と認識しております。このまちづくりが、若者が将来に希望を持ち、「これからをこのまちで暮らしていきたい」と感じられるような魅力あるまちとなることを目指してまいります。 また、事業パートナーからも「秋田ならではのものを」との意見もいただいております。今後協議を進めてまいります。</p>

49	<p>P2 「得られた成果を全市に波及させる」としていることについて 疑問：①(3)ア、イ、ウにあるような好条件のもとで得られた成果が、果たして全市に機械的に当てはめることが可能なのか大いに疑問。全市と同じような条件はない。 ②何をもち「成果」と評価するのか不明。市民によく分かるように示すべき。</p>	<p>モデル地区では、AIやICTなどの技術を活用した先端的なサービスの導入により、本市が抱える課題の解決を他の地域に先駆けて行い、この実証的な取組で得られた成果を他の地域にも波及させることで、全市をより充実発展させてまいりたいと考えております。また、波及させる成果についても、取組そのものを広めるだけでなく、そこで実証された官民連携と民間事業者のノウハウの活用方法なども波及させていく考えであります。</p>
50	<p>一市民としては「魅力あるまちづくり」を願うものですが「(案)」を見ると、卸売市場再整備を除き、長年にわたって周辺地域の地権者と賃貸借契約(予約)の締結や同意を得てきた事業パートナーの開発構想を前提とし、特に格段の人口増加や必要性も見込めない地域において「地域未来投資促進法」による特例措置を用いるために既存の施設や中心地域でも行える「新規事業」を詰め込んだ感が否めません。また若者定着のための娯楽施設等とのことですが、低賃金の秋田の若者がこれを享受する「経済的余裕」と子育てをはじめとする「暮らし」の支援の方が最優先の必要不可欠な条件と思えます。現に経済的余裕があり娯楽施設大好きな子たちは中途半端な地元の施設があったとしても、初めから外資が入った大型施設に年に何回も行くのではないのでしょうか。</p>	<p>モデル地区は、先端技術を活用した取組を連携させ、一体的に取り組むことで、市が抱える課題の解決を図り、持続可能な社会基盤の構築を目指すものであり、民間事業者とハード・ソフト両面で協働することで、新たな魅力や価値を創出できる実証の場としたいと考えております。また、波及させる成果については、取組そのものを広めるだけでなく、そこで実証された官民連携と民間事業者のノウハウの活用方法なども波及させていく考えであります。また、人口減少・少子高齢化は本市の最重要課題と認識しており、外旭川地区のまちづくりでは、雇用の場の確保に加え、スポーツこども園や放課後児童施設といった子育て環境充実の分野での提案も受けており、その具体について事業パートナーと協議を進めております。</p>
51	<p>秋田の外旭川まちづくりプロジェクトは、秋田県の将来、未来がかかっていると思います。オール秋田、秋田一体で取り組んで頂きたいです。</p> <p>最も強く要望したいのは、洋上風力事業と洋上観光の核となる土崎港を中身とした日本海と、秋田市の霊山である太平山をつなぐ旭川などの自然と歴史、民俗文化、地域芸能、祭り、そして農林水産業や医療看護介護との農業医療福祉連携などを外旭川まちづくりと一体的同時並行にすすめてほしいことです。今までの高質な田舎では衰退は止められない。佐竹路線をあらため、秋田外旭川からシン・イナカの農山村自然共生モデルケースを目指してほしいです。</p> <p>AI、ロボット、クローン、6GデジタルのDX一辺倒の再開発計画なら、トヨタオープンシティや東京大阪仙台など大都会を模倣するだけで、地方の衰退は今と変わらず、さらに酷い状況になると思います。</p> <p>秋田市や外旭川の自然と文化の歴史や民俗をゼロから学び直し、外旭川まちづくりに反映していく取り組みを期待したい。それは、秋田の大学生など若人と、古老の知恵知識をつなぎ温故知新と温故創新で、希望あふれる楽しい秋田を共創してほしい。</p>	<p>外旭川地区のまちづくりは、卸売市場再整備、官民連携で行う新スタジアム整備および民間施設の整備と、先端技術を活用した様々な取組を一体的に行うことで、「人口減少下にあっても持続可能な社会基盤の構築」と「交流人口の拡大による新しい活力や魅力づくり」を目指すものです。いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます。</p>
52	<p>卸売市場の再整備と、新スタジアムを活用した地域活性化の可能性に期待をしたいと想う。</p>	<p>外旭川地区のまちづくりは、卸売市場再整備、官民連携で行う新スタジアム整備および民間施設の整備と、先端技術を活用した様々な取組を一体的に行うことで、「人口減少下にあっても持続可能な社会基盤の構築」と「交流人口の拡大による新しい活力や魅力づくり」を目指すものです。引き続き外旭川地区まちづくりの実現に向け取り組んでまいります。</p>
53	<p>住宅地であり、広い土地を確保できる外旭川地区にイオンタウンが建つのはわかりますし、卸売市場の建て替えも理解できます。そこに市がまちづくりとして係わるのがよくわかりません。</p>	<p>外旭川地区のまちづくりは、本市がこれまで取り組んできた多核集約型コンパクトシティの考え方を基本としつつ、将来のまちづくりを見据え、行政だけでは実現できない、民間事業者の知見やノウハウを活用したまちづくりを行うものであり、多核集約型コンパクトシティを補完するモデル地区と位置付けるものであります。このモデル地区では、AIやICTなどの技術を活用した先端的なサービスの導入により、本市が抱える課題の解決を他の地域に先駆けて行い、この実証的な取組で得られた成果を他の地域にも波及させることで、全市をより充実発展させてまいりたいと考えております。</p>
54	<p>卸売市場は、老朽化によるリプレースであり必要と考える。 新スタジアムについては、県内の既存の球技場には課題が多いため、新規格の別個のスタジアムが必要と考える。 民間施設に関しては、目的、必要性を慎重に吟味して、現在ある既設施設と類似しないように、共倒れなど起こさないように、施設の意義や内容を十分に検討し、計画していただきたい。</p>	<p>卸売市場は、市民に安全で安心な食料を安定的に届ける重要な役割を担う施設であります。加えて、人口減少が進む本県においては、本市場が担う役割はさらに重要になると考えております。また、再整備については、これまで、市場内事業者などと十分な検討を行ってきております。 新スタジアムについては、その規模や多用途での活用方策、民間施設等との相乗効果を生み出す取組などについて、引き続き県や関係者と十分に協議するとともに、県民・市民の理解が得られるよう丁寧に説明してまいります。 民間事業者が整備する観光・集客施設の一つとしての体験・参加型施設の提案については、若者を対象に行った意識調査の結果を踏まえたものと捉えておりますが、これまでの施設とすみ分けを図る必要があると考えており、その内容についても十分に検討してまいります。</p>
55	<p>具体的な目標を設定し定期的に効果や評価を確認公表し意見を公募するような仕組みを作ることが必要だと思う。 中途半端なAIやICTの活用(例えば単に民間企業へ企画から活用まで委託)ではなく、どのように活用するのか企画段階から市民へ構想の説明や意見公募なりして費用対効果の事前目標と実施結果の定期的な検証をするべきだと思う。 若者から意見を聞き取り組む仕組みづくりを考えて実施して欲しい。また、その取り組みが具体的な地域産業の振興と新たな雇用へ結び付けられる方法を考えて欲しい。</p>	<p>具体的な目標や指標を設定し、定期的な検証を行っていくことは必要であるとと考えております。今後、モデル地区で行う取組や得られる成果の具体化を図る過程において、検証のあり方についても検討してまいります。</p>

56	イオンのショッピングモールの進出計画が、卸売市場の再整備とスタジアム移転計画を入れて、いつの間にか大きくなったイメージで、卸売市場以外、外旭川でやる必然性がはっきりしない。かえって御所野、駅周辺と人の流れが分散してしまう。	外旭川地区のまちづくりは、卸売市場再整備、官民連携で行う新スタジアム整備および民間施設の整備と、先端技術を活用した様々な取組を一体的に行うことで、「人口減少下にあっても持続可能な社会基盤の構築」と「交流人口の拡大による新しい活力や魅力づくり」を目指すものです。モデル地区は、各施設の連携に加え、先端技術を活用した様々な取組を連携させながら行うことで、市が抱える課題の解決や持続可能な社会基盤の構築に向けた実証の場とするものであります。モデル地区で得られた成果については、取組そのものを広めるだけでなく、そこで実証された官民連携と民間事業者のノウハウの活用方法なども波及させていく考えであります。また、外旭川地区は、泉外旭川駅の開業、秋田北インターチェンジや秋田港への近接、都市計画道路泉外旭川線の整備など、交通・物流機能に優れた地域性を有することに加え、卸売市場と新スタジアム、民間施設を活用した地域活性化が見込めることなどから、現卸売市場とその周辺をモデル地区の範囲としたものです。
57	創生プランでも最重要課題として人口減少対策と位置づけられておりますが、現状の秋田県・秋田市は砂時計の砂が予想をはるかに越えるスピードで落下するように人口減少が進んでおります。本構想は雇用の場を造り、若者の県外流出の歯止め、又県外・国外からのお客様の誘致等、秋田市が抱える問題の解決策を網羅しておる構想と期待している。	ご指摘のとおり、人口減少・少子高齢化が最重要課題であると認識しております。外旭川地区のまちづくりでは、雇用の場の確保に加え、若者の起業支援などの取組を進めていきたいと考えており、このまちづくりが、若者が将来に希望を持ち、「これからをこのまちで暮らしていきたい」と感じられるような魅力あるまちとなることを目指してまいります。
58	目的は背景にある人口減少。少子高齢化は様々な分野に、多大なる影響があることから、このまちづくりは、本市にとって千載一遇のチャンスと捉え、事業パートナーの様々な経験・知見を借り、早急に進めるべきと考える。10代の若者に対しても骨子を分かりやすく説明して、パブリックコメントを実施していただきたかった。10代の方々が暮らす秋田市である。	本基本構想に対してご助言やご提言をいただく外旭川地区まちづくり懇話会では、大学生にも委員として就任いただき、若い世代の観点からご意見をいただいているところです。「人口減少下にあっても持続可能な社会基盤の構築」と「交流人口の拡大による新しい活力や魅力づくりの実現」に向け、引き続き取り組んでまいります。
59	町づくりは理解できます。しかし、コンパクトシティ（秋田市）とは合致しないと思うので、どのように区別するか、考えたほうが良いと思う。	外旭川地区のまちづくりは、本市がこれまで取り組んできた多核集約型コンパクトシティの考え方を基本としつつ、将来のまちづくりを見据え、行政だけでは実現できない、民間事業者の知見やノウハウを活用したまちづくりを行うものであり、多核集約型コンパクトシティを補完するモデル地区と位置付けるものであります。このモデル地区では、AIやICTなどの技術を活用した先進的なサービスの導入により、本市が抱える課題の解決を他の地域に先駆けて行い、この実証的な取組で得られた成果を他の地域にも波及させることで、全市をより充実発展させてまいりたいと考えております。
60	人口減少・高齢化なので、とても良いと思います。	「人口減少下にあっても持続可能な社会基盤の構築」と「交流人口の拡大による新しい活力や魅力づくり」の実現に向け、引き続き取り組んでまいります。
61	資料を拝見しまして魅力あるまちづくりの構想は外旭川地区に限定されますが今後の市全体への経済波及効果に期待しつつ活性化を図りたいという主旨に極力賛同していきたいと思う次第であります。個人的意見で率直に受け取っていただければ幸いです。感想程度で恐縮です。	「人口減少下にあっても持続可能な社会基盤の構築」と「交流人口の拡大による新しい活力や魅力づくり」の実現に向け、引き続き取り組んでまいります。
62	○SDGs的視点を含める目的になってほしい。外旭川地区のまちづくりから地域経済を盛り上げたい内容なのは理解できますが、それがうまくいかも未知数、さらにイオンモールのような大型商業施設ができると近隣中小商業店舗は事業撤退をよぎなくされる恐れもあるため、現在の案では地域住民から快い賛成は得られないように感じます。ただ外旭川地区を中心としたイオンモール、卸売市場、スタジアム等だけの成功を考えるのではなく、それらの中心施設にSDGs的な視点を加え、基本構想を組み立てていくことで、希望に満ちた理想的な街づくりに近づき、市民の賛成を得られるのではないのでしょうか？（3章に詳しく明記）	外旭川地区のまちづくりは、人口減少下にあっても持続可能な社会基盤の構築を目指す取組であり、ご意見のSDGsとその目指す方向性は同じものと認識しております。いただいたご意見は、「人口減少下にあっても持続可能な社会基盤の構築」と「交流人口の拡大による新しい活力や魅力づくり」の実現に向け、具体的な検討を進める中で、参考にさせていただきます。

○2章 モデル地区として検討する範囲

No.	意見	意見に対する市の考え方
1	<p>泉外旭川駅付近（徒歩5分～10分圏内）で作るのかと思いきや、かなり離れている。 新スタジアムは土日は試合があるとして、平日はどうなのでしょう？ 学生・部活に利用させるのですか？ 広い駐車場を作っても土日以外はガラーンでしょう。（無駄）</p>	<p>交通アクセスについては、自動運転によるオンデマンドPMVやオンデマンドシャトルバスの提案を受けているところであり、本市で進めている公共交通網の再編に向けた検討とも調整を図り、利便性の確保に向けた検討を進めてまいります。 新スタジアムについては、その規模や多用途での活用方策、民間施設等との相乗効果を生み出す取組などについて、引き続き県や関係者と十分に協議するとともに、県民・市民の理解が得られるよう丁寧に説明してまいります。</p>
2	<p>昨今の状況を鑑みても、地震や災害に強く企業立地という面においても魅力的であるということ全国に発信して行ってほしい。</p>	<p>いただいたご意見は、企業誘致の部署に申し伝えます。</p>
3	<p>モデル地区についてもっと拡大してほしい。</p>	<p>モデル地区の範囲については、事業パートナーとも協議を進めているところですが、最終的には、必要な取組等を踏まえて市が決定します。</p>
4	<p>・卸売市場は大変魅力的なアイテム。若い人を呼び込む突破口となりうる。 ・スタジアム、ショッピングセンターについても今までにない秋田市モデルとして全国に発信できるようなものにして欲しい。</p>	<p>外旭川地区のまちづくりは、卸売市場再整備、官民連携で行う新スタジアム整備および民間施設の整備と、先端技術を活用した様々な取組を一体的に行うことで、「人口減少下にあっても持続可能な社会基盤の構築」と「交流人口の拡大による新しい活力や魅力づくり」を目指すものです。 また、民間事業者が整備する観光・集客施設の一つとして、体験・参加型施設の提案を受けているところであり、今後、その機能について事業パートナーと協議してまいります。</p>
5	<p>・地権者の状況で地権者との賃貸借契約等、協力する旨の回答を得ているという状況ですが、間違いないことでしょうか？ また、仮に協力できない状況が出て来た場合の対応はどうなるのでしょうか。</p>	<p>事業パートナーからは、範囲内の地権者から協力を得られるとの提案を受けておりますが、仮に、状況に変化が生じた場合には、状況に応じた対応を検討することになると考えております。</p>
6	<p>卸売市場を中心とし、農業促進地域の法的な問題はあろうと思うが、現状を範囲で取り組み、今後は北側の農地についてもベンチャー企業の誘致や工場誘致、サステナブル企業を誘致するなど拡張性を考えながら取り組むことが重要だと考えます。</p>	<p>現時点において、モデル地区の範囲を北側農地まで拡大していくことは想定しておりません。</p>
7	<p>・卸売市場の取扱高は年々減少しており、市場の建替の是非は慎重に検討すべき。 ・市街化調整区域にショッピング・モールを作ることは大反対である。</p>	<p>卸売市場は、市民に安全で安心な食料を安定的に届ける重要な役割を担う施設であります。加えて、人口減少が進む本県においては、本市場が担う役割はさらに重要になると考えております。また、再整備については、これまで、市場内事業者などと十分な検討を行ってきております。 民間事業者が整備する観光・集客施設の一つとして提案された体験・参加型施設については、若者を対象に行った意識調査の結果を踏まえたものと捉えておりますが、これまでの施設とすみ分けを図る必要があると考えており、その内容についても十分に検討してまいります。</p>
8	<p>地権者の同意を得やすい地域であったイメージが一番に感じるようです。</p>	<p>外旭川地区は、泉外旭川駅の開業、秋田北インターチェンジや秋田港への近接、都市計画道路泉外旭川線の整備など、交通・物流機能に優れた地域性を有することに加え、卸売市場と新スタジアム、民間施設を活用した地域活性化が見込めることなどから、現卸売市場とその周辺をモデル地区の範囲としたものです。</p>
9	<p>中央卸売市場を現在地に建替えることに決まったが、建設後の敷地面積が3分の1になることについては何も触れられていない。建設された昭和50年当時は、周りに何もなかったのが問題にはならなかったのだろうが、建替えが予定されている場所は50年後には外旭川地区の中心地になっているだろうことを誰も想定しなかったのだろうか？ あまりにも安直な考えに驚いている。 3分の1の面積なら、横山金足線の北側に建設した方が現在よりも遥かにアクセスが良くなることは言うまでもない。 将来の外旭川地区の中心市街地に卸売市場がポツンとあるのは邪魔に思われるだけである。移設が望ましい。</p>	<p>再整備後の卸売市場の施設規模（延床面積）については、農林水産省の基準をもとに令和元年度の取扱数量から概算し、現状の概ね3分の2程度を目安に検討を進めておりますが、現時点では確定しておりません。 再整備場所の候補地を現卸売市場敷地内としたことについては、市有地であり土地の取得や賃借が不要であること、土地の造成が不要であることなどの理由に加え、市場内事業者の意向を踏まえて決定したものです。 また、外旭川地区のまちづくりは、卸売市場再整備、官民連携で行う新スタジアム整備および民間施設の整備と、先端技術を活用した様々な取組を一体的に行うことで、「人口減少下にあっても持続可能な社会基盤の構築」と「交流人口の拡大による新しい活力や魅力づくり」を目指すものであり、卸売市場は本事業における重要な要素の一つと捉えております。</p>
10	<p>市街化調整区域を変更してまで実施しなければならない事業なのか疑問に思いました。どの地域も空洞化が進んでいます。この地域が空洞化しないようなまちづくりを目指して欲しいです。</p>	<p>外旭川地区は、泉外旭川駅の開業、秋田北インターチェンジや秋田港への近接、都市計画道路泉外旭川線の整備など、交通・物流機能に優れた地域性を有することに加え、卸売市場と新スタジアム、民間施設を活用した地域活性化が見込めることなどから、現卸売市場とその周辺をモデル地区の範囲としたものであり、卸売市場と新スタジアム、民間施設を一体的に整備することで、にぎわいの創出等における相乗効果が得られるものと考えております。 また、民間事業者が整備する観光・集客施設の一つとしての体験・参加型施設の提案は、若者を対象に行った意識調査の結果を踏まえたものと捉えておりますが、これまでの施設とすみ分けを図る必要があると考えており、その内容についても十分に検討してまいります。</p>
11	<p>モデル地区として検討する範囲としては良いと思う。</p>	<p>「人口減少下にあっても持続可能な社会基盤の構築」と「交流人口の拡大による新しい活力や魅力づくり」の実現に向け、引き続き取り組んでまいります。</p>
12	<p>秋田市のいろんなところからアクセスできるので良いと思いますが、勝平に住んでいる身としては、車を使わないとしたら駅が徒歩圏にないので秋田駅もしくは市役所とかから出てるバスなどに乗って行くことになると思うので、ちょっと面倒かも。</p>	<p>交通アクセスについては、自動運転によるオンデマンドPMVやオンデマンドシャトルバスの提案を受けているところであり、本市で進めている公共交通網の再編に向けた検討とも調整を図り、利便性の確保に向けた検討を進めてまいります。</p>
13	<p>この計画を進める上で、この地区は最適と考えます。商業施設も予定されておりますが、近くの現存するスーパーや商店への悪影響はどのように考えておられるのでしょうか。</p>	<p>近隣の商業施設等との回遊性を高めるイベントの実施など、市を盛り上げる取組を通じて、周辺の既存商業者とモデル地区との相乗効果を創出してまいりたいと考えております。</p>
14	<p>農地をつぶすので、米の生産の穴埋めと、農作物の環境変化に留意すべきかと思う（量と質を著しく落とすことのないよう）。</p>	<p>外旭川地区のまちづくりにおいては、周辺農地、本市農業への影響を考慮しながら検討を進めてまいります。</p>

15	<ul style="list-style-type: none"> ・「金足線」が主要な道路となり、便利ではある。 ・秋田駅周辺からのアプローチの整備が重要。例えば、循環バスなどの整備。 	<p>交通アクセスについては、自動運転によるオンデマンドPMVやオンデマンドシャトルバスの提案を受けているところであり、本市で進めている公共交通網の再編に向けた検討とも調整を図り、利便性の確保に向けた検討を進めてまいります。</p>
16	卸売市場の更新に特化して考えるべきである。	<p>外旭川地区のまちづくりは、卸売市場再整備、官民連携で行う新スタジアム整備および民間施設の整備と、先端技術を活用した様々な取組を一体的に行うことで、「人口減少下にあっても持続可能な社会基盤の構築」と「交流人口の拡大による新しい活力や魅力づくり」を目指すものです。そのため、卸売市場の再整備については、外旭川地区のまちづくりにおいて重要な要素の一つと捉えており、一体的に整備を進めたいと考えております。</p>
17	<p>モデル地区の範囲に対しての実際の施設の大きさ等がイメージできないので、この範囲が適当かはわからないが、モンテディオ山形やアルビレックス新潟のホーム戦後、周辺の道路は長時間渋滞がおきているので、駐車場の大きさや動線に関しては十分検討が必要だと思ふ。</p> <p>また、新潟の亀田のイオンモールはスタジアムと隣接しているわけではないが、週末はかなりの渋滞が起きているので、スタジアムとイオンを隣接して作るこの計画では、より一層の周辺道路の導線を考える必要があると思ふ。</p>	<p>モデル地区周辺の道路等のインフラ整備については、今後、事業が具体化される中で、各施設管理者と整備のあり方について検討してまいります。なお、道路については、交通解析等の調査を行ったうえで交通処理計画を策定し、必要な道路改良を行うことを想定しております。</p>
18	<p>新スタジアム、民間施設ともに「アクセスのしやすさ」が安定的な集客の要因の一つです。新スタジアムには市外、県外からの来客が多く訪れますので、ICが近いのは好印象ですが、併せて公共交通機関の充実も必須です。最寄りには泉外旭川駅がありますが、徒歩で30分はかかります。秋田駅、秋田空港からの臨時バス運行も含めて、来客の交通手段を真剣に検討するべきです。</p>	<p>交通アクセスについては、自動運転によるオンデマンドPMVやオンデマンドシャトルバスの提案を受けているところであり、本市で進めている公共交通網の再編に向けた検討とも調整を図り、利便性の確保に向けた検討を進めてまいります。</p>
19	<ul style="list-style-type: none"> ・どうしてこの地区をモデル地区とするのか、わかりやすく説明して頂きたいと思ふ。もともとコンパクトシティの構想から外れる、しかも市街化調整区域にある場所に、どうして無理矢理作ろうとするのかわかりません。コンパクトシティ構想はやめたのでしょうか。そうでなければ、イオン社の思惑に配慮したとしか思えません。 ・卸売市場は、現在の市所有地において再整備すべきですから、本モデル地区とは関係ないのではないですか。本構想に組み込む理由を明確にして頂きたいと思ふ。それとも、これを縮小してイオン社に提供するなどの思惑等でもあるのでしょうか。それがあれば、きちんと説明すべきであり、それがなければ、ここは明確に切り離して議論すべきだと思ふ。 	<p>外旭川地区のまちづくりは、本市がこれまで取り組んできた多核集約型コンパクトシティの考え方を基本としつつ、将来のまちづくりを見据え、行政だけでは実現できない、民間事業者の知見やノウハウを活用したまちづくりを行うものであり、多核集約型コンパクトシティを補完するモデル地区と位置付けるものであります。外旭川地区は、泉外旭川駅の開業、秋田北インターチェンジや秋田港への近接、都市計画道路泉外旭川線の整備など、交通・物流機能に優れた地域性を有することに加え、卸売市場と新スタジアム、民間施設を活用した地域活性化が見込めることなどから、現卸売市場とその周辺をモデル地区の範囲としたものです。このモデル地区では、AIやICTなどの技術を活用した先端的なサービスの導入により、本市が抱える課題の解決を他の地域に先駆けて行い、この実証的な取組で得られた成果を他の地域にも波及させることで、全市をより充実発展させたいと考えております。</p> <p>再整備後の卸売市場の施設規模（延床面積）については、農林水産省の基準をもとに令和元年度の取扱数量から概算し、現状の概ね3分の2程度を目安に検討を進めておりますが、余剰地がどの程度になるのか、現時点では確定していないことから、余剰地が生じる場合の活用方法については、卸売市場再整備基本計画の中で検討することとしております。</p>
20	<p>長期間にわたっての賃料負担が生じる件について、事業収支の精緻なシミュレーションが実施されているのか、実施しているのであれば公表して頂きたい。</p>	<p>現在は、事業全体の規模や機能などを検討している段階であり、賃料負担が生じる部分の精緻な事業収支シミュレーションを行える状況ではありません。今後検討が進んだ段階で、仮に何らかの公共施設を整備するとした場合には、必要なシミュレーションを行いたいと考えております。</p>
21	<p>未整備の地域なので自由度があるのは本構想の大きなメリットだと思ふ。車社会でドアtoドアの文化が根深い秋田にとって広大な駐車場の確保は必須だと考えます。さらには、法的な課題はあるにせよ、周辺には農地が広がっているため将来的な拡張性を鑑みても最適地だと思ふ。懸念される中心市街地への影響については、一定のエリアにおける目的別（コンセプト別）に選択肢を増やすことは、多様化した社会の中で必要となっており、世代別に娯楽などの選択肢を増やすことは市民の豊かな生活を築くうえで重要です。</p>	<p>駐車場の確保については、施設の規模、配置等の検討の際に、必要な駐車スペースの確保についても検討してまいります。</p> <p>また、人口減少下にあっても、市外・県外からも人を呼び込めるまちづくりが必要であると考えておりますが、中心市街地や他地域の商業施設、商店街等との連携も重要であることから、事業パートナーにも中心市街地への影響や配慮についての考えを求めており、今後、既存商店街等との連携などについて、協議・検討してまいります。</p>
22	<p>市街化調整区域や農業振興区域を簡単に反故にして開発を行うことに疑問を持たない市政と議員に不信感を覚える。</p>	<p>外旭川地区は、泉外旭川駅の開業、秋田北インターチェンジや秋田港への近接、都市計画道路泉外旭川線の整備など、交通・物流機能に優れた地域性を有すること、卸売市場と新スタジアム、民間施設を活用した地域活性化が見込めることなどから、現卸売市場とその周辺をモデル地区の範囲としたものであります。</p> <p>モデル地区として検討している範囲は、土地利用上の制限がありますが、卸売市場と新スタジアム、民間施設を一体的に整備し、AIやICT等の先端技術を活用した取組などを行うことで、にぎわいの創出等における相乗効果が得られるものとの考えから、地域未来投資促進法の活用を視野に入れた検討を行っております。</p>
23	<p>民有地について、事業パートナーが地権者と交渉をして同意を得ているのであれば、あとは市街化調整区域を解除する方法を検討するだけだと思ふ。</p>	<p>モデル地区として検討している範囲は、土地利用上の制限がありますが、卸売市場と新スタジアム、民間施設を一体的に整備し、AIやICT等の先端技術を活用した取組などを行うことで、にぎわいの創出等における相乗効果が得られるものとの考えから、地域未来投資促進法の活用を視野に入れた検討を行っております。</p>
24	<p>若人も高齢者も住みやすい魅力ある町になってほしいと願っています。</p>	<p>「人口減少下にあっても持続可能な社会基盤の構築」と「交流人口の拡大による新しい活力や魅力づくり」の実現に向け、引き続き取り組んでまいります。</p>
25	<p>モデル地区として検討する場合、社会的モデルとして全国に発信できる体制が必要と思ふ。</p>	<p>外旭川地区のまちづくりが、社会的モデルとして全国に発信できる取組となるよう、モデル地区で行う取組の具体とその蓋然性、得られる効果等について、協議・検討を進めてまいります。</p>
26	<p>外旭川地区、特に農業に力を入れる事が大変重要と思われれます。若者の雇用魅力ある秋田の為にモデル地区として最適と思われれます。</p>	<p>モデル地区では、次世代型農業の普及促進、担い手の発掘等に関する取組も検討しております。いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます。</p>
27	<p>もう少し範囲を広めて、東北一のテーマパークなどを作ったらいいなと思ふ。</p>	<p>観光・集客施設は一定の必要性があると捉えていますが、現時点でテーマパークを整備することは想定していません。</p>

28	この範囲が適切であるかについてはよくわからないが、まちを構想するに当たって施設や新スタジアムなどの施設に必要な広さを検討した結果なので、うまく活用してほしいと思う。 インフラ整備と関係するが、横山金足線の道路の混雑が予想されるので、バイパスが必要になる可能性が高いのでは、と思った。	モデル地区周辺の道路等のインフラ整備については、今後、事業が具体化される中で、各施設管理者と整備のあり方について検討してまいります。なお、道路については、交通解析等の調査を行ったうえで交通処理計画を策定し、必要な道路改良を行うことを想定しております。
29	モデル地区は良いと思う。	「人口減少下にあっても持続可能な社会基盤の構築」と「交流人口の拡大による新しい活力や魅力づくり」の実現に向け、引き続き取り組んでまいります。
30	民有地の地権者と既に土地の賃貸借契約を結んでいる事業パートナーを市は選定（選定委員会の多くは市の職員であったと聞いている）したが、選定した立場の市が民有地の中で事業を行う民間事業者に対して市民や行政が望むまちづくりを要求できるのか、要求できるとすれば、どのように担保するのか示すべきである。	事業パートナーであるイオンタウン株式会社とは、令和4年5月に秋田市外旭川地区におけるまちづくり事業の推進に関する基本協定を締結し、その中で本事業を推進するため相互に連携して必要な協力をしていくことを確認しております。 なお、秋田市外旭川地区まちづくり事業パートナー選定プロポーザル審査委員会は、委員7名で構成されており、そのうち4名が外部委員となっています。
31	新規に作成する経済力と、それを償却する原資をフローに求める危うさを懸念します。 県都としての、駅周辺はこれまで以上に衰退するのではと懸念いたします。	外旭川地区のまちづくりは、本市がこれまで取り組んできた多核集約型コンパクトシティの考え方を基本としつつ、将来のまちづくりを見据え、行政だけでは実現できない、民間事業者の知見やノウハウを活用したまちづくりを行うものであり、多核集約型コンパクトシティを補完するモデル地区と位置付けるものであります。このモデル地区では、AIやICTなどの技術を活用した先端的なサービスの導入により、本市が抱える課題の解決を他の地域に先駆けて行い、この実証的な取組で得られた成果を他の地域にも波及させることで、全市をより充実発展させてまいりたいと考えております。 また、民間事業者が整備する観光・集客施設の一つとしての体験・参加型施設の提案は、若者を対象に行った意識調査の結果を踏まえたものと捉えておりますが、これまでの施設とすみ分けを図る必要があると考えており、その内容についても十分に検討してまいります。
32	1章に関する意見で述べた通り、この地区において「新たなにぎわいの創出」を行えば中心市街地の衰退が加速し、秋田市の魅力は失われます。仮に、この外旭川地区で魅力ある秋田市にふさわしいまちづくりを行うとすれば、「にぎわいの創出」とは切り離し、物流機能や次世代型農業など産業振興に特化するべきです。	外旭川地区のまちづくりは、本市がこれまで取り組んできた多核集約型コンパクトシティの考え方を基本としつつ、将来のまちづくりを見据え、行政だけでは実現できない、民間事業者の知見やノウハウを活用したまちづくりを行うものであり、多核集約型コンパクトシティを補完するモデル地区と位置付けるものであります。このモデル地区では、AIやICTなどの技術を活用した先端的なサービスの導入により、本市が抱える課題の解決を他の地域に先駆けて行い、この実証的な取組で得られた成果を他の地域にも波及させることで、全市をより充実発展させたいと考えております。いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます。
33	モデル地区の決定にあたっては、まずは中心市街地をはじめとしたコンパクトシティの核と位置付ける6地域とこのエリアを比較検証する記載が必要であると考えます。これまでの都市計画になかったものが唐突に明示されることは、市が既存の都市計画をないがしろにしているように感じられます。	外旭川地区は、7地域の核と同じ役割ではなく、他の地域、ひいては全市をより充実発展させる取組を行うモデル地区であり、「人口減少下にあっても持続可能な社会基盤の構築」と「交流人口の拡大による新しい活力や魅力づくり」を目指すものです。なお、このモデル地区の取組は、令和3年6月に策定した総合都市計画でも、地域別整備構想の中で「卸売市場およびその周辺では、広域型スポーツ施設の立地を含め、民間との協働による先端技術を活用したまちづくりのモデル地区について検討します」「モデル地区における、スマート農業などの産業分野と、観光、スポーツ、環境、防災などの分野の一体的な展開による将来的な土地利用の検討などにより、先端技術を活用した地域の活性化を目指します」と位置付けているものであります。
34	2章についても特に疑問を持つ内容ではない。民有地についても賃貸の協力（同意）を得ているので心配ないと思われるが所有者の心変わりがあるかどうか？	事業パートナーからは、範囲内の地権者から協力を得られるとの提案を受けておりますが、仮に、状況に変化が生じた場合には、状況に応じた対応を検討することになると考えております。
35	モデル地区の範囲が生活路で分断されている。卸売市場を入れたように思うが。現・金足線の交通量が増える事が懸念される。	モデル地区周辺の道路等のインフラ整備については、今後、事業が具体化される中で、各施設管理者と整備のあり方について検討してまいります。なお、道路については、交通解析等の調査を行ったうえで交通処理計画を策定し、必要な道路改良を行うことを想定しております。
36	地権者の状況から、経費の面も考慮しての区画と思うのでやむをえないと思いますが、横山金足線をはさんでの範囲となった時、交通量や冬期間の除雪や交通安全の面で現状と違う動線が考えられます。商業施設の計画が見えませんが。	モデル地区周辺の道路等のインフラ整備については、今後、事業が具体化される中で、各施設管理者と整備のあり方について検討してまいります。なお、道路については、交通解析等の調査を行ったうえで交通処理計画を策定し、必要な道路改良を行うことを想定しております。
37	コンパクトシティに向かう上でも、市内付近へのインフラはとても大切だと思います。更に、芸術ある街づくりから、観光の視点でもアピールできるのではないのでしょうか。世界遺産で岐阜県・白川郷のように、人の暮らしと文化が融合した日本文化ならではの居住スペース、宿泊施設も、今後は検討する事で、更に住みやすい環境になるのではないのでしょうか。	中心市街地の文化施設等との連携についても検討しているところであり、ご提案のあった芸術や文化、自然を生かしたまちづくりについては、モデル地区で行う取組の参考とさせていただきます。
38	モデル地区には秋田市中心卸売市場を含むとのことだが、この既存の物流拠点である市場と、隣接予定のスタジアムで実施されるプロスポーツ興業との相互の波及効果に期待したい。都市計画法、農業振興地域整備に関する法律への対応を迅速に進めて頂きたい。	外旭川地区のまちづくりは、卸売市場再整備、官民連携で行う新スタジアム整備および民間施設の整備と、先端技術を活用した様々な取組を一体的に行うことで、「人口減少下にあっても持続可能な社会基盤の構築」と「交流人口の拡大による新しい活力や魅力づくり」を目指すものです。 土地利用上の課題については、地域未来投資促進法の活用を第一に検討を進めてまいります。
39	卸売市場と新スタジアムを核に、範囲は当局とパートナーとなったイオンタウンに一任すべき。	外旭川地区のまちづくりは、卸売市場再整備、官民連携で行う新スタジアム整備および民間施設の整備と、先端技術を活用した様々な取組を一体的に行うことで、「人口減少下にあっても持続可能な社会基盤の構築」と「交流人口の拡大による新しい活力や魅力づくり」を目指すものです。 また、モデル地区の範囲については、事業パートナーとも協議を進めているところでありますが、最終的には、必要な取組等を踏まえて市が決定します。

40	この事業を進めるにあたって、広い範囲の土地の確保、交通アクセスなどから当該地域の選定となったようですが、前述の理由及び「インフラ整備」のところでも述べるように莫大な市民の税金を使って新たに商業施設を中心とした「まち」は必要ないと思います。	外旭川地区のまちづくりは、本市がこれまで取り組んできた多核集約型コンパクトシティの考え方を基本としつつ、将来のまちづくりを見据え、行政だけでは実現できない、民間事業者の知見やノウハウを活用したまちづくりを行うものであり、多核集約型コンパクトシティを補完するモデル地区と位置づけるものであります。このモデル地区で得られた成果等を他地域に波及させることで、全市をより充実発展させたいと考えております。また、波及させる成果については、取組そのものを広めるだけでなく、そこで実証された官民連携と民間事業者のノウハウの活用方法なども波及させていく考えであります。
41	法令に対応できるのであれば、対応してモデル地区として活用して良いと思う。	外旭川地区は、泉外旭川駅の開業、秋田北インターチェンジや秋田港への近接、都市計画道路泉外旭川線の整備など、交通・物流機能に優れた地域性を有すること、卸売市場と新スタジアム、民間施設を活用した地域活性化が見込めることなどから、現卸売市場とその周辺をモデル地区の範囲としたものです。現在モデル地区として検討している範囲は、土地利用上の制限がありますが、卸売市場と新スタジアム、民間施設を一体的に整備し、AIやICT等の先端技術を活用した取組を行うことで、にぎわい創出等における相乗効果が得られるものとの考えから、地域未来投資促進法の活用を視野に入れた検討を行っております。
42	卸売市場を含む範囲であり、北インターに近く、JR泉外旭川駅にも近く、アクセスも良いため立地に適していると感じる。	「人口減少下にあっても持続可能な社会基盤の構築」と「交流人口の拡大による新しい活力や魅力づくり」の実現に向け、引き続き取り組んでまいります。
43	現有施設の活用や諸アクセス手段からすると理解できるが、公共アクセス機能を充実しないと十分な活用が望めないと思う。卸売市場が再整備時期であることとモデル地区整備との関連について、具体的な効果をイメージできない。卸売市場を活用するものとして、例えば観光振興等を踏まえた場合、場外市場的なものをイメージされるが、既存の市民市場等との機能重複等により中途半端なものになってしまう懸念を感じる。	交通アクセスについては、自動運転によるオンデマンドPMVやオンデマンドシャトルバスの提案を受けているところであり、本市で進めている公共交通網の再編に向けた検討とも調整を図り、利便性の確保に向けた検討を進めてまいります。地域の振興に資する卸売市場の新たな活用や現卸売市場用地の更なる利活用の可能性があることに加え、新スタジアムを民間主導で整備をすることで、新たなにぎわいの創出や防災拠点としての活用が可能になると考えております。
44	横金線の両側にイオンの施設が来る形になるが、道路の両方向とも常に渋滞し、バイパスの意味がなくなりそう。計画の南側が住宅地に隣接する為、住む環境や交通環境が悪化しそうで。近くに住む私としては心配、横金線の北側の方を整備できないか？	モデル地区内の施設については、周辺的生活環境に与える影響に十分配慮し、その規模や配置を検討してまいります。また、モデル地区周辺の道路等のインフラ整備については、今後、事業が具体化される中で、各施設管理者と整備のあり方について検討してまいります。なお、道路については、交通解析等の調査を行ったうえで交通処理計画を策定し、必要な道路改良を行うことを想定しております。
45	秋田市がモデル地区として検討しておる511,000㎡の範囲と理解しております。卸売市場、イオン構想、多目的スタジアムを規模修正・縮小の無いよう進めていただくことを強く希望致します。	モデル地区の範囲については、事業パートナーとも協議を進めているところでありますが、最終的には、必要な取組などを踏まえて市が決定します。
46	モデル地区として検討する範囲は、現卸売市場を含む北側と認識している(511,000㎡)	モデル地区の範囲については、事業パートナーとも協議を進めているところでありますが、最終的には、必要な取組などを踏まえて市が決定します。
47	モデル地区として良いと思う。	「人口減少下にあっても持続可能な社会基盤の構築」と「交流人口の拡大による新しい活力や魅力づくり」の実現に向け、引き続き取り組んでまいります。
48	まちづくりのそれぞれの基本構想とても素晴らしいです。早く実現出来る事を願うばかりです。	「人口減少下にあっても持続可能な社会基盤の構築」と「交流人口の拡大による新しい活力や魅力づくり」の実現に向け、引き続き取り組んでまいります。
49	特段検討範囲につきまして意見するとすればですが、地域の方々や事業者の皆様にご理解していただいている場合隣接する田園は地権者の財産である為、法的に問題さえ無ければ事業として推進は可能ではないでしょうか。	「人口減少下にあっても持続可能な社会基盤の構築」と「交流人口の拡大による新しい活力や魅力づくり」の実現に向け、引き続き取り組んでまいります。
50	モデル地区の範囲としては妥当ではないかと思えます。示されている範囲で建設をはじめ、まちづくりが進み、成功すれば、おのずと地区の範囲は広がっていくと考えます。	「人口減少下にあっても持続可能な社会基盤の構築」と「交流人口の拡大による新しい活力や魅力づくり」の実現に向け、引き続き取り組んでまいります。

○3章 モデル地区における取組と目指す効果

No.	意見	意見に対する市の考え方
1	<p>秋田にはこれといった若者の魅力になるものが無いと思います。若者が都心部に出たい理由も秋田にはない魅力があるからだだと思います。東北で言うなら宮城県がそれに近いと思います。これからは若者も高齢者も秋田で永住できる、秋田で十分楽しめる環境にしてほしいです。自然も楽しめて、街中も県外に出向かなくても十分なレジャー施設、ショップなどを作ってほしいです。そのため、スタジアムは大歓迎です！</p> <p>外旭川地区は北インターにも近く利便性がとても良いと思います。県外からの集客も望める地域です。北東北にないショッピングモールをぜひご検討いただきたいです。個人的には、イケアやコストコ等一番近くて山形市や仙台市にあります。秋田県民も特にコストコなどは山形まで観光かねて買い物に出向いています。わざわざそこまで行く魅力があるからです。外旭川にコストコが来てくれたら秋田県民だけではなく隣県の青森県や岩手県の集客も望めることは間違い無いと思います。周りの知人友人からもよくコストコが秋田にあったらねえ、という話になります。これは一部にすぎないですが、小さな子供から大人まで1日中遊んで楽しめるレジャー施設もあればいいなと思います。昔仁別に「仁別レジャーランド」というジェットコースターなどのある遊園地がありました。そういう施設も秋田にあったらいいなと思います。少子化と騒がれていますが、若者の住みたくなる魅力のある街づくりをご検討ください。</p> <p>ちなみにうちの子供も高校卒業後に都心部に行きたいと言っております。秋田は行くところ何にもないと。悲しい。明るい秋田の街に期待しております。</p>	<p>モデル地区では「行政だけでは実現できない、民間事業者の知見やノウハウを活用したまちづくりを行う」との政策的判断のもと、事業パートナーとなったイオンタウン株式会社と実現に向けた協議を進めているところです。今後は、協力企業も加え、先端技術等を活用した様々な取組について詳細な検討を行い、若者が将来に希望を持ち、「これからこのまちで暮らしていきたい」と感じられるような魅力あるまちとなることを目指してまいります。</p> <p>いただいたご意見については、こうした取組の参考にしてまいります。</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> ・卸売市場 前も同じ場所にあり、建替えて新しくする分には何の異論もありません。 ・新スタジアム 「7つの取り組み」 2ゼロカーボン <p>を目指すのなら、この場所（外旭川地区）につくる意味は無い。 この場所は車でないと行けない場所。 それで、どうやってゼロカーボン実行するのですか？ 例えば、広島市民球場（MAZDA Zoom-Zoom スタジアム 広島）は広島駅から約800m・徒歩約10分です。 駅前にいると選手のレプリカユニフォームを着用した観客がゾロゾロとスタジアムに向かって歩いていて「あっ今日試合あるんだ」と感じます。ワクワク感・高揚感あります。活気がある！ 東北では楽天の球場までは仙台駅から結構距離あります。若い人なら徒歩20分程度で平気かと思いますが。 仙台駅でも試合の日にはユニフォームのファンをたくさん見ますね。 秋田にそれができるのでしょうか？秋田駅で？泉外旭川駅で？ ブラウブリッツにしてもハピネットにしても秋田県民・秋田市民のほとんどが興味がない。 ファンは、ほんの一部のみ。 それも水増しカウントだし（笑）。←自作自演して恥ずかしくないの??? 開幕前に競技場の除雪に参加した人数＝ファン数でしょう。131人 （参考：2022年2月26日） https://twitter.com/blaublitz_akita/status/1497370750499442688 入場無料サービスの日でも行かない。 自分の子どもがやってる部活の試合の方がまだ関心持てる。 この131人の為に新スタジアム作るより、もっと秋田県民・秋田市民に対してやることあるでしょう？</p>	<p>モデル地区における7つの取組の1つ「ゼロカーボン」については、地球温暖化防止、脱炭素社会の実現に向けた取組の一つとして、エリア内消費電力の再生可能エネルギー電気100%を目指そうとするものです。また、地域内の使用電力の見える化を図り、環境エネルギー教育の場としての活用も視野に入れ検討を進めているところです。加えて、来場する自動車から排出される温室効果ガス削減のため、EV等によるシャトルバスの運行や、公共交通機関を利用したアクセスの向上等についても検討してまいります。将来的には、このモデル地区で得られた成果を他地域にも波及させ、本市における脱炭素化を促進してまいりたいと考えております。</p> <p>基本構想は、外旭川地区まちづくりの基本的な方向性を定めるものであり、いただいたご意見については、今後の参考とさせていただきます。</p>
3	<p>デジタル化における高齢者の方々への浸透と還元が課題ではないでしょうか。若い世代は順応していくかもしれませんが…。 新スタジアムについても、スポーツ県秋田をもっとアピールして運営されていければ多世代の利用や移住の目的の1つになり有る気がします。</p>	<p>年齢をはじめ様々な要因による情報通信技術の利用の機会や活用の能力における格差、いわゆるデジタルデバイドの是正を図ることの重要性は認識しております。本市では、ICT等の利用に不安を感じる方への支援やデジタル活用支援員と連携した各種講座の実施も進めており、こうした取組と組み合わせながら、高齢者の方々への浸透を図りたいと考えております。</p> <p>いただいたご意見については、モデル地区のPR等において、参考にしてまいります。</p>
4	<p>若者が増加する為にもこの地域に大学の設置を求める。</p>	<p>外旭川地区のまちづくりは、卸売市場再整備、官民連携で行う新スタジアム整備および民間施設の整備と、先端技術を活用した様々な取組を一体的に行うことで、「人口減少下にあっても持続可能な社会基盤の構築」と「交流人口の拡大による新しい活力や魅力づくり」を目指すものであります。現段階では、モデル地区内に大学を設置することは考えておりません。</p>
5	<ul style="list-style-type: none"> ・車社会において、交通手段としては、やはり車が多いと思いますが、施設には十分な駐車場は整備できるのか。 ・秋田県の医療状況を見ると、充実した医療体制が求められるので、将来的に病院の設置をしては。 ・新スタジアムの建設にあたり、秋田ノーザンハピネットのホームタウンも立地しては。 ・交流人口だけでなく、近隣に住宅地を造成する構想は。 	<p>エリア内における施設の規模、配置等を検討していく中で適切な駐車スペースの確保について、関係者と協議してまいります。また、提案を受けているEVによるシャトルバスの運行や公共交通機関を利用したアクセスの向上、周辺の交通量増加への対応なども平行して進める必要があると考えております。</p> <p>いただいたご意見（病院の設置やノーザンハピネットのホームタウン等）については、今後の参考とさせていただきます。</p>
6	<p>様々な取り組みにおける優先順位が必要だと考えます。 その中でも広域防災拠点とエネルギーを中心としながら、すべての取り組みにDXを活用することが必要だと思います。 また、娯楽による若者が集う場所も重要ですが、産学官の連携した取り組みによる若者を活用した交流人口増加を目指すことも大事だと思います。（民間エネルギー研究施設を整備し若者にも入ってもらう）</p> <p>また、スタジアム整備による若者定着や交流人口の増加、観光への寄与、健康促進事業による保険料の削減など秋田市が抱える課題に対応できると思います。上記に対してもDXを活用することで先進事例のモデルケースにも必ずなります。</p>	<p>外旭川地区のまちづくりは、これまでにない新たな官民連携の取組として、AIやICTなどの先端技術の活用や、民間事業者の優れたノウハウと知見を生かした様々な取組により「人口減少下にあっても持続可能な社会基盤の構築」と「交流人口の拡大による新しい活力や魅力づくり」を目指すものであります。同時に、若い世代の人々が集まり、そこで交流が生まれ、新たな活動が創出されるような場にしたいと考えております。</p> <p>いただいたご意見については、今後の参考とさせていただきます。</p>

7	理解できない。絵に描いた餅のよう。	外旭川地区のまちづくりは、本市がこれまで取り組んできた多核集約型コンパクトシティの考え方を基本としつつ、将来のまちづくりを見据え、行政だけでは実現できない、民間事業者の知見やノウハウを活用したまちづくりを行うものであり、多核集約型コンパクトシティを補完するモデル地区と位置付けるものであります。このモデル地区では、AIやICTなどの技術を活用した先端的なサービスの導入により、本市が抱える課題の解決を他の地域に先駆けて行い、この実証的な取組で得られた成果を他の地域にも波及させることで、全市をより充実発展させてまいりたいと考えております。また、波及させる成果については、取組そのものを広めるだけでなく、そこで実証された官民連携と民間事業者のノウハウの活用方法なども波及させていく考えであります。今後も、市民の皆様のご理解を得られるよう丁寧に説明してまいります。
8	民間施設機能について（観光・集客施設） 観光・集客の施設として本当に魅力があるのか。 記載ある提案、施設概要に魅力を感じない。市民からの提案など対応可能か。 卸売市場再整備含め施設建設については、具体性を早急に示し、スピード感を持って進めてほしい。	モデル地区は、民間との協働によりAIやICTなどの先端技術を活用し、本市が抱える課題の解決を目指す場であり、様々な取組をとって新たな魅力や価値を創出する実証の場でもあります。観光分野においては、新スタジアムと連携した「アウェーツーリズム」や卸売市場と連携する「場外市場」など、3施設を一体的に整備することで得られる相乗効果を生かしたコンテンツなど、様々な角度から検討し同地区の魅力向上を図ってまいります。卸売市場の再整備については、現在策定中の「秋田市卸売市場再整備基本構想」において、再整備に向けた考え方を示すこととしております。
9	・新スタジアムではブラブリッツの平日夜の試合に仕事終わりに立ち寄り気軽に観戦することは難しい場所となり非常に残念です。 ・移動において自家用車に頼らない市民の利便性の確保がなければ利用できる世代が限定的になってしまうので公共交通ネットワークにとっても期待しています。	交通アクセスについては、自動運転によるオンデマンドPMVやオンデマンドシャトルバスの提案を受けているところであり、本市で進めている公共交通網の再編に向けた検討とも調整を図り、利便性の確保に向けた検討を進めてまいります。
10	開発が進むことやスタジアムなども必要なものとは理解しているが、利便性の悪さを感じる。秋田市の北部であり、あまり中心という意識をもてない。秋田市よりも潟上市など他の地域からの利用は増えるように感じ、不安を感じる。	交通アクセスについては、自動運転によるオンデマンドPMVやオンデマンドシャトルバスの提案を受けているところであり、本市で進めている公共交通網の再編に向けた検討とも調整を図り、利便性の確保に向けた検討を進めてまいります。
11	「住みやすい街」のイメージが全く湧かない。イオンが秋大と提携して医療体制が良くなることぐらいだろうか？ 高齢者のみならず、障害者にも配慮した街づくりでなければならない。車いすが通りにくく、視覚障害者がつまづく歩道ではどうしようもない。日本一積雪量が多い県庁所在地の青森市は、冬季の積雪を一時的に寄せておけるだけの歩道の幅がある。外旭川の生活道路である天徳寺通りをモデル地区と言える歩道を整備して欲しいものである。	モデル地区周辺の道路等のインフラ整備については、今後、事業が具体化される中で、各施設管理者と整備のあり方について検討してまいります。また、県道土崎港秋田線の歩道整備については、事業を所管する部署へ申し伝えます。
12	2つの視点については理解できました。しかし、7つの取り組みや具体例は課題の解決策として疑問な部分がありました。新スタジアムを防災施設拠点にする案はとても良いと思います。しかし、次世代医療についてはこのモデル地域で新たに実施せずとも現に実施出来ると思います。また、交流人口拡大の方策案は魅力を全く感じませんでした。	モデル地区では、これまでにない新たな官民連携の取組として、先端技術の活用や民間事業者の優れたノウハウと知見を生かした様々な取組により、「人口減少下にあっても持続可能な社会基盤の構築」と「交流人口の拡大による新しい活力や魅力づくり」を目指してまいります。このモデル地区では、AIやICTなどの技術を活用した先端的なサービスの導入により、本市が抱える課題の解決を他の地域に先駆けて行い、この実証的な取組で得られた成果を他の地域にも波及させることで全市をより充実発展させてまいりたいと考えております。次世代医療についても、本市が抱える課題の解決には必要との考えから、モデル地区における7つの取組の1つとして位置付けたものです。
13	卸売市場再整備は必要だと思う。新スタジアムは八橋に整備出来ないのか。	令和2年2月に秋田県と秋田市が取りまとめた「新スタジアム整備に向けた諸課題の調査・研究について（最終報告）」では、八橋運動公園を含む3つの候補地のいずれも課題があるとされたため、候補地については市が選定し、その後、県等と整備に向けた協議を行うとされています。このような経緯の中で、本市としては、モデル地区を検討している外旭川地区において、卸売市場と新スタジアム、民間施設を一体的に整備することで得られる相乗効果をまちづくりに生かすとの考えから、同地区を新スタジアムの候補地としたものです。このことは県にも報告したものであり、今後、県やブラブリッツ秋田等と整備に向けた協議を行うこととしております。
14	「7つの取り組み」と「目指す課題」について分かりました。	「人口減少下にあっても持続可能な社会基盤の構築」と「交流人口の拡大による新しい活力や魅力づくり」の実現に向け、引き続き取り組んでまいります。
15	起業支援について、なかなか秋田で起業したいというギャンブラーな人はいないのでは。 それより大企業の支社・工場を誘致して働き口を多くした方が良い。 公務員・銀行につとめる以外にも、高収入を得られる選択肢アンド環境があれば、若者の流出は止められないと思う。 卸売市場の将来イメージに「花」あるのは良いと思いました。私の祖母も「花」みによくブルーメッセ行っているの、嬉しい人多いと思います。	本市では、「先端技術を活用した地域産業の振興としごとづくり」を市勢発展に向けた創生戦略の第一の柱に据え、新たな企業の誘致と既存企業の事業拡大を推進しているところであります。また、ご意見のあった起業については、若者の未来における選択肢を広げることにつながることも、新しい産業を創り出し地元経済の成長をもたらす大きな原動力となるものと考えております。モデル地区では、若者の自由な発想や地域資源から生まれる発芽を、これまで本市が蓄積してきた経験と民間のノウハウを生かし、官民一体で大きく育ててまいりたいと考えております。
16	かかげた提案はすべてすばらしいものです。すべて実現できるようがんばっていただきたい。しかし、絵に書いた餅にならぬようチェック、フィードバックは怠らぬよう対応していただきたいです。	具体的な目標や指標を設定し、定期的な検証を行っていくことが必要だと考えております。今後、モデル地区内で行う取組や、得られる成果の具体化を図る過程において、検証のあり方についても検討してまいります。

17	<p>個人的には一つの場所に何でもかんでも機能を持たせるのはどうかと思う。秋田市役所本庁も何かイベントがあると駐車場がすぐ埋まって本来の手続も行くだけで時間を要することがある。</p>	<p>外旭川地区のまちづくりは、卸売市場再整備、官民連携で行う新スタジアム整備および民間施設の整備と、先端技術を活用した様々な取組を一体的に行うことで、「人口減少下にあっても持続可能な社会基盤の構築」と「交流人口の拡大による新しい活力や魅力づくり」を目指すものです。また、駐車場の確保等については、施設の規模、配置等を検討する中で駐車スペースの規模についても協議を行うほか、提案を受けているシャトルバスの運行や公共交通機関を利用したアクセスの向上、同地区周辺の交通量増加への対応なども併せて検討を進めてまいります。</p>
18	<p>・幅広い世代が利用できる施設が併存しているのは良いと考える。 ・スタジアムについては、サッカーに関心がない人には魅力を感じない。他の活用も検討して欲しい。</p>	<p>新スタジアムについては、プロスポーツ単体利用だけでなく、これからの秋田を担う若い世代への楽しみの場の提供、秋田の活性化や魅力あるまちづくりおよび健康増進、防災拠点など様々な観点から活用の可能性についても検討を進めております。</p>
19	<p>市場と新スタジアムは関連が薄い、相容れないものを無理に結合しようとしている稚拙な考えである。観客動員数のKPIは基だ現況から乖離しており、夢の数字に他ならない。</p>	<p>外旭川地区のまちづくりは、卸売市場再整備、官民連携で行う新スタジアム整備および民間施設の整備と、先端技術を活用した様々な取組を一体的に行うことで、「人口減少下にあっても持続可能な社会基盤の構築」と「交流人口の拡大による新しい活力や魅力づくり」を目指すものです。また、新スタジアムと卸売市場に関しては、広域防災拠点やゼロカーボン、場外市場や市場開放デー等のイベントと連携した交流人口の拡大などの取組を展開してまいりたいと考え、具体的な検討を進めているところです。</p>
20	<p>卸売市場にせよ、商業施設にせよ、スタジアムにせよ、作ることがゴールでなくその先の活用についても考えて作るべきである。 例えば、いわき市はJ1基準を満たすスタジアムをつくることを発表しましたが、今回作るスタジアムはJ2の基準を満たすスタジアムという想定で作るのではなく、J1基準を満たすスタジアムに改修できるよう設計をする必要がある。 秋田県の施設を見ると、そうした先のことを見据えず、今この予算で、こういう施設が必要だからと作っている印象が強い。 だから、いざその先を考えたときに色々なことが障害となり、別の新しいものを作らなければならない、結局予算がない等の理由で検討に時間がかかっている。 それが、人口の流出にもつながっているように感じる。</p>	<p>モデル地区は、卸売市場再整備、官民連携で行う新スタジアム整備および民間施設の整備と、先端技術を活用した様々な取組を一体的に行うことで、「人口減少下にあっても持続可能な社会基盤の構築」と「交流人口の拡大による新しい活力や魅力づくり」を目指すものです。また、本市の課題解決に向けた取組は、モデル地区を整備したことで終わるものではなく、長期的な視点を持って取り組むことが重要であると考えております。</p>
21	<p>民間事業者による観光施設、多世代交流施設について、多くの施設を建設する予定とされていますが、オープン後の安定した集客を目指すためにも計画段階から各事業者の意見を積極的に取り入れて検討を重ねてください。 新スタジアムについて、先日ソユースタジアムで行われたJ2リーグベガルタ仙台戦では、気温14度、冷たい雨が降りしきり中でも仙台サポーター2500人（観客全体でも5400人超）が訪れました。屋根もなく、トイレを筆頭に老朽化が進み、陸上トラックがあって観戦環境が著しく低いソユースタジアムでもこの動員力です。また、チケット代、飲食・宿泊費など秋田市に与えた経済効果は大きいものでした。 また陸上競技場から専用スタジアムに代わるとチーム成績と関係なく集客力は1.5～1.7倍になります（J3ギラヴァンツ北九州・J1ガンバ大阪の新スタジアムを参考）。ブラウブリッツは去年J2に昇格し、コロナ禍でありながら観客動員が順調に伸びています。単純計算ですが秋田の新スタジアムが完成すると最大約1万人がスタジアムを訪れる計算になりますので、恒常的に大きな経済効果が見込めることは確実です。 また、私もそうですが「ブラウブリッツがあるから秋田に残りたい」という若い世代は多数います。地元密着を掲げるJリーグの理念（Jリーグ100年構想）は若者の地元定住の鍵を握ります。そのためには快適な観戦環境を提供する専用スタジアムは必須ですし、今回のまちづくりの視点である「交流人口の拡大による新しい活力や魅力づくり」にピッタリ合致するのではないのでしょうか。ブラウブリッツ秋田と新スタジアムは秋田の若者定住の旗頭になる要素があると確信しています。 また防災施設としても、屋根付きで、芝生のある新スタジアムは的確です。異常気象が進む今後、非常に重要な視点であると感じました。</p>	<p>新スタジアムについては、プロスポーツ単体利用だけではなく、これからの秋田を担う若い世代への楽しみの場の提供、秋田の活性化や魅力あるまちづくりおよび健康増進、防災拠点など様々な観点から活用の可能性についても検討を進めてまいります。</p>
22	<p>・新スタジアムは、現在の山王のスポーツ街区にあるのが筋だと思います。それがなされず、こちらの構想にくっつけられたのは何故でしょうか。わかりやすくご説明ください。 ・新スタジアムは「J2基準」を目指すものを構想しているようですが、現在のJ2チームで、そのような基準を満たすチームはほとんどなく、大部分は旧来型の既存の陸上競技場を利用しています。同時に、残念ながらわがブラウブリッツ秋田は、J2の中でももっとも集客力の少ない方のチームです（1試合1500～1800人ほど。2000人に届かない。今般山形はJ1参入プレーオフに回る際に、2万人近い観客を集めていた。それでも専用スタジアムではない）。いいスタジアムを持てば強いチームになる、人気が出ると思うのは大間違いであり、まずは地道に一年一年観客数を増やしていくことにこそ力を注ぎ、それがある程度達成され、上昇気流に乗ってからもまったく遅くはありません。それを今急いで、今般の構想の中に組み込む理由は何かあるのですか。その協議はこれからのようですが、その協議を経ないで本構想は成立しないと思います。 ・「事業パートナーからの提案」の欄を見ますと、事業主体が決まっているのはイオンタウンだけに思われますが、本構想を検討するにあたって、そのほかの施設の検討を経ないまま、全体構想を進めてしまうのは拙速に過ぎるのではないのでしょうか。現状カタログ的に列挙している施設機能にしても、仮に他の事業が採算性その他の問題で「できない」となったとき、それができることを前提にしている本構想は挫折することになるのではないのでしょうか。したがって、本構想は、いま現に手を挙げている、イオンタウンが確実にできる部分について、その構想がコンパクトシティその他の観点から妥当かどうかの判断がなされるべきだと思います。</p>	<p>令和2年2月に秋田県と秋田市が取りまとめた「新スタジアム整備に向けた諸課題の調査・研究について（最終報告）」では、八橋運動公園を含む3つの候補地のいずれも課題があるとされたため、候補地については市が選定し、その後、県等と整備に向けた協議を行うとされています。 このような経緯の中で、本市としては、モデル地区を検討している外旭川地区において、卸売市場再整備と新スタジアム整備、民間施設整備を一体的に行うことで得られる相乗効果をまちづくりに生かすとの考えから、同地区を新スタジアムの候補地としたものであります。このことは県にも報告しており、今後、県やブラウブリッツ秋田等と整備に向けた協議を行うこととしております。 また、事業主体については、現時点で明らかとなっているのは事業パートナーであるイオンタウン株式会社ですが、事業パートナーから示されている協力企業・団体とは協議が進められているところであり、具体的な取組や事業主体については、来年度に策定予定の基本計画においてお示ししたいと考えております。また、実現性が担保されない事業については、提案内容のまま進めることはできないものと考えており、見直しが必要な場合は、事業パートナーに対応を求めてまいります。</p>
23	<p>目指す効果として各項目についてKPIが記載されていますが、平均観客動員数以外の項目では外旭川地区のモデルとしての効果を図ることは出来ないのではないのでしょうか？ 極端な話、外旭川における事業が失敗しても秋田市として補完出来てしまう項目を目標とすべきではないと考えます。 仮にこれらの目標をKPIとするとしても、別個に外旭川地区だけの入込客数や関連就業者数などの目標も入れるべきだと思います。</p>	<p>モデル地区では、人口減少下にあっても持続可能な社会基盤の構築を目指すため、同様の趣旨により策定した「第2期秋田市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の基本目標から、関連性のある数値目標等を参考に取組みたいと考えています。この指標等については、今後も継続して検討を行い、取組の具体的な内容が固まった段階において、モデル地区における成果を評価することができる内容とするとしております。</p>

24	<p>全天候型のスタジアムであればサッカーだけでなく他の競技や様々なイベントでの誘客も可能となります。スタジアムのコンコースを利用したランニングやウォーキングコースを設けることで、次世代医療（健康促進）に繋がります。平日でも多くの人々が利用すると思いますので、目指す効果の一つに加えても良いのではないのでしょうか。</p>	<p>新スタジアムについては、プロスポーツ単体利用だけでなく、これからの秋田を担う若い世代への楽しみの場の提供、秋田の活性化や魅力あるまちづくりおよび健康増進、防災拠点など様々な観点から活用の可能性についても検討を進めてまいります。いただいたご意見については、今後の参考とさせていただきます。</p>
25	<p>【交流人口】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今シーズンの観客数は約48000人、これはW杯による過密日程及びコロナ禍においての数字であり、通常であればこれ以上の観客数が見込まれる。 ・他県からのアウェイサポーターは公共交通機関を利用することが多いため、泉外旭川駅を利用し来場することが想定される。 ・アウェイサポーターは試合日の前後、観光等を楽しむため、前後泊する。SNSには応援するチームが負けたとしても、観光や食事を楽しんだことを投稿している。 ・やはり、当然だが全国から何時間もかけて来るわけで、折角だから「秋田を満喫しよう」と考える人が多い。（逆にこちらから他県に行ってもそうするように。 ・そのような投稿は、全国の800万人以上とも言われる、Jリーグファン・サポーターにタダで秋田の魅力を発信してもらっていることになる。（子育て世代） ・スタジアムの一角に保育園を設置し、ブラウブリッツ秋田に運営してもらい、体力向上の基礎を培うための保育園とする。また、グラウンドを園庭として利用する。（事例：J1・京都サンガ） ・市内乳幼児合同運動会、サッカー大会や高齢者施設との合同運動会などの開催。 ・試合当日の一時託児所としての活用。（高齢者） ・他県の例を見ると、若い世代への楽しみの場の提供だけでなく、高齢者の生きがいの場の提供にもなっている。（事例：J3・カターレ富山） ・スタジアムの一角に高齢者施設を設置（もしくは併設）し、ブラウブリッツ秋田のスポーツトレーナーによる、運動指導やリハビリサポートを行う。 ・冬期間の各種スポーツ大会や健康づくり指導教室などの開催。 <p>【防災拠点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いつ発生するか予測できない災害に対して、屋根付きスタジアムにすることにより、冬期間の避難拠点として活用できる。 	<p>新スタジアムについては、プロスポーツ単体利用だけでなく、これからの秋田を担う若い世代への楽しみの場の提供、秋田の活性化や魅力あるまちづくりおよび健康増進、防災拠点など様々な観点から活用の可能性についても検討を進めてまいります。いただいたご意見については、今後の参考とさせていただきます。</p>
26	<p>事業パートナーの提案を活かせれば、そこに人を集めることができる。雇用も生まれます。10代からの意見にありましたよね。足りないものを補うことができます。あとは、そこに集めた人をどう市内、県内各地に誘導するかを考えるだけです。</p> <p>例えばスタジアムですが、サッカークラブには必ずサポーターがいて、どんなに秋田から遠く離れた地域のクラブであっても、対戦するときには必ず応援に来るサポーターがいます。そして大抵は秋田を観光して帰ります。アウェイツーリズムと言われるものです。私自身も、いわゆるアウェイに応援に行きますが、そのまま秋田に帰ることはほとんどありません。お土産を買い、遠方であれば宿泊します。観光をします。</p> <p>ブラウブリッツ秋田がJ2に昇格してからは、アウェイからのサポーターが目に見えて増えました。コロナ禍であるにも関わらず、です。資料には令和元年の平均動員数が載っていますが、それはJ3のときのことで、コロナ禍ではあっても、現在の人数を調べてみてください。</p> <p>アウェイツーリズムは交流人口の増加につながります。サッカーのシーズンは約10ヶ月。その間、平均2週に1度、ホームゲームが行われます。それは2週に1度、県外からお客さんが来るということです。宿泊するホテルがあれば、秋田市、秋田県に留まって観光する人は増えます。宿泊場所が少なく、盛岡に泊まったなどと話を聞きます。もったいない話です。このアウェイツーリズムに関しては、クルーズ船より確実だと思います。</p> <p>独自色がない、と地元紙に書かれていましたが、独自色のカギは、スタジアムだと思います。自然エネルギーを取り入れた照明や大型ビジョンなどのシステムなど、独自色を出すためにできることは多いと思います。また、秋田県にある大学の学生さんたちにも協力してもらい、アイデアをもらってみたいはどうでしょうか。</p> <p>スタジアムに関しては、ブラウブリッツ秋田とサポーターの意見を聞き、いち早く整備して欲しい。J3を2回優勝しました。J2にも定着し始めています。躊躇する要素がどこにあるのでしょうか。</p>	<p>新スタジアムについては、プロスポーツ単体利用だけでなく、これからの秋田を担う若い世代への楽しみの場の提供、秋田の活性化や魅力あるまちづくりおよび健康増進、防災拠点など様々な観点から活用の可能性についても検討を進めてまいります。いただいたご意見については、今後の参考とさせていただきます。</p>
27	<p>まちを元気にするのは若者である。いま秋田市で若者が集まる場所は御所野イオンしかないため、若者向けのショッピング施設を充実させてほしい。なお、ショップについては御所野イオンとは差別化してほしい。アウトレットでもいいのではないかと。</p>	<p>「人口減少下にあっても持続可能な社会基盤の構築」と「交流人口の拡大による新しい活力や魅力づくり」の実現に向け、引き続き取り組んでまいります。いただいたご意見については、今後、具体的な検討を進める中で参考とさせていただきます。</p>
28	<ul style="list-style-type: none"> ・総合診療所、健診センターの新設には賛成です。このような施設の充実によって、健康に長生きできる都市が実現できれば良いと思います。 ・起業支援については、必要だとは思いますが、それによって若者が秋田市に留まる、大卒者の市内就職率が上がる等に直結するのは疑問です。せっかくイオンタウンと連携するので、それに関連した魅力的な企業誘致などできれば市内就職率は上がるのではと思います。 ・スタジアムは、防災・減災のためには新設も良いとは思いますが、でも建設額に見合う集客は出来るのでしょうか。ブラウブリッツはノーザンパピネッツと比べるといまち盛り上がり欠けている感があり、集客のための対策をもっと練るべきだと思います。 	<p>本市では、「先端技術を活用した地域産業の振興としごとづくり」を市勢発展に向けた創生戦略の第一の柱に据え、新たな企業の誘致と既存企業の事業拡大を推進しているところであります。また、ご意見のあった起業については、若者の未来における選択肢を広げることにつながるのと同時に、新しい産業を創り出し、地元経済の成長をもたらす大きな原動力となるものと考えております。モデル地区では、若者の自由な発想や地域資源から生まれる発芽を、これまで本市が蓄積してきた経験と民間事業者のノウハウを生かし、官民一体で大きく育ててまいりたいと考えております。</p> <p>新スタジアムについては、プロスポーツ単体利用だけでなく、これからの秋田を担う若い世代への楽しみの場の提供、秋田の活性化や魅力あるまちづくりおよび健康増進、防災拠点など様々な観点から活用の可能性についても検討を進めてまいります。いただいたご意見については、今後の参考とさせていただきます。</p>
29	<p>70代の私としては、次世代医療を真剣に考えないと今の医療では市民の安心安全な健康を確保する事は難しいと思う。今の医療も政治も自然の真理からずれて全て対処療法・対処政治で根本の根本が見失っていると思う。次世代型農業を目指すのであれば外見ではなく“食”の無農薬をめさないと将来はないと思う。</p>	<p>「人口減少下にあっても持続可能な社会基盤の構築」と「交流人口の拡大による新しい活力や魅力づくり」の実現に向け、引き続き取り組んでまいります。いただいたご意見については、今後、具体的な検討を進める中で参考とさせていただきます。</p>

30	<p>「次世代医療」令和元年現在膨大な国民医療費4兆円を抱える現状をみた時に、現代医療のメリットを生かし、民間療法いわゆる生活の質の向上をめざす総合医療の実現に向けて、緊急の課題と思われまます。 「次世代農業」自然豊かな生きた土地での自然農法野菜栽培拡大が重要と思われまます。</p>	<p>「人口減少下にあっても持続可能な社会基盤の構築」と「交流人口の拡大による新しい活力や魅力づくり」の実現に向け、引き続き取り組んでまいります。いただいたご意見については、今後、具体的な検討を進める中で参考とさせていただきます。</p>
31	<p>コメントの機会を頂き恐縮です。統合医療なる言葉を耳にした事があると思いますが、これは判り易く言えば医療の統合です。現在は病院に行けば西洋医学がほとんどですが東洋医学（針・灸・マッサージ、浄化療法等々）もあり、根強いファンも大勢いたりします。この東洋医学も病院のメニューの中に加えようというのが統合医療です。東洋医学では薬剤は殆ど使いません。従ってお金がかかりません。長い視野で見ればいつ終わるか判らない膨大な国県市の予算（医療と社会補償費）の上昇も止まるかもしれません。是非まちづくり構想の末端に加えてください。次世代では間に合いません。</p>	<p>「人口減少下にあっても持続可能な社会基盤の構築」と「交流人口の拡大による新しい活力や魅力づくり」の実現に向け、引き続き取り組んでまいります。いただいたご意見については、今後、具体的な検討を進める中で参考とさせていただきます。</p>
32	<p>新スタジアムはドーム型にして、コンサート等も兼ねられる様な物を作って欲しいと思います。 P12（イ）は賛成です。</p>	<p>新スタジアムについては、プロスポーツ単体利用だけではなく、これからの秋田を担う若い世代への楽しみの場の提供、秋田の活性化や魅力あるまちづくりおよび健康増進、防災拠点など様々な観点から活用の可能性についても検討を進めてまいります。</p>
33	<p>①若者が定住できる職場があり、スタジアムにより観光客による人の賑わいが起きると期待しています。 ②スタジアムは公設民営にして秋田市民が利用できる多目的施設にして欲しい。</p>	<p>「人口減少下にあっても持続可能な社会基盤の構築」と「交流人口の拡大による新しい活力や魅力づくり」の実現に向け、引き続き取り組んでまいります。新スタジアムについては、プロスポーツ単体利用だけではなく、これからの秋田を担う若い世代への楽しみの場の提供、秋田の活性化や魅力あるまちづくりおよび健康増進、防災拠点など様々な観点から活用の可能性についても検討を進めてまいります。</p>
34	<p>ここでの取り組みこそ時代に合った、先取りしたものになるであろうと思われる。地域防災拠点として、エリア間のマイクログリッド化による電力融通などの計画や多世代交流施設の整備などを考えているようであるが、具体的に進めていく段階で、市民が安全に避難できるシェルター機能を併せ持つような施設に整備できないかと思った。（市民の安全を守る施設については別に考えているかもしれないが）</p>	<p>「人口減少下にあっても持続可能な社会基盤の構築」と「交流人口の拡大による新しい活力や魅力づくり」の実現に向け、引き続き取り組んでまいります。いただいたご意見については、今後、具体的な検討を進める中で参考とさせていただきます。</p>
35	<p>P7てんこ盛り過ぎです。目標をしぼったほうが良い。 P9④（ア） 現在バス路線の運行数が減っており利用しづらい。 秋田で自家用車に頼らないとは→交通網が脆弱なのに→無理がある→交通手段が必要→皆が行きやすく集客を求めらば→初めから自家用車を頼らないは→無理がある→やはりはじめは駐車場を広く確保してほしい。 幼い子供を育てている世代、老人、学生、電車に乗ってバスに乗り換えては大変つらいです。 集客が目的ならばもう少し方法を考えてほしい。皆が行きやすい場所にしてほしい。 コンパクトシティの目標だけで、人のことを忘れるといずれはすたれてしまう。絵に描いたもちにならないようにしてほしい。 P11 ワールドカップ、J1で活躍するような選手がでたら集客まちがいない。選手には頑張ってもらいたい。</p>	<p>外旭川地区のまちづくりは、これまでにない官民連携の新たな取組であり、秋田ならではのモデル地区を作るための柱として2つの目的と7つの取組を掲げたものです。それぞれの取組を単独で行うのではなく、各取組を連携させることで秋田ならではの取組を生み出していきたいと考えています。 また、交通アクセスについては、自動運転によるオンデマンドPMVやオンデマンドシャトルバスの提案を受けているところであり、本市で進めている公共交通網の再編に向けた検討とも調整を図り、利便性の確保に向けた検討を進めてまいります。</p>
36	<p>新スタジアムの規模・機能に関しては、J2ではなくJ1規模15,000人以上を是非お願いしたい。 また、新スタジアムは屋内施設にはない、子育て世代への親和性があると考えています。そのため、子連れで行っても子供も楽しく、安全に遊べ、親も子供の目を離しても安心してサッカーの一観戦できるようなスペース（座席指定がない芝生席のようなもの）あるいは部屋の整備（個室観戦や保育付きスペース）を要望する。また、バリアフリー設備やトイレの充実が必須であると考えている。 試合の開催のない日も使えるよう、会議室の貸し出しもあれば良い。</p>	<p>新スタジアムについては、プロスポーツ単体利用だけではなく、これからの秋田を担う若い世代への楽しみの場の提供、秋田の活性化や魅力あるまちづくりおよび健康増進、防災拠点など様々な観点から活用の可能性についても検討を進めてまいります。</p>
37	<p>市場建替、スタジアム整備が起業支援、ゼロカーボン、防災拠点、AI/ICTの活用、次世代医療にどう結びつくのか、なぜモデル地区でなければ実現できないのかの説明がない。（わからない） また、これらを3pの概念図の中央地域で実現した方が、コンパクトシティを標榜する秋田市のまちづくりのためになると考えるが、外旭川でなければできない合理的な理由が必要である。 また、人口減少が著しい秋田市で持続可能なまちづくりを進める上で「郊外に投じる金があるならば中心街に投資すべき」（前出魁掲載）する京大大学院諸富教授の提言に対して、誰もが納得する反論をすべきである。</p>	<p>外旭川地区のまちづくりは、本市がこれまで取り組んできた多核集約型コンパクトシティの考え方を基本としつつ、将来のまちづくりを見据え、行政だけでは実現できない、民間事業者の知見やノウハウを活用したまちづくりを行うものであり、多核集約型コンパクトシティを補完するモデル地区と位置付けるものであります。このモデル地区では、AIやICTなどの技術を活用した先端的なサービスの導入により、本市が抱える課題の解決を他の地域に先駆けて行い、この実証的な取組で得られた成果を他の地域にも波及させることで、全市をより充実発展させてまいりたいと考えております。また、波及させる成果については、取組そのものを広めるだけではなく、そこで実証された官民連携と民間事業者のノウハウの活用方法なども波及させていく考えであります。 外旭川地区は、秋田北インターチェンジや秋田港に近接し、交通・物流機能に優れた地域性を有することに加え、エリア内において、卸売市場再整備と新スタジアム整備、民間施設整備を一体的に行うことが可能であり、モデル地区として産業、観光、スポーツ、環境、防災などの幅広い分野における実証的な取組を展開できる場所であると考えております。そのため、中心市街地を含む秋田駅から山王地区までをエリアとする中央地域で実証すべきとのご意見については、モデル地区としての実現は難しいと判断しております。 「郊外に投じる金を中心街に投資すべき」とのご意見については、これまで本市では、中心市街地を芸術文化ゾーンとして文化施設機能を集積・充実させ、「まちの顔」として活性化とにぎわいの創出に取り組んできたところであり、一定の成果が見えてきたものと認識しております。この取組は今後も変えることなく、中心市街地のさらなる活性化を進めてまいります。一方で、若者が未来を思い描けるまちづくりを進める観点から新たな政策展開も必要だと考えております。こうした認識の下、コンパクトシティの考え方を基本としつつ、今後のまちづくりのモデルとして、民間事業者の知見やノウハウを生かし、AIやICTなどの先端技術を活用したモデル地区整備を進めたいと考えております。</p>
38	<p>人流を他所に求める計画には、賛同しますが、イベントは毎日あるわけではない。 商業活動は、毎日行われるわけで、消費者が誰になるのか。 日常が問題なのではないのか。 土日休日が主体なのか。</p>	<p>日常の活用について、特に、新スタジアムについては、試合・イベントのない日やシーズンオフにどのように活用していくのかということは重要な視点であると認識しております。そのため、ライブ会場やウォーキング等の健康増進、防災拠点など様々な用途での利用を前提とし、どのような機能が必要なのか検討を進めているところであります。</p>

39	<p>1章、2章に関する意見で述べた通り、この地区において「新たなにぎわいの創出」を行えば中心市街地の衰退が加速し、秋田市の魅力は失われます。したがってモデル地区における取組としては、「にぎわいの創出」に関わる新スタジアムや観光・集客・多世代交流は取りやめ、3章に掲げる取組の中では、「にぎわいの創出」に関係しない卸売市場再整備、ゼロカーボン、次世代型農業に限るべきです。新スタジアムは、秋田市の基本的な都市計画においてスポーツゾーンとして位置づけられている山王地区に建設するのが適当です。</p>	<p>これまで本市では、中心市街地を芸術文化ゾーンとして文化施設機能を集積・充実させ、「まちの顔」として活性化とにぎわいの創出に取り組んできたところであり、一定の成果が見えてきたものと認識しております。この取組は今後も変えることなく、中心市街地のさらなる活性化を進めてまいります。一方で、若者が未来を思い描けるまちづくりを進める観点から新たな政策展開も必要だと考えております。こうした認識の下、コンパクトシティの考え方を基本としつつ、今後のまちづくりのモデルとして、民間事業者の知見やノウハウを生かし、AIやICTなどの先端技術を活用したモデル地区整備を進めたいと考えております。また、外旭川地区は、泉外旭川駅の開業、秋田北インターチェンジや秋田港への近接、都市計画道路泉外旭川線の整備など、交通・物流機能に優れた地域性を有することに加え、卸売市場と新スタジアム、民間施設を活用した地域活性化が見込めることなどから、新スタジアムの候補地としたものです。</p>
40	<p>モデル地区における取組について、7つの取組の内容の抜本的な見直しが必要であると考えます。すべて外旭川地区で行う必要性がないものばかりで、その内容も稚拙かつ曖昧で何ら先駆性があるものではありません。起業支援は、当該地域であえて実施する必要性を感じません。中心市街地や御所野地区でも十分に実現できる内容となっています。ゼロカーボンは、経済と地域の好循環の具体的な内容が記載されていません。また、そもそも再生可能エネルギーだけの供給契約は緊急時の電力供給に課題がある以上は不可能ではないでしょうか。AI、次世代医療、次世代農業の内容に具体性がありません。記載されている内容は、AIや医療は施設設備が整った中心市街地で、農業は仁井田地区などですぐにでも実現できます。交流人口拡大に整備方針が不透明なスタジアムを明記するのは不適切であると考えます。また、スタジアムがない場合、御所野で実施することが可能な内容です。</p> <p>設定されている目標は本計画だけで達成できるものではないため、設定する目標として不適切であると考えます。少なくとも7つのモデルに関する指標は別に設ける必要があります。ゼロカーボン、AI、次世代医療、次世代農業に関する目標がありません。なお、スタジアムの集客数を5000人とありますが、これではあえて整備する必要もなく、そもそも自立した経営も不可能ではないでしょうか。</p>	<p>ご意見をいただいた7つの取組については、各取組を単独で行うものではなく、それぞれの取組を連携させながら、官民の協働により様々な事業を展開していくことが重要であると認識しております。そのため、「秋田市外旭川地区まちづくり基本構想（原案）」では、3章モデル地区における取組と目指す効果の(4)にモデル地区で目指す一体的な取組の例として新たに項目を追加したところです。モデル地区では、人口減少下にあっても持続可能な社会基盤の構築を目指すため、同様の趣旨により策定した「第2期秋田市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の基本目標から、関連性のある数値目標等を参考に取り込んだものです。この指標等については、今後も継続して検討を行い、取組の具体的な内容が固まった段階において、モデル地区における成果を評価することができる内容とするとしております。</p>
41	<p>よく考えて資料を作成していますが一つだけ、どうかと思うことがある。最近何事にもゼロカーボン、環境にやさしくとのうたい文句で再生可能エネルギーに執着していますが、本計画における必要電力と再生可能エネルギーの供給源（例、太陽光発電）がバランスよくなるのかその辺が理解がたい。周辺を太陽光パネルで覆い、風力発電所を作っても安定的な供給は出来るのか。太陽光パネルは景観上も良くないし冬期間の不安定な電力では当初の計画がうまくいかない様に感じます。現在、世界的にそのような方向でなっていますが全国に設置されている太陽光パネルの現状を確認してはどうでしょうか。（それを補うことができれば別ですけど）</p> <p>新スタジアムについては過去にJ3リーグで優勝してもJ2に昇格できなかった負の遺産を覆すため是非建設してほしい。反対派は高額な建設費、維持管理費等難色を示していますが、ホームで開催されるJリーグのアウェイサポーターの訪秋は大きな魅力があります。プロスポーツクラブを持つことはそれを応援しようとする人が出てきてそれも若者の定住につながるのではないかと。サッカーに限らず。</p>	<p>モデル地区におけるゼロカーボンの取組は、AIやICT技術を活用したエネルギーマネジメントシステムの活用により、エリア全体における電力供給の最適化を図り、太陽光発電設備や秋田県由来の再生可能エネルギー電力の使用により、エリア内消費電力の再生可能エネルギー電気100%化を目指すものであります。現時点で、建物の配置や規模は決まっておきませんが、太陽光発電設備は主に屋上部に設置されるものであり、景観を損ねないように配慮してまいります。また、太陽光発電は天候の影響を強く受けることから、大型蓄電池を併用することで、悪天時の供給不足をカバーすることも検討しております。また、新スタジアムについては、卸売市場と新スタジアム、民間施設を一体的に整備し、AIやICT等の先端技術を活用した取組を行うことで、にぎわいの創出などにおける相乗効果が得られるものと考えていることから、モデル地区を構成する要素として、同地区を候補地としたものです。</p>
42	<p>モデル地区で目指す秋田の発展を望む。特に注目しているのは、従来型のショッピングと異なるという点。イオンは本市にもたくさんあるが、同じで無く、ここに来たら秋田がみえる、秋田らしいショッピングセンターを望みます。</p>	<p>「人口減少下にあっても持続可能な社会基盤の構築」と「交流人口の拡大による新しい活力や魅力づくり」の実現に向け、引き続き取り組んでまいります。</p>
43	<p>「広域防災拠点」や「次世代型農業」という視点は初めて知り、興味深く感じました。具体はイメージできませんが、次世代型農業を取り入れる場合、予定した土地利用は狭くないのかと思いました。また、「起業支援」として、たまり場の設置ということですが、そこに来るまでの仕組みが大事と思うので、十分練り上げてほしい。</p>	<p>次世代型農業については、主に園芸作物を想定しておりますが、栽培作物や導入する先端技術等によって必要な面積は異なるものと考えております。今後、栽培作物などについても具体的な検討を進めてまいります。また、ハウスの規模や棟数についても併せて検討してまいります。また、現在、検討している「たまり場」については、市や管理者からの一方通行的なコンテンツの提供にとどまらず、利用者が自発的に活動できるような仕掛けが必要だと考えております。具体的な取組については、市民の皆様の見解も参考としつつ、事業パートナー等と協議してまいります。</p>
44	<p>これからの世の中を見据えた時に、県内外の団塊世代の定年退職と、やりがい無くした団塊世代のエネルギー、労力を、「みどりの食料戦略法案」に付随するオーガニックビレッジの制度を活用して、60代の雇用を促進して、一角に、有機農法・自然農法実施区間を造り、団塊世代の「生きる力」と健康増進、精神衛生の向上が考えられる。そして、環境保全型農業で生み出される、生物の生態（ほたる・どじょう・水カマキリ・ザリガニ・かぶとむし）の公表が世代を超えた観光資源になると考えられます。もって、統合医療としてのQOLの向上に繋がるのではと考えます。</p>	<p>次世代型農業のエリアについては、次世代型農業に取り組む人材の発掘・支援の場としての活用も視野に入れ検討を進めております。いただいたご意見については、次世代型農業に関する取組の参考とさせていただきます。</p>
45	<p>骨子案に示された取り組み7項目については大いに実現を期待したい。特に、交流人口の拡大に大いに寄与するであろうスタジアム整備には最大限の協議を図っていただきたい。ただ、あれもこれもと全てを網羅し実現することは容易ではなからう。7項目を完璧に実現するのは可能であるのかと疑問を感じる。提示された7つの取り組み項目において、本市の優先課題に即して優先度合いと必要性を再精査して頂きたい。そして何を優先し、取り組みに注力するかを示して頂きたい。</p>	<p>外旭川地区のまちづくりは、これまでにない官民連携の新たな取組であり、秋田ならではのモデル地区を作るための柱として2つの目的と7つの取組を掲げたものです。それぞれの取組を単独で行うのではなく、各取組を連携させることで、秋田ならではの取組を生み出していきたいと考えております。</p>
46	<p>まずは交流人口の拡大が第一、人口減少は避けられず、インバウンドに期待するしかない現状で、7つの取組は、他所でもよく見受けられる内容だ。高齢化に伴う次世代医療や次世代型農業とかに絞って世界最先端を目指すべきではないか。</p>	<p>外旭川地区のまちづくりは、これまでにない官民連携の新たな取組であり、秋田ならではのモデル地区を作るための柱として2つの目的と7つの取組を掲げたものです。それぞれの取組を単独で行うのではなく、各取組を連携させることで、秋田ならではの取組を生み出していきたいと考えております。</p>

<p>47</p>	<p>P 8 解決を目指す本市の課題</p> <p>防災 災害に強いまちづくりは、水害、地震、津波などたくさんあります。モデル地区では地震だけを対象にしているような記述ですが、コロナ禍の中での地域にある避難場所を拡充することや、コロナ対策、装備などを充実させることが今重きを置く必要があることではないでしょうか。</p> <p>環境 脱炭素社会の構築が「事業パートナー」からの提案で可能という認識でしょうか。国連は、各国が掲げている目標を達成したとしても、産業革命前から2.5℃上昇すると報告しています。先端技術だけを市民に示してどんな解決になるのか極めて疑問です。しかも、エリア内に設置するのは“電力設備”、この“電力設備”がどれだけ市民の行動に役立つのかすら表示がありません。</p> <p>医療・介護 ハッピーリタイア世代とは裕福な世代という意味で使用しているのでしょうか。用語の解説が必要です。だとすれば、お金持ちに特化した施設で現在の市民対策という事になりますね。これは問題です。今必要なのはそんなことではありません。現在の医療資源（人材、設備など）をもっともっと充実させることこそ市民の求めているものではありませんか。</p> <p>P 9 ②ゼロカーボン エリア内消費電力の再生可能エネルギー由来の電気100%とありますが、当たり前のことです。モデル地区での取り組みでは、とても秋田市が抱える課題を解決できません。市がすぐに取り掛かなければならないのは、断熱による節電と再エネを大量に地域循環でつくることです。これで解決できるとだれが考えるのでしょうか、分かりません。</p> <p>③広域防災拠点 広域的な防災拠点も必要でしょう。しかし、大規模な災害が発生した時点で、道路も分断され、歩かなければならない時に果たして避難が必要なお年寄りや女性、子どもが防災拠点まで行けるでしょうか。こういう角度からの検討が今必要ではありませんか。地域に地域循環型の再エネ施設を地域の特性を生かして行政が応援して設置し、緊急避難場所の拡充こそ必要ではありませんか。この構想には、その視点がありません。</p> <p>④AI・ICTの活用 秋田市がかかえる課題の「自動車に頼らない持続可能な公共交通ネットワークの再構築」は今解決すべき大事なテーマです。しかし、これも「具体的な取り組み例」では実現不可能です。あれもこれも一度にはできないと、言われるかもしれませんが、モデル地区では未来の何年先に実現するかもしれない(?)ことをめざしているのでしょうか。</p> <p>⑦次世代型農業 果たして、現在の農家の苦労を軽減することができるのでしょうか。財力のある企業型農業だけを増やして、現在の家族農業を大きくすることは考慮に入らないのでしょうか。国連も家族農業年などの取り組みで、地域に根ざした地域の産業として、農業を守ることを推奨しています。</p> <p>P 12 今後の検討の仕方 “地域の活性化と経済効果を踏まえ”とありますが、果たしてどんな効果があるのか明示されていません。少なくとも、秋田市が検討した経済効果を数値で、根拠も示して市民に公表すべきではありませんか。市民の税金を100億円以上投入することになるであろう大型事業です。市民への責任です。</p> <p>P 13 目指す効果 分かりにくい「数値目標」ですね。とりあえずこの目標だけを示しておこうと考えて出した数値なんですか。「目標」は次々と変化するし「指標も追加します」では、考えようありませんね。「得られた成果を全市に波及させる」とする「成果」との関連性はあるのでしょうか、無いのでしょうか、わかりません。只、言えることは秋田市全体での目標と、モデル地区での成果とどんな関係があるか非常に分かりにくいです。しかも、県全体の動きとも関連している指標もあり、どうやって検証するのか手法が示されておりません。こんなことができるのか大いに疑問です。</p>	<p>いただいたご意見を踏まえ、事業パートナー等とも調整を行いながら、「人口減少下にあっても持続可能な社会基盤の構築」と「交流人口の拡大による新しい活力や魅力づくり」に向け、具体的な取組について検討してまいります。また、施設の規模や具体の取組について検討している段階であるため、現時点で、経済効果の金額や雇用創出人数を算出することは困難であります。今後、検討を進め、段階的にお示しできるよう努めてまいります。モデル地区では、人口減少下にあっても持続可能な社会基盤の構築を目指すため、同様の趣旨により策定した「第2期秋田市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の基本目標から、関連性のある数値目標等を参考に取り込んだものです。この指標等については、今後も継続して検討を行い、取組の具体的内容が固まった段階において、モデル地区における成果を評価することができる内容とする内容としております。</p>
<p>48</p>	<p>「卸売市場」については「従来の考え方にとらわれずに新しい発想」というのがよく分かりません。「スタジアム」については「フットボール専用」であり主目的は観戦型スポーツ施設で一般市民にとっては「災害時に活用」等だけなのにこれを支援するために税金を投入するのはどうも納得出来かねます。民間チームなのだから自ら資金獲得に努力すべきです。「民間施設」の「体験ゾーン」は伝統文化・発酵文化などの現地及び近隣で行うことにより現場スタッフの力も継続的に借りることができるのであって（ねぶり流し館のように）外旭川でやるうとしても非現実的だと思います。また「次世代医療」も既存の施設（新市立病院や秋田大学病院など）を充実させるべきでここに新たに作る必要はないと考えます。</p>	<p>卸売市場における「新しい発想」とは、卸売市場の本来の役割である、県民市民への生鮮食料品等の安定的な流通に加え、県内の産地と連携した商品開発、県産品の県外への販売といった新たな分野への進出も想定しています。新スタジアムについては、平成29年3月に新スタジアム整備を求める約18万筆の署名や要望書が提出されたことを受け、県と関係市町村で検討を開始し、その中で、秋田の未来や子どもたちのためにも多くの県民が集い、感動や元気、にぎわい創出や地域活性化にもつながり、県民の健康増進にも貢献するとして、新スタジアム整備の必要性が整理されています。今回の事業パートナー選定プロポーザルでは、行政の支援により民間主導で行うことを条件として提案を求め、これに対し民設民営の提案があったものです。新スタジアムの整備は、経済的効果や交流人口の拡大が期待できるほか、災害時の防災拠点としての活用など、一定の公共性もあると考えておりますが、民設民営を想定していることから、建設資金やその後の運営に関する資金についても企業努力は当然必要なものと認識しております。民間施設の体験ゾーンや次世代型医療など、モデル地区で行う様々な取組については、その実現性も含め、現在、事業パートナーや協力企業・団体とも協議を進めているところであります。</p>

49	<p>次世代医療について、秋田大学と協力するとあるが、わざわざ、新しく建設することなく、外旭川サテライトクリニックが既にあるのでそこで良いのではないか。</p> <p>現市長の親族が経営している医療法人であるので、あまり良くは思わないが…。</p> <p>若者のたまり場とはなにか？ 大人が考えるより、これからの秋田市の将来を担う小中高生にも、こんなのがあったら良いと意見を聞いてみるべき。</p>	<p>「人口減少下にあっても持続可能な社会基盤の構築」と「交流人口の拡大による新しい活力や魅力づくり」の実現に向け、引き続き取り組んでまいります。</p> <p>また、今後、基本計画の策定時など、各段階において懇話会やパブリックコメント等の手法により幅広く市民の意見をお聴きしたいと考えており、いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます。</p>
50	<p>モデル地区で目指す7つの取組の⑤と⑦について、既存の施設、例えば、保健所、建て替えた市立病院や大学病院、そして農業試験場等を充実させて行えないのでしょうか。</p> <p>また、冬でも市民に開放される屋根付スタジアムがあれば良いとは思いますが。スタジアムのせいでJ2に上がれなかったのは気の毒でした。しかし、現況1,549人（R1）が、少子高齢化がこれから進むだろう秋田市で増加する根拠が不明です。Jリーグからの規定要求に定めるだけで良いのでしょうか。</p>	<p>外旭川地区のまちづくりは、これまでにない官民連携の新たな取組であり、秋田ならではのモデル地区を作るための柱として2つの目的と7つの取組を掲げたものです。それぞれの取組を単独で行うのではなく、各取組を連携させることで、秋田ならではの取組を生み出していきたいと考えています。</p> <p>また、ブラウブリッツ秋田の平均観客動員数については、新しい専用スタジアムを整備すればそれだけで動員数が増加するというものではないと捉えており、ブラウブリッツ秋田に対しても地域に根ざした活動などのさらなる企業努力を求めてまいりたいと考えております。</p>
51	<p>卸売市場に関しては、場外売り場を魅力あるものにして、一般市民にも新鮮な品を販売していただきたい。</p> <p>新スタジアムに関しては、サッカーだけの収益では心配であり、ラグビーやイベントなど多角的に利用できるような設計を望む。</p> <p>また、高速道路からのアクセスも良いので、駐車場の広さもゆとりを持って設計していただきたい。</p> <p>来場者が散策できるような公園等の整備も必要と考える。</p> <p>面積が広いので、施設間の移動にバッテリーカー（バス）の自動運転の採用も検討していただきたい。</p> <p>中高年にも魅力ある施設を計画していただきたい。（たとえば、油谷これくしょんが所蔵している物を展示する施設など。）</p>	<p>「人口減少下にあっても持続可能な社会基盤の構築と交流人口の拡大による新しい活力や魅力づくりの実現に向け、引き続き取り組んでまいります。いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます。</p>
52	<p>起業支援におけるモデル地区の取組については既存のチャレンジオフィスと何ら代わり映えがしない。対外的な施策が必要では。</p> <p>交流人口拡大についてはクルーズ船ありきの施策に思える。クルーズ船着港時のみ賑わい、後は閑散とした情景が思い浮かぶ。常設ではなく特設で十分かと。</p> <p>新スタジアムについては雪国秋田を勘案し、通年で使用できるようにし、サッカーに限定せず多種多様なイベントができるような視野で考えていただきたい。</p>	<p>起業支援などのモデル地区で行う様々な取組については、その実現性も含め、現在、事業パートナーや協力企業・団体とも協議を進めているところであります。</p> <p>いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます。</p> <p>また、新スタジアムについては、プロスポーツ単体利用だけではなく、これからの秋田を担う若い世代への楽しみの場の提供、秋田の活性化や魅力あるまちづくりおよび健康増進、防災拠点など様々な観点から活用の可能性についても検討を進めてまいります。</p>
53	<p>起業支援については具体的な運営方法と継続性が重要だと思うので、今後の構想の具体化に期待します。国際教養大生等への意見聴取を実施して欲しい。</p> <p>広域防災拠点については、活用は理解できるがあえてこの地区を重点的にする必要は感じない。活用するのは良いが、大きく費用をかけてそのための整備までは必要ないのではないかと感じる。</p> <p>A I や I C T の活用についてはどのように活用するのが大事だと思うので、どのようなことが可能なかを市民に公表し意見公募しながら取り組んで欲しい。公共交通ネットワークの再構築や誰でも利用可能な移動手段導入は最も重要と考える。</p>	<p>「人口減少下にあっても持続可能な社会基盤の構築」と「交流人口の拡大による新しい活力や魅力づくり」の実現に向け、引き続き取り組んでまいります。</p> <p>なお、広域防災拠点については、モデル地区に整備する卸売市場や民間施設などの機能に加え、秋田北インターチェンジから近いなど、立地条件が優れていることから、新スタジアムに防災機能を付加することとしたものです。</p> <p>また、公共交通ネットワークについては、秋田市公共交通政策ビジョンなどの交通計画との整合性を図りながら、関係部署と協力しながら進めたいと考えています。いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます。</p>
54	<p>モデル地区としての提案はイオン作成の配置図で示され、おそらく国内でも最先端なモデルタウンとなるのではないかと考えているが、秋田市として目指すプランが見えてこないのが残念である。</p>	<p>基本構想の策定に向け、今後の展望がイメージできるような内容となるよう努めてまいります。</p> <p>また、基本構想は、外旭川地区のまちづくりの基本的な方向性を示すものとなりますので、より具体的な内容につきましては、基本計画などの策定過程において明らかにしてまいります。</p>
55	<p>ホテルに関しては、老人施設への転用を考え、全室バリアフリー化を考えてみてはどうか。</p> <p>温浴施設は温泉であってほしい。</p>	<p>「人口減少下にあっても持続可能な社会基盤の構築」と「交流人口の拡大による新しい活力や魅力づくり」の実現に向け、引き続き取り組んでまいります。いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます。</p>
56	<p>事業パートナーより示された取組こそが今考えられるベストなプランと考える。7つの取組にしてもその目指す効果は数的表現は難しいと考える。</p> <p>多核集約型コンパクトシティと整合性をあまりにも重視すると、時間のロスに繋がるのが心配である。</p> <p>時間イコールお金であることを自覚して進めていただきたい。</p>	<p>「人口減少下にあっても持続可能な社会基盤の構築」と「交流人口の拡大による新しい活力や魅力づくり」の実現に向け、引き続き取り組んでまいります。いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます。</p>
57	<p>効果は良いと思います。</p>	<p>「人口減少下にあっても持続可能な社会基盤の構築」と「交流人口の拡大による新しい活力や魅力づくり」の実現に向け、引き続き取り組んでまいります。</p>
58	<p>スタジアムに対しての意見は色々分かれますが、逆に選手方に対してプレッシャーにならないよう願います。（一々、J2と呼称せず等、できればして頂きたいです。）災害時にも活用されるとのことですが、協議中に昨今の防衛事情も考察、又はご検討なさるのはいかががでしょうか。確かにおもてなしも結構かと存じますが。</p>	<p>新スタジアムについては、プロスポーツ単体利用だけではなく、これからの秋田を担う若い世代への楽しみの場の提供、秋田の活性化や魅力あるまちづくりおよび健康増進、防災拠点など様々な観点から活用の可能性についても検討を進めてまいります。</p>

1 企業支援 ⑥交流人口拡大

スタジアムおよびまたは民間施設内に「様々な機能を持つ障害福祉事業所」を併設していただきたいです。その事業所では、給与（工賃）として最低賃金を保証できるような仕組みを模索し、その成果をモデルケースに秋田県全体の底上げにつなげてほしいです。

また、ここに来れば特に秋田県は人口減少・少子高齢化の先進県であることから、日本中・世界中の福祉に関する最先端の知識や体験を得ることが出来る、総合福祉型エンターテイメント施設としての要素も組み込んでいただきたいです。

○就労継続支援 A (or) B 型事業所

・カフェレストラン併設

（多様性を認め合うカフェレストラン。障害や各種事情に対応し、どんな事情にも対応する）

（こども食堂機能、貧困等にも対応）

・規格外野菜販売所併設（卸売市場や農家より仕入れ）

・スタジアムを中心に、モデル地区内の企業より就労継続

支援事業所へ委託作業を提供していただく。

清掃、野菜梱包、品出しなど）

（委託作業については秋田市等障害福祉事業所にも調整、提供していく）

・就労移行に特化した就労継続支援事業所を目指し、障害者

の社会自立を推進していく。

・秋田市内等で跡継ぎ不足で事業継続断念しそうな伝統工芸や食品製造等商店の事業を作業内容として引き継ぐ。

・使える廃材のリサイクル、高付加価値のリサイクルを模索し、障害福祉事業所による製品という視点を越えたブランディングを行う。

・障害福祉事業所としての在り方も模索し続け、障害福祉モデル事業所にもしていきたい。

○放課後等デイサービスと学童保育が混合された事業所

・障害児と健常児のバリアをできるだけとりのぞいた場としての実践的モデル施設とする。

・障害児に対する学業も保証する、障害児に対する塾的な内容を有する。

・幼年期から障害児が友達であることが当たり前の環境を作っていく。

※わが国は、2022年9月に開催された国連の障害者権利委員会の審査において、障害児を分離した特別支援教育の中止などを求める勧告を受けました。

欧米のように健常児と一緒に学ぶ・過ごす場と機会を増やしていかない限り、障害児者と健常者とは違う人という感覚が払拭されず、差別の温床になっ

ていきます。一方で自閉症スペクトラムの方など慣れない場所と雰囲気になじまず、苦痛を感じてしまう場合もあります。其々に配慮できる環境を整備したごちゃまぜの環境を求めます。

○（障害福祉に対する）世の中の要望に応じて、事業内容を順次拡大していく。→スタジアム内ではないモデル区域内or近隣地域。

○医療ケア児も家族もその人らしく生きられる支援の場（保育園）

・医療的ケア児支援法が成立したものの、秋田市では実際に医療的ケア児の受け入れに前向きな保育園・認定こども園は現在ない状況。そこで、医療的

ケア児を受け入れ、また他の保育園等が受け入れる際や受け、入れた後の課題の解決へ一緒に取り組むことのできる実践の場とする。

○総合福祉型エンターテイメント施設

・例えば、視線入力の体験や相談の受付、常設型eスポーツ施設、デジリハ、ダイアローグインザダーク、分身ロボットカフェ、注文を間違える料理店、VRを用いた体験型のくつろげないカフェ、さらに自立支援用の体験型シェアハウスなどを整備し、高齢者福祉・障害者福祉に関する全国での先進事例と情報を集積し、全国から視察が止まない施設を作る。

◎ 以上のような内容によってSDGsの数項目をまちづくりに組み込むことが可能になります。（17項目中13項目）

1. 「貧困をなくそう」

2. 「飢餓をゼロに」（近づける）

3. 「すべての人に健康と福祉を」（近づける）

4. 「質の高い教育をみんなに」（近づける）

5. 「ジェンダー平等を実現しよう」

8. 「働きがいも経済成長も」（事業所内にて）

9. 「産業と技術革新の基礎を作ろう」（障害福祉分野等）

10. 「人や国も不平等をなくそう」

11. 「住みつけられるまちづくり」

（障害者等少数派にとっても住み続けたいまちづくり）

12. 「つくる責任 つかう責任」（食品ロスの軽減）

15. 「緑の豊かさを守ろう」

16. 「平和と公正をすべての人に」

17. 「パートナーシップで目標を達成しよう」

・P7～P13を拝見しても「多様性への対応」が抜け落ちているように感じます。

・スタジアムは「フットボール専用スタジアム」となっていますが、建設費用等を考えても、様々な活用方法を考えていかないといけないのではないのでしょうか？スポーツチームの練習、トレーニング、試合以外、人気がないではなくいつも人の出入りがある方が活気あるように思えます。

・福祉事業所はイオングループとも連携できれば、さらなるモデルケースとなりえます。

（埼玉県ふじみ野市の「イオンタウンふじみ野」と就労継続支援B型事業所「リハワークふじみ野」の例）

「地域と福祉を関連させることによって生じる独自性と必要性」（独自性）

・（福祉を含む）SDGsの実現をまちづくりの目的に加えていけば、秋田県内はもちろん、他県にも少ない独自性を持った地区となるはず。＜インクルージョン・地域共生・ダイバーシティ＞

（外旭川地区である必要性）

・（障害等）福祉側からの外旭川地区である必要性としては、イオンモール・卸売市場・スタジアムの3大施設は、それぞれ連携していただくことで障がい者の社会自立の力となっただけの可能性もあります。また、上記の連携がうまくいけば就労継続支援事業所における低賃金（低工賃）の現状を打破し、秋田県内の就労継続支援事業所の成功例としてのモデル事業所になり得ます。

ご提案いただいた「様々な機能を持つ就労継続支援施設」や「総合福祉型エンターテイメント施設」については、外旭川地区のまちづくりにおいて実現することは難しいものと捉えておりますが、今後の参考とさせていただきます。

59

○4章 土地利用計画・土地利用上の手続と課題

No.	意見	意見に対する市の考え方
1	<p>卸売市場を現状敷地とすることは、使用しながらの工事となるため制約が多く、ローリングも複雑になることから、社会情勢を踏まえても工事費は高騰し、また既存施設を利用するいくつもの業者との調整が必要となり、関係者の労力は多大になるでしょう。利用されていない区画が多いとしても飛び地の空地を利用しての再整備となり、根本的解決にならないのではないかと考えます。</p> <p>(現状の卸売市場が敷地の半分程度しか利用していないとして、北もしくは南半分に分けて工事することが可能であれば問題ないかもしれません)</p> <p>市場関係者の意向は「道路を渡らない」ということであると想定されるため、民間施設2に移設新築の方が整地等を含めて最低限で充実した施設整備が可能であり、現卸売市場跡地は解体整地後、民間に売却するべきではないでしょうか。</p> <p>民間施設敷地は道路との高低差が大きく、造成工事等で大きな負担がかかるため、市側で半分でも負担軽減を図ることができれば、後のサービス向上にもつながるのではないのでしょうか。</p> <p>また、スタジアム敷地との分断を解消するための高架橋(人工地盤?)や地下道の整備を行うにしても、東西どちらかにまとめた方が市側で一体的な整備を行いやすいのではないかと考えます。</p>	<p>卸売市場再整備の位置については、安定的に事業用地を確保できることや造成工事が不要なことなどに加え、市場内事業者の意向も踏まえて現敷地内としたものです。</p> <p>他都市卸売市場の再整備状況や様々なシミュレーションにより現敷地内でのローリングによる施工が可能であると判断しておりますが、現施設を使用しながらの工事となるため、卸売市場の業務に支障が生じないよう、市場内事業者とも協議しながら十分な対策をとってまいります。</p> <p>また、新スタジアムの整備候補地についても、近接住宅地への影響等を踏まえたものであり、南北のアクセス確保については、今後検討を進める中でその必要性について検討することとしております。</p>
2	<p>県庁・税務署等の移転を望む。</p>	<p>外旭川地区のまちづくりは、これまでにない新たな官民連携の取組として、先端技術の活用や民間事業者の優れたノウハウと知見を生かした様々な取組により「人口減少下にあっても持続可能な社会基盤の構築」と「交流人口の拡大による新しい活力や魅力づくり」を目指すものであり、現段階では公共機関・施設の移転は考えておりません。</p>
3	<p>秋田市が抱える課題解決は急務と考えます。すべてにおいてスピード感を持つことが重要であり、今回の未来投資促進法の活用することは賛成です。</p>	<p>「人口減少下にあっても持続可能な社会基盤の構築」と「交流人口の拡大による新しい活力や魅力づくり」の実現に向け、引き続き取り組んでまいります。</p>
4	<p>横山金足線で分断されることになるが、交流の具体的な対策(案)はあるのか。</p> <p>卸売市場が隣接していることの連携や相乗効果とは具体的にどのようなことが想定されるのか。</p> <p>新スタジアム用地の内、スタジアム本体の面積、駐車場の面積(台数)はどの程度を想定しているのか。</p> <p>スタジアムへのアクセスは利便性に問題があるかと考える。ある程度スタジアム単独の駐車スペース確保が必要ではないか。</p>	<p>卸売市場再整備は現在地、新スタジアムと民間施設については、事業パートナーであるイオンタウン株式会社との協議により配置した場所を基本とし、各施設へのアクセスの確保や横山金足線による分断への対応などを含むインフラ整備について検討することとしております。</p>
5	<p>課題にもあったように市街化区域が拡大し、集客が分散してしまうと思います。子育て世代の終わりの時期、高齢者が増えるなどが見えている中、継続して建物の維持ができるのか不安です。</p>	<p>人口減少下にあっては、市外・県外からも人を呼び込めるまちづくりが必要であると考えております。一方で、にぎわいの創出には中心市街地や他地域の商業施設、商店街等との連携が重要であるとの考えから、事業パートナーにも中心市街地への影響や配慮についての考えを求めており、引き続き協議・検討してまいります。</p>
6	<p>農地の転用には国の許可が必要になってくるので遅滞することなく手続を進めて欲しい。</p> <p>県とのすり合わせは終わっているのだろうか?</p>	<p>農地転用については、本基本構想を策定した後、土地利用に関する課題が整理された段階で関係機関等と協議を進めることとしております。必要な手続等については、遅滞なく進めてまいります。</p>
7	<p>参考になりました。</p>	<p>「人口減少下にあっても持続可能な社会基盤の構築」と「交流人口の拡大による新しい活力や魅力づくり」の実現に向け、引き続き取り組んでまいります。</p>
8	<p>卸売市場から横山金足線に出るには現在不便を感じます。アクセス道路の新設は考えておるのでしょうか。</p> <p>スタジアム新設にあたって、試合の前後の渋滞が発生しますが何か対策はあるのでしょうか。</p>	<p>モデル地区周辺の道路等のインフラ整備については、今後、事業が具体化される中で、各施設管理者と整備のあり方について検討してまいります。なお、道路については、交通解析等の調査を行ったうえで交通処理計画を策定し、必要な道路改良を行うことを想定しております。</p>
9	<p>・農業県として「スマート農業」のモデルとして発展する事は期待したい。</p> <p>・民間企業の誘致にも期待したいが、経済効果がなくて撤退されないか不安。</p>	<p>「人口減少下にあっても持続可能な社会基盤の構築」と「交流人口の拡大による新しい活力や魅力づくり」の実現に向け、引き続き取り組んでまいります。</p> <p>また、民間事業者からの提案で、実現性が担保されない事業については、提案内容のまま進めることはできないものと考えており、見直しなどの対応を事業パートナーに求めてまいります。</p>
10	<p>ありきで考えたものに他ならない。</p>	<p>「人口減少下にあっても持続可能な社会基盤の構築」と「交流人口の拡大による新しい活力や魅力づくり」の実現に向け、引き続き取り組んでまいります。</p>
11	<p>目指す方向性は間違っていないし、地域を活性化していく必要があると思うので、それに必要な手続は、理由付けが困難だ等できない理由を並べるより先にどうしたら実現できるかを考えずすめていくべきである。</p> <p>現状を見ていると、やりますと口では言っているが、本当はやりたくなく、どうやったら話がすすまないようにできるかを検討しているようにしか見えない。</p> <p>本当に、検討する気があるなら、どうやったら解決できるのかを検討してほしい。</p>	<p>現在モデル地区を検討している範囲は、土地利用上の制限がありますが、卸売市場と新スタジアム、民間施設を一体的に整備し、AIやICT等の先端技術を活用した取組を行うことで、にぎわいの創出等における相乗効果が得られるものと考えております。また、土地利用については、当該地区の状況や関係法令による規制等を勘案し、課題への対処として、地域未来投資促進法の活用を第一として手続を進めることとしたものです。</p> <p>「人口減少下にあっても持続可能な社会基盤の構築」と「交流人口の拡大による新しい活力や魅力づくり」の実現に向け、引き続き取り組んでまいります。</p>

12	<p>① 「秋田市卸売市場再整備基本方針」において、「本市場における令和元年度の取扱数量から概算した現有施設規模の概ね3分の2程度を目安とする」との記載があったが、「基本構想骨子案」の卸売市場敷地面積は現敷地面積と変わっていない。公募時の3つの案のように、3分の2程度の敷地面積で十分なのではないか。</p> <p>② 「新スタジアム整備に向けた諸課題の調査・研究について」において、「J1基準：174.4m×128.2m」つまり約22358㎡との記載があったが、「基本構想骨子案」の新スタジアム敷地面積は82000㎡であり、60000㎡ほど余分であるとみられる。これは周辺設備(駐車場等)のための敷地であると捉えたが、それにしては広すぎるのではないか。</p> <p>③ 卸売市場の再整備にあたって、現在と同じ敷地に整備を進めることは卸売市場の業務に影響を与えるのではないか。</p> <p>④ 泉外旭川駅から新スタジアムへ向かう歩行者の動線および、南側の敷地と北側の敷地を往来する歩行者の動線は不適切ではないか。横山金足線と同一平面上に動線を配置するのは困難であると考えられる。</p> <p>以上の4点より、私は公募プロポーザルの際に出された第3案のような横山金足線を跨がない土地利用を推奨する。立体駐車場にすれば、駐車場不足・敷地不足は解消できるだろう。また、民有地の持ち主と摩擦が生じる可能性は下げるべきではないか。</p>	<p>事業パートナー選定プロポーザルでは、モデル地区の範囲について、卸売市場、新スタジアムおよび民間施設を一体的に整備することで得られる相乗効果を生かしたいとの考えから、現卸売市場およびその周辺を条件として、事業パートナーであるイオンタウン株式会社より提案を受けたものであります。現在、事業パートナーからの提案を基本として協議を進めているところであり、最終的には、必要な取組などを踏まえて市が決定します。</p>
13	<p>「新スタジアムと民間施設が隣接しているため連携・相乗効果」との記載があります。サッカースタジアムは「サッカーを楽しむこと」がメインではありますが、それだけではありません。スタジアムの出店で食事を楽しむ、ゲストのトークショーやライブなど関連イベントで気分を上げる、アウェーサポーターとの会話を楽しむ等、スタジアム全体が「非日常のテーマパーク」となります。そのため、魅力的な観光施設とスタジアムの親和性は非常に高く、文字通り多くの相乗効果が期待されます。スタジアムでサッカーを楽しんだ数千人がそのまま観光施設で買い物を楽しむという好循環が生まれると考えます。法整備にハードルが高いことは把握していますが、完成後の経済効果は大きいので、ここは自治体の努力にかかっていると考えます。期待しております。</p>	<p>新スタジアムについては、プロスポーツ単体利用だけではなく、これからの秋田を担う若い世代への楽しみの場の提供、秋田の活性化や魅力あるまちづくりおよび健康増進、防災拠点など様々な観点から活用の可能性についても検討を進めてまいります。</p>
14	<p>・元々の案は、市有地上の卸売市場をどかして、そこを中心にイオンタウンが商業施設を作り、卸売市場はイオンタウンの民有借地をさらに転借するという「異常」な形態が想定されておりました。今回の案ではそれは避けられたようですが、市有地を民間に払い下げて、市の施設を民有地に賃借するというような倒錯的発想は断じて拒絶して頂きたいと思っております。それは訴訟の対象になりかねないからです。</p>	<p>卸売市場再整備の位置については、市有地であり土地の取得や賃借が不要であること、土地の造成が不要であることなどの理由に加え、市場内事業者の意向を踏まえて決定したものです。</p>
15	<p>泉外旭川駅が開業し、さらに周辺の道路整備も進むなか、今回のモデル地区の開発を契機として、泉外旭川地区全体が活性化していくと期待される。地域活性化をより効果的に進めるためには、幅広い年齢層の市民が住み、集い、交流し、働くなど様々な活動のできる環境を整えることが必要と考えます。</p> <p>骨子案によると、卸売市場及びモデル地区の南側には僅か4ヘクタールほどの農業振興地域農地が、市街化調整区域として「飛び地(袋地)」状態で残ってしまいます。</p> <p>この農地は、既に西側、南側、東側を住宅地等の市街化区域に取り囲まれており、一部は耕作放棄地として荒れ放題となっていることなどから、営農環境は年々厳しくなっております。加えて、地権者も多数(就農は高齢者数名)であることから、大規模圃場整備もスマート農業も極めて厳しい状況です。</p> <p>こうした規制の厳しい「飛び地(袋地)」を有効活用が可能な土地に変更し、泉外旭川駅からモデル地区までつながる泉外旭川地域全体が、「面」として一体的に開発されていく必要があると思っております。</p> <p>強い規制のまま「飛び地(袋地)」として残された場合、その区域だけが地域活性化から取り残されることになり、その地区にかかわりを持つ秋田市民から見ると、不公平と感じると思っております。過去からのこの地区の経緯を見ても、わずかな面積の地域に、不公平な開発は、いかなるものでしょうか。秋田市民としてこのような不公平感はなくしていく必要があると思っております。</p> <p>この地域は、かつて、帝国石油(株)の原油採掘する重要な現場でした。日本の経済発展に尽くした石油産業の現場でした。今でも、「油井」の見える風景がそれを教えてくれています。県外から訪れた人に説明すると、じっくり眺め、感心しています。外旭川地区には、いい地域財産もあります。今後の開発の中で、この地域財産の活用も視野に入れていただきたいと考えます。</p>	<p>事業パートナー選定プロポーザルでは、モデル地区の範囲について、卸売市場、新スタジアムおよび民間施設を一体的に整備することで得られる相乗効果を生かしたいとの考えから、現卸売市場敷地およびその周辺を条件として提案を受けたものであります。現在、事業パートナーからの提案を基本として協議を進めているところであり、最終的には、必要な取組などを踏まえて市が決定します。</p> <p>市としてもこの農業振興地域に飛び地が生じることは認識しておりますが、現時点では、事業パートナーから提案があった範囲を基に検討しております。</p>
16	<p>泉外旭川駅が開業し、さらに周辺の道路整備も進むなか、今回のモデル地区の開発を契機として、泉外旭川地区全体が活性化していくと期待される。地域活性化をより効果的に進めるためには、幅広い年齢層の市民が住み、集い、交流し、そこで働くなど様々な活動のできる環境を整えることが必要と考えます。</p> <p>骨子案によると、卸売市場及びモデル地区の南側(泉外旭川駅から2km以内の位置)に、僅か4ヘクタールほどの農業振興地域農地が、市街化調整区域として「飛び地(袋地)」状態で残ってしまいます。</p> <p>この農地は、既に西側、南側、東側を住宅地等の市街化区域に取り囲まれており、「煙の出る穀殻燻炭作りや悪臭が発生する堆肥作り」が難しい状況にあり、加えて、一部は耕作放棄地として荒れ放題となっていることなどから、営農環境は年々厳しくなっております。また、地権者も多数(就農は高齢者数名のみ)であることから、大規模圃場整備もスマート農業も極めて厳しい状況です。時間の経過とともに、高齢就農者がいなくなれば、結果として市街地の中に荒廃した農地だけが残ってしまうと想像されます。</p> <p>こうした利用規制の厳しい「飛び地(袋地)」は、有効活用が可能な土地に規制緩和し、泉外旭川駅からモデル地区までつながる泉外旭川地域全体が、「面」として一体的に開発されていくことを希望します。</p> <p>厳しい規制のまま「飛び地(袋地)」として残された場合、その区域だけが地域活性化から取り残されることになり、その地区にかかわりを持つ秋田市民にとっては、実に不公平と感じます。不公平感はなくしていく必要があると思っております。</p>	<p>事業パートナー選定プロポーザルでは、モデル地区の範囲について、卸売市場、新スタジアムおよび民間施設を一体的に整備することで得られる相乗効果を生かしたいとの考えから、現卸売市場敷地およびその周辺を条件として提案を受けたものであります。現在、事業パートナーからの提案を基本として協議を進めているところであり、最終的には、必要な取組などを踏まえて市が決定します。</p> <p>市としてもこの農業振興地域に飛び地が生じることは認識しておりますが、現時点では、事業パートナーから提案があった範囲を基に検討しております。</p>

17	地域が抱える社会課題は、待ったなしで進んでいます。本構想実現に向け、様々な課題はありますが、関わる方々が「すべては秋田のために」をモットーに、皆が同じ方向を向いて進めていくことが大切だと思います。そのうえで、実現可能な方法策として地域未来投資促進法などを活用しとにかく迅速に進めることが未来の明るく照らすものと思います。	「人口減少下にあっても持続可能な社会基盤の構築」と「交流人口の拡大による新しい活力や魅力づくり」の実現に向け、引き続き取り組んでまいります。
18	市街化調整区域に関しては、地域未来促進法の活用でいいのではないですか？頑張ってください。	「人口減少下にあっても持続可能な社会基盤の構築」と「交流人口の拡大による新しい活力や魅力づくり」の実現に向け、引き続き取り組んでまいります。
19	手法2を基本線に進めることに賛同する。	「人口減少下にあっても持続可能な社会基盤の構築」と「交流人口の拡大による新しい活力や魅力づくり」の実現に向け、引き続き取り組んでまいります。
20	(14P) (オ) 卸売市場と新スタジアムの双方が民間施設と隣接していることから、民間施設との連続や相乗効果が期待できます。	外旭川地区のまちづくりは、卸売市場再整備、官民連携で行う新スタジアム整備および民間施設の整備と、先端技術を活用した様々な取組を一体的に行うことで、「人口減少下にあっても持続可能な社会基盤の構築」と「交流人口の拡大による新しい活力や魅力づくり」を目指すものであり、その実現に向け、引き続き取り組んでまいります。
21	市場、スタジアム、民間施設等の施設においては、市民が簡単、自由に利用できるのはもちろん、県外より受け入れる為に交通、宿泊、飲食すべての事業者と連携し魅力あるモデル地区をお願いしたい。その事で秋田全体の活性化につながると良いと思う。	「人口減少下にあっても持続可能な社会基盤の構築」と「交流人口の拡大による新しい活力や魅力づくり」の実現に向け、引き続き取り組んでまいります。いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます。
22	P14の(3)のウの対策として、秋田駅のポポロードの様な感じにしてはどうかと思います。	「人口減少下にあっても持続可能な社会基盤の構築」と「交流人口の拡大による新しい活力や魅力づくり」の実現に向け、引き続き取り組んでまいります。いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます。
23	特区的な都市計画法に基づく地区計画を設定することで、無秩序な開発が抑制されることは、開発する上で安心できることである。	地域未来投資促進法に基づく農地に関する規制の特例措置の活用と都市計画法に基づく地区計画を設定することで、地区の特性に合った土地利用の誘導が図られ、良好な都市環境を維持・形成できるものと考えております。
24	現在の八橋公園ではイベントを開催するのに十分な面積がなく、2,000～3,000人の来場でも混雑が発生するため、新スタジアムには大規模イベントがあっても人がすれ違えるような十分なスタジアム前広場が必要だと考える。	新スタジアムについては、プロスポーツ単体利用だけでなく、これからの秋田を担う若い世代への楽しみの場の提供、秋田の活性化や魅力あるまちづくりおよび健康増進、防災拠点など様々な観点から活用の可能性についても検討を進めていきます。いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます。
25	計画地は先人から引き継いだ広大な美田が広がる秋田市が誇るべき近郊農業地帯で、これまで市街化調整区域や農用地区域として守られてきたところ、地域未来投資促進法を活用し規制解除してまで事業(市場の位置は除く)を行おうとしている。同法の目的は、地域の特性を活かして高い付加価値を創出し地域の事業者に対する相当の経済波及効果を及ぼす事業を実施する民間事業者を支援することにより、地域の成長発展の基盤強化を図るとされている。 H27年に秋田市が行ったイオンタウンの「秋田北/農/工/商共存型まちづくりの構想」の検証結果では、交流人口、地元事業者、雇用、税収、地元経済・商業、農業、インフラ、環境、まちづくりのいずれもメリットがないとしているうえ、イオン進出は全国各地で地域経済を弱肉強食やゼロサムゲームに陥らせている。今回のイオンの計画が、法の目的である地域の成長発展の基盤強化に資する理由と、理由を裏付ける検証が必要である。	ご意見にあるイオンタウンの「秋田北/農/工/商共存型まちづくりの構想」は、民間事業者による開発計画でしたが、現在検討を進めている「外旭川地区まちづくり」は、市と民間事業者が協働で行う官民連携によるモデル地区として実施するものであり、市が主体となって進めているものです。地域未来投資促進法を活用した先進事例では、交通インフラを活用した商業・物流関連分野や観光・文化・まちづくり分野などを対象とした基本計画も策定されており、外旭川地区のまちづくりでは、こうした分野における地域経済牽引事業について検討してまいります。
26	広大な敷地を、自由にレイアウトできるメリットがある。	モデル地区の範囲については、事業パートナーからの提案を基として協議を進めているところであり、最終的には、必要な取組などを踏まえて市が決定します。
27	1章～3章に関する意見で述べた通り、このモデル地区における土地利用に関しては、新スタジアム、民間施設は取りやめ、卸売市場再整備など「にぎわいの創出」に関係しないものに限るべきです。したがって、土地利用上の手続きに関してもその考え方に適応したものにすることが必要です。	卸売市場への新たな機能の付加や民間施設の整備、先端的サービスの実施に当たっては、一体的に整備・導入を行うことでまちづくりとしての相乗効果が得られるものと考えており、それらは本市の抱える課題の解決につながるものと認識しております。また、スタジアム整備は、一般的に経済効果や交流人口の増加のほか、災害時の防災拠点としての活用や県民・市民の幅広い利用など一定の公共性があると認識しております。このため、外旭川地区のまちづくりでは、卸売市場と新スタジアム、民間施設を一体的に整備し、AIやICT等の先端技術を活用した取組を行うことで、にぎわいの創出等における相乗効果が得られるものと考えております。
28	このモデル事業の内容が不十分なため、そもそもこのエリアを整備する必要性すらもまた同様に曖昧であるという印象を受けます。このような状況で、当該エリアを整備するために地域未来投資促進法を活用できるとする安易な記載は見直す必要があると考えます。 この特区的な法律が適用される計画は、農地法等の適用を緩和してでも実施する価値がある極めて特色あるものに当然に限られるべきものです。今のモデル事業の内容で、市が率先して農地法や都市計画法を逃れようとするのは、この特例法の趣旨に反する極めて不適切なもので、また悪質な運用です。農地法等の既存の法律をないがしろにしています。まずは基本法である農地法や都市計画法の中で検討を進めるのが当然で、未来投資促進法による整備は現時点では参考程度の記載に留めておくべきと考えます。 この大規模開発は、市の将来にかかわる極めて重要な決定となります。中核市としての責任と自覚を持ち、もう少し丁寧かつ慎重に議論を進めてほしいと考えます。	モデル地区とは、人口減少・少子高齢化に伴う課題解決と持続可能な社会基盤の形成につながる、「先端技術を活用した取組のモデルとなる地区」であり、また、新たな魅力や価値を創出する「官民連携の取組のモデルとなる地区」でもあります。モデル地区での取組は「外旭川地区でしかできない取組」ではなく、全市的な課題解決に向けた実証的な取組を実施するものであり、そこで得られた成果を、広く他の地域で活用することで本市全体の社会基盤の構築と新たな魅力や価値の創出につなげるものであります。また、地域未来投資促進法は、地域の経済を牽引する事業について、土地利用規制の特例措置を認めているものであり、地域の特性を活用して高い付加価値を創出することを求めています。外旭川地区は、泉外旭川駅の開業、秋田北インターチェンジや秋田港への近接、都市計画道路泉外旭川線など、交通・物流機能に優れた地域性があり、これらを生かした付加価値を創出する事業に地域未来投資促進法を活用することは、より本市の考えや目的に合致するものと考えております。 本事業の重要性を踏まえ、引き続き丁寧かつ慎重な議論に努めてまいります。
29	きちんとまとめられていてわかりやすい。手続きに関しては肅々と進めるしかない。	「人口減少下にあっても持続可能な社会基盤の構築」と「交流人口の拡大による新しい活力や魅力づくり」の実現に向け、引き続き取り組んでまいります。
30	道路によりモデル地区が分断されている事で、人の横断の為に信号機設置等で車の流れが止まり、交通渋滞がおこるようになると思う。	道路については、モデル地区周辺の道路の整備状況や予想される交通の渋滞状況を踏まえ、渋滞緩和や歩行者の安全性に配慮した整備について検討を進めてまいります。
31	横山金足線は皆さんの新しい町の構想ということで、歩行者だけでなく、車の方の動線、駐車場の活用のしやすさ、広さなど、今後の検討に期待したい。民間施設と公共の施設の共存になるので、互いの話し合いが大切になってくると考える。お客様のことを第一にそれぞれの主張が生かされるといいですね。	「人口減少下にあっても持続可能な社会基盤の構築」と「交流人口の拡大による新しい活力や魅力づくり」の実現に向け、引き続き取り組んでまいります。

32	冬季、除雪・地吹雪にたいする管理体制が必要と考えます。	冬期間における管理体制については、所管する部署も交え十分に検討してまいります。
33	新スタジアム整備に関しては、市街化調整区域への造成計画でもあり、土地利用上の課題であるが、ぜひともP15・P16の2つの手法を活用しぜひとも実現していただきたい。新スタジアムの配置案は近隣住宅が近くなく好立地の条件であると認識しているが、このモデル地区は秋冬期間の北風・西風が強いのでは、と考察する。気象環境にも対応しうるスタジアムであることを期待したい。	新スタジアムについては、プロスポーツ単体利用だけではなく、これからの秋田を担う若い世代への楽しみの場の提供、秋田の活性化や魅力あるまちづくりおよび健康増進、防災拠点など様々な観点から活用の可能性についても検討を進めていきます。また、ご意見のあった冬期間の風対策についても事業主体と協議してまいります。
34	この4章はパブリックコメントにはなじまないのではないかと。	幅広い意見をいただきたいとの考えから、基本構想全体をパブリックコメントの対象としたものです。
35	「市街化調整区域」を区分変更し市街化区域を拡大することは、人口減少下ハードルが高いので「地域未来投資促進法」を活用することによりこの事業を進めたいとのことですが「経済的効果」が見込まれる事業として前章において例示があったものは前述のようにこの地域でなければならないというものはほとんどありません。特に「スマート農業」などの「次世代型農業の展開」など、農地の賃貸を承諾した地権者たちは結局農業に見切りをつけざるを得なかったわけで、この地域で誰に農業をやってもらおうとしているのでしょうか。地元以外の人たちでしょうか。矛盾を感じるどころです。	地域未来投資促進法は、地域の経済を牽引する事業について、土地利用規制の特例措置を認めているものであり、地域の特性を活用して高い付加価値を創出することを求めています。外旭川地区は、泉外旭川駅の開業、秋田北インターチェンジや秋田港への近接、都市計画道路泉外旭川線の整備など、交通・物流機能に優れた地域性があり、これらを生かした産業分野の付加価値を創出する事業に地域未来投資促進法を活用することは、より本市の目的や考えに合致するものと考えております。また、モデル地区での取組は「外旭川地区でなければできない取組」ではなく、全市的な課題解決に向けた実証的な取組を外旭川地区で実施したいと考えており、そこで得られた成果を、広く他の地域で活用し、本市全体の社会基盤の構築と新たな魅力や価値の創出につなげるものであります。
36	骨子案で良いと思う。	「人口減少下にあっても持続可能な社会基盤の構築」と「交流人口の拡大による新しい活力や魅力づくり」の実現に向け、引き続き取り組んでまいります。
37	「地域未来投資促進法」を活用することとなると思われ、無秩序な開発が抑制できることは良いが、施設を魅力あるものにするためには硬直した考え方を排除し、柔軟に選択肢を多くすることが必要と考える。	地域未来投資促進法に基づく農地に関する規制の特例措置の活用と都市計画法に基づく地区計画を設定することで、地区の特性にふさわしい土地利用の誘導が図られ、良好な都市環境を維持・形成できると考えております。
38	秋田港、高速道路、JRの利活用が考えられる地域であり効果的な利活用を目指して欲しい。	「人口減少下にあっても持続可能な社会基盤の構築」と「交流人口の拡大による新しい活力や魅力づくり」の実現に向け、外旭川地区の特性や地域資源を生かしたまちづくりとなるよう、引き続き検討してまいります。
39	現状田んぼなので、農業用水の水路の処置や排水などをしっかり計画してもらいたい。今まで雪や雨を受けていた田んぼがなくなるので、下水能力を上げてもらわないと、水害が発生すると思う。	いただいたご意見については、農業用施設の管理者等とも対策について協議してまいります。
40	卸売市場が現地建替えとなった段階で手法的には「地域未来投資促進法」なる法を活用するしかないと考え。手続・課題は私達がコメントすべきものではない。本計画が想定事業スケジュール通りではなく、それよりも早く実行していただきたい。その為には経験豊富なイオンと当局が早急にチームを作り進めていくことが寛容である。	基本構想の策定後も基本計画の策定、事業パートナーや協力企業との協議、土地利用に関する諸手続や関係機関との調整などを要することから、工事着手までには一定の期間が必要だと考えており、関係各所と協議しながら適切に進めてまいります。手続等に要する期間の短縮についても、それぞれの段階において検討してまいります。また、イオンタウン株式会社と本市は、「秋田市外旭川地区まちづくり事業の推進に関する基本協定」を締結し、事業パートナーとして相互に連携して協議を進めております。
41	利用計画の手法・手続等は所管の担当される部署で、スピード感を持って取り組んで欲しい。課題は意見として申し述べるものではない。	「人口減少下にあっても持続可能な社会基盤の構築」と「交流人口の拡大による新しい活力や魅力づくり」の実現に向け、引き続き取り組んでまいります。
42	計画には必ず課題は有ると思います。でも今の計画はとても良いと思います。	「人口減少下にあっても持続可能な社会基盤の構築」と「交流人口の拡大による新しい活力や魅力づくり」の実現に向け、引き続き取り組んでまいります。
43	特に卸売市場は長年老化が話題にはなり再整備案を望む方もいたのではないかと思います。具体的に民間施設と新スタジアムの相乗効果とは何か、いかがなものなのかを積極的にPRがてら発信していただきたいと用途確定しだい強く願います。	卸売市場は、市民に安全で安心な食料を安定的に届ける重要な役割を担う施設であります。加えて、人口減少が進む本県においては、本市場が担う役割はさらに重要になると考えております。また、再整備については、これまで、市場内事業者などと十分な検討を行ってきております。新スタジアムについては、その規模や機能、多用途での活用方策、民間施設等との相乗効果を生み出す取組などについて、引き続き県や関係者と十分に協議するとともに、県民・市民の理解が得られるよう丁寧に説明してまいります。また、民間事業者が整備する観光・集客施設についても、体験・参加型施設などの提案を受けており、本市が掲げる7つの取組と連携させながら交流人口の拡大や若者にとって魅力あるまちにつなげていきたいと考えております。こうしたことから、卸売市場再整備、官民連携で行う新スタジアム整備および民間施設の整備と、先端技術を活用した様々な取組を一体的に行うことで、「人口減少下にあっても持続可能な社会基盤の構築」と「交流人口の拡大による新しい活力や魅力づくり」を目指すものです。

○5章 インフラ整備方針

No.	意見	意見に対する市の考え方
1	地方の秋田ではやはり車ありきの生活基準になってしまうので、事業化中の道路が完成することでどれだけアクセス性が向上するのか明確化して欲しい。	道路の整備については、周辺道路の整備状況や交通の渋滞状況を踏まえ、市街地の渋滞緩和や歩行者の安全の確保などの事業効果の高い路線を優先的に整備を進めております。 都市計画道路泉外旭川の整備では、徒歩による移動に関しても安全性と利便性の向上が図られるものと考えられ、今後、事業中区間の進捗状況を踏まえるとともに、モデル地区整備と歩調を合わせながら未着手区間の事業化について検討してまいります。
2	泉外旭川線の未着手区間の事業を早く実施するよう要望する。	都市計画道路泉外旭川線の未着手区間については、事業中区間の進捗状況を踏まえるとともに、担当部署と情報共有し、連携しながら検討してまいります。
3	・各施設管理者等との情報の共有を早目にして打合わせ等をする必要がある。	モデル地区周辺のインフラ整備をする場合、各施設管理者と適切な時期に協議を行い、事業の進捗に影響を与えないよう配慮してまいります。
4	今回の外旭川まちづくり事業について、現状で北東部にスタジアムが整備される方針だと思いますが、現行農地の為、上下水道が通っていない区域だと思えます。行政がインフラ整備をイオンタウンと研究しながらおこない、横山金足線の道路拡張やバスターミナルの設置・高速バスも停車できるスペースを整備しなければいけないと思えます。 また、外旭川駅からの導線についてもモビリティゾーンを整備してほしい。	今後、モデル地における各施設の用途や規模等を明らかにしていく過程において、整備のあり方を整理してまいります。 いただいたご意見については、インフラ整備の参考とさせていただきます。
5	・コンパクトシティを進めるべき。 ・既存のインフラの更新にも多額の費用が見込まれ、これ以上大規模なインフラは新設すべきではない。	外旭川地区のまちづくりは、本市がこれまで取り組んできた多核集約型コンパクトシティの考え方を基本としつつ、将来のまちづくりを見据え、行政だけでは実現できない、民間事業者の知見やノウハウを活用したまちづくりを行うものであり、多核集約型コンパクトシティを補完するモデル地区と位置付けるものであります。このモデル地区では、AIやICTなどの技術を活用した先端的なサービスの導入により、本市が抱える課題の解決を他の地域に先駆けて行い、この実証的な取組で得られた成果を他の地域にも波及させることで、全市をより充実発展させてまいりたいと考えております。 本基本構想は、外旭川地区まちづくりの基本的な方向性を定めるものであり、いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます。
6	インフラ整備において泉外旭川駅は集客の交通手段としては効果が小さいのではないかと（距離がある）そのため道路網の整備が重要と考える。 モデル地区整備と切り離し、泉外旭川線の事業化を早期に検討すべき。（ハイタウン内アンパスにより渋滞が予想される）	都市計画道路泉外旭川線の未着手区間については、事業中区間の進捗状況を踏まえるとともに、担当部署と情報共有し、連携しながら検討してまいります。
7	整備理由の1つとする泉外旭川駅からモデル地区まで徒歩移動のための整備はあるのでしょうか。	徒歩移動については、都市計画道路泉外旭川線の整備により、歩行者の安全性と利便性の向上が図られるものと考えられ、今後、事業中区間の進捗状況を踏まえるとともに、モデル地区整備と歩調を合わせながら未着手区間の事業化について検討してまいります。
8	都市計画道路泉外旭川線が我が町内にも通る計画になっている。計画道路上にある住宅居住者には平成7年に説明があったようであるが、27年が経過した現在、建替えている住宅がいくつもありアパートも建て替わっている。また、町内会館も計画道路上にあるのだが、どのような対応をしてくれるのだろうか？ 町内会長としても説明を聞きたいものである。	いただいたご意見は、都市計画道路泉外旭川線の所管部署に申し伝えます。
9	インフラ整備については多方面への配慮と利便性の向上に期待したいです。	モデル地区周辺の道路等のインフラ整備については、今後、事業が具体化される中で、各施設管理者と整備のあり方について検討してまいります。なお、道路については、交通解析等の調査を行ったうえで交通処理計画を策定し、必要な道路改良を行うことを検討しております。
10	（都）泉外旭川線ができたかなりアクセスも良くなって、良いですね。ただ、住宅街を突っきっているのが、日頃から渋滞がつづいたりしないか心配です。	道路の整備については、周辺道路の整備状況や交通の渋滞状況を踏まえ、市街地の渋滞緩和や歩行者の安全性に資する道路など事業効果の高い路線を優先的に整備を進めております。また、モデル地区周辺の道路については、交通解析等の調査を行ったうえで交通処理計画を策定し、必要な道路改良を行うことを検討しております。
11	卸売市場から横山金足線に出るには現在不便を感じます。アクセス道路の新設は考えておるのでしょうか。 スタジアム新設にあたって、試合の前後の渋滞が発生しますが何か対策はあるのでしょうか。	モデル地区周辺の道路については、交通解析等の調査を行ったうえで交通処理計画を策定し、必要な道路改良を行うことを検討しております。
12	インフラが新しく出来ることによる維持費の増大、古インフラ修理等のあとまわしが心配です。	モデル地区周辺の道路等のインフラ整備については、今後、事業が具体化される中で、各施設管理者と整備のあり方について検討してまいります。 いただいたご意見は、各インフラの管理部署にも申し伝えます。
13	・方針について問題があるかどうか分からない。 ・ただ、脱炭素化を意識して、開発して欲しい（オール電化など）。	モデル地区では、AIやICT技術を活用したエネルギーマネジメントシステムの活用により、エリア全体における電力供給の最適化を図る予定です。また、太陽光発電設備と秋田県由来の再生可能エネルギー電力を使用することで、エリア内消費電力の全てを再生可能エネルギー電気で賄いたいと考えております。
14	車社会の県なので、駐車場は大きく作ってほしいです。	施設の規模、配置等の検討の際に、適切な駐車スペースの確保についても検討してまいります。
15	住宅街のインフラ老朽化の更新に注力すべきである。	モデル地区周辺の道路等のインフラ整備については、今後、事業が具体化される中で、各施設管理者と整備のあり方について検討してまいります。 いただいたご意見については、各インフラの管理部署にも申し伝えます。

16	モデル地区として、卸売市場と民間商業施設、スタジアムと分けずに同時進行で全体を1つのものとして整備を考えた方が色々手続きの面でも開発もスムーズに進むと思う。また、完成後の機能性も上がると思う。	卸売市場と民間商業施設、新スタジアムについては、それぞれ事業主体が異なるほか、施設を整備するために必要な手続も異なってくることから、一つのものとして整備を進めることは難しいと考えております。なお、施設整備に当たっては、各施設の整備スケジュールについて、調整・連携を図り、無駄が生じないように留意してまいります。
17	都市計画道路泉外旭川線について、未着手区間には多くの住宅が見られ、多くの期間を要することが予想されるが、事業化する目処はたっているのか。また、住人の理解は得られているのか。	都市計画道路泉外旭川線の未着手区間については、事業中区間の進捗状況を踏まえるとともに、担当部署と情報共有し、連携しながら検討してまいります。
18	試合が行われる土日祝日は混雑が予想されます。サッカースタジアムへの移動手段は公共交通機関の利用がスタンダードですが、地方クラブでは試合日の周辺地域の交通渋滞が長年の課題になっています。駐車場を整備するとは思いますが、市外・県外からの観客はもちろん、市内からの観客もスムーズに公共交通機関を利用してスタジアム、民間施設に来ることができるような導線づくりも大切です。(秋田駅、秋田空港からの臨時バス運行等の検討)	公共交通機関や提案を受けているオンデマンドシャトルバス等によるアクセスの確保、計画地周辺の交通量増加に対する対応も必要であると考えておりますが、Jリーグ公式試合の観戦者用臨時シャトルバスの運行については、主催者が対応すべきものと考えます。 いただいたご意見は、ブラウブリッツ秋田にも申し伝えます。
19	特にありませんが、交通量調査や将来予測についても公表されているでしょうか？	周辺の道路整備については、今後、交通解析等の調査を行い、交通処理計画を策定することを検討しております。
20	道路については、渋滞が予想されるので、スタジアムや観光施設などの配置を考慮した上で、専門的知見を持った企業や研究所などの意見を入れるべきです。 電気については再生可能エネルギーを活用し、先進性に富んだ地区にすべきと思います。太陽光エネルギーや洋上風力発電との連携等が図れるのではないかと考えます。 その他、水道については専門的なので意見のしようがありませんが、新スタジアムの芝生の養成には多くの水が必要となり、現ソユースタジアムの水脈は家庭用水路を活用しているため水圧が不足し、時間管理費が増えていますので、その辺も考慮すべき点だと思えます。	周辺の道路整備については、今後、交通解析等の調査を行い、交通処理計画を策定することを検討しております。 また、モデル地区では、AIやICT技術を活用したエネルギーマネジメントシステムの活用により、エリア全体における電力供給の最適化を図る予定です。加えて、太陽光発電設備や秋田県由来の再生可能エネルギー電力を使用することでエリア内消費電力の再生可能エネルギー電気100%を目指すことを検討しており、将来的には、現在秋田沖で整備が進む洋上風力発電の導入も検討してまいります。 芝生の養生用の水の確保については、事業主体の民間事業者にも申し伝えます。
21	交通インフラ整備について モデル地区と泉外旭川駅を結ぶ泉外旭川線の未着手区間を整備するよりも、天徳寺通りを活用してはどうか。シャトルバス運行等を充実させたほうが泉外旭川駅の有効活用につながるのではないかと。今後の高齢者増を考慮した利用しやすい公共交通機関を検討すべきだと思ふ。未着手区間の検討はモデル地区完成後の状況を見てからでよいのではないかと。	交通アクセスについては、自動運転によるオンデマンドPMVやオンデマンドシャトルバスの提案を受けているところであり、本市で進めている公共交通網の再編に向けた検討とも調整を図り、利便性の確保に向けた検討を進めてまいります。 いただいたご意見については今後の参考とさせていただきます。
22	周辺道路に関してですが、現在も土日の横山金足線の車の混み具合は相当なものがあります。泉・外旭川地区に新しいまちが完成すればさらに車が混むことが心配なので、その対策をしっかりと検討していただきたいです。	モデル地区周辺の道路については、交通解析等の調査を行ったうえで交通処理計画を策定し、必要な道路改良を行うことを検討しております。
23	高齢化、雪対策等を考えれば動く道路(エスカレーター)とか地下の設置で楽しめる施設はどうか？巡回しているIT自動車、馬車(現代的)はどうか。	いただいたご意見については、事業パートナーとも共有し、今後の参考とさせていただきます。
24	「新スタジアム」は秋田に活気に満ちた環境が必要と考える。	外旭川地区のまちづくりでは、卸売市場再整備、官民連携で行う新スタジアム整備および民間施設の整備と、先端技術を活用した様々な取組を一体的に行うことで、「人口減少下にあっても持続可能な社会基盤の構築」と「交流人口の拡大による新しい活力や魅力づくり」を目指すものです。
25	P19(3)早く実現する事願います。	都市計画道路泉外旭川線の未着手区間については、事業中区間の進捗状況を踏まえるとともに、担当部署と情報共有し、連携しながら検討してまいります。
26	スタジアムは観客動員数を現況の3倍を目標としていることや、大型ショッピングセンターの集客などを勘案すると、都市計画道路泉外旭川線(整備中の区間と未着手区間)の整備とともに、現存の道路の拡張や整備も必要だろうと思われる。また、道路の混雑や渋滞を考えると、入り方も含めた駐車場のあり方も共に考えて行く必要があると思ふ。	施設の規模、配置等の検討の際に適切な駐車スペースの確保についても検討してまいります。このほか、提案を受けているオンデマンドシャトルバスの運行や、公共交通機関を利用したアクセスの向上、計画地周辺の交通量増加への対応なども同時に検討してまいります。
27	Jリーグ開催時には、特に試合終了後に駐車場から出る自動車による渋滞が発生すると思われることから、新スタジアム周辺の出口の確保や、県道へ繋がる市道の整備があると良い。	モデル地区周辺の道路については、交通解析等の調査を行ったうえで交通処理計画を策定し、必要な道路改良を行うことを検討しております。
28	脱車社会、脱化石燃料を目指し、公共交通機関によるアクセスが容易なまちづくりがコンパクトシティの間違いない方向性であるはず。エネルギー情勢の見通しが立たない現在、泉外旭川線の整備や横山金足線を拡張して、大型駐車場を整備し、自家用車での来訪を前提にした事業に、共感あるいは時代を見据えた先見性を感じる市民はいるだろうか。むしろ大型駐車場の整備をしないで、100%公共交通機関でアクセスできる手法を検討すべきである。この事業は、新たなインフラの整備が必要なことから、コンパクトシティとの整合は説明できないと思うが、説明可能であれば、インフラ整備方針に記載すべきである。	交通アクセスについては、自動運転によるオンデマンドPMVやオンデマンドシャトルバスの提案を受けているところであり、本市で進めている公共交通網の再編に向けた検討とも調整を図り、利便性の確保に向けた検討を進めてまいります。 本市が取り組んできた多核集約型コンパクトシティは、都心・中心市街地や地域中心に生活に必要なサービス機能を集約し、各拠点間を移動しやすい公共交通や道路網でつなぐことにより、効率的で持続可能な都市の形成を図るものであります。 外旭川地区のまちづくりは、この考え方を基本としつつ、将来のまちづくりを見据えたモデル地区を整備するものであり、その実現のためには、地域の特性を生かした事業が生み出す経済効果に着目し、これを最大化するための支援を行う地域未来投資促進法の活用を想定しております。 同法を活用し、特区的なまちづくりを行うことで、同地区は都心・中心市街地と6つの地域中心と同じ役割ではなく、多核集約型コンパクトシティを補完し、他の地域、ひいては全市をより充実発展させる取組を行う場になるものと考えております。
29	粛々と進めればよい。	「人口減少下にあっても持続可能な社会基盤の構築」と「交流人口の拡大による新しい活力や魅力づくり」の実現に向け、引き続き取り組んでまいります。
30	1章～4章に関する意見で述べた通り、このモデル地区における土地利用に関しては、新スタジアム、民間施設は取りやめ、卸売市場再整備など「にぎわいの創出」に関係しないものに限るべきです。したがって、インフラ整備に関してもその考え方に適応したものにする必要があります。	外旭川地区のまちづくりでは、卸売市場と新スタジアム、民間施設を一体的に整備し、AIやICT等の先端技術を活用した取組を行うことで、にぎわいの創出等における相乗効果が得られるものと考えております。本基本構想で掲げる7つの取組を連携させることで得られる成果を他の地域にも波及させることで、本市が若者にとって魅力あるまちとなるよう努めてまいります。

31	上下水道に関してはそれなりに設計しているのであれば問題ないが横山金足線を横断する工事が何か所か見受けられるので安全に工事してほしい。	モデル地区周辺のインフラ整備にあたっては、各施設管理者と適切な時期に協議を行い、事業の進捗に影響を与えないよう配慮するとともに、施行段階においては安全の確保にも十分留意してまいります。
32	泉外旭川線の早期完成の必要性を感じる。又、この道路が出来れば、横山金足線や他の交通の流れが良いか検討してほしい。	道路の整備については、周辺道路の整備状況や交通の渋滞状況を踏まえ、市街地の渋滞緩和や歩行者の安全の確保などの事業効果の高い路線を優先的に整備を進めております。 都市計画道路泉外旭川線の未着手区間については、担当部署と情報共有し、連携しながら検討してまいります。
33	現在の物価高騰を考えると、当初の予算設定が大幅に見直されると思います。様々な工事が順調に進められるか？心配になりました。いずれにしても、今後長く使われていく施設なので、安全と安心を第一に整備していただきたい。	インフラ整備において、物価高騰は懸念材料ではあることから、関係機関等と情報共有し、連携しながら検討してまいります。
34	現状では具体案が示されておらないので、今後の検討過程を注視したい。要望としては、モデル地区周辺のアクセス利便性の向上に加えて、公共交通機関（バス等）の整備拡充を進めてほしい。	交通アクセスについては、自動運転によるオンデマンドPMVやオンデマンドシャトルバスの提案を受けているところであり、本市で進めている公共交通網の再編に向けた検討とも調整を図り、利便性の確保に向けた検討を進めてまいります。 いただいたご意見については今後の参考とさせていただきます。
35	この5章もパブリックコメントにはなじまないと思う。	幅広い意見をいただきたいとの考えから、基本構想全体をパブリックコメントの対象としたものです。
36	既存インフラの状況を見ると現在は中央卸売市場周辺までしか整備されていないので、これから周辺道路の整備、新しい各施設への上下水道設備、電気ガス供給設備などの整備が必要となります。これにどのくらいの税金が投入されるのかも示されていません。このように「まち」が広がると除排雪などの費用もまた増えることになるし秋田市財政は大丈夫なのか心配になります。そのしわ寄せが他の市民サービスの切り捨てにつながりかねないことを懸念します。	モデル地区周辺のインフラ整備にあたっては、各施設管理者と適切な時期に協議を行い、事業の進捗に影響を与えないよう配慮するとともに、整備後の維持管理も含めて十分に検討してまいります。
37	骨子案で良いと思う。	「人口減少下にあっても持続可能な社会基盤の構築」と「交流人口の拡大による新しい活力や魅力づくり」の実現に向け、引き続き取り組んでまいります。
38	ゼロカーボンを目指す最先端の施設として、予算との兼ね合いはあると思うが、他の手本となる設備を採用していただきたい。ただし、全ての施設が同時期に出来る訳ではないので、段階的に出来上がる施設に効率的に配分できるように、緻密な計画で無駄な支出が出ないように実施していただきたい。	モデル地区では、AIやICT技術を活用したエネルギー管理システムの活用により、エリア全体における電力供給の最適化を図る予定です。加えて、太陽光発電設備や秋田県由来の再生可能エネルギー電力を使用することでエリア内消費電力の再生可能エネルギー電気100%を目指すことを検討しております。施設整備にあたっては、各施設の調整・連携を入念に行い、無駄が生じないように留意してまいります。
39	交通アクセス網の整備を最優先に考えて欲しい。道路網が最優先（泉外旭川線）となると思うが自動車以外の移動手段（車を利用できない若者や老人にも利用しやすい）を整備して欲しい。幅広い市民が平等に利用し易い手段を検討して欲しい。	交通アクセスについては、自動運転によるオンデマンドPMVやオンデマンドシャトルバスの提案を受けているところであり、本市で進めている公共交通網の再編に向けた検討とも調整を図り、利便性の確保に向けた検討を進めてまいります。 いただいたご意見については今後の参考とさせていただきます。
40	周辺の接続する道路の整備を行ってほしい。（せまい道を通り抜ける車も多いし、地盤沈下やヒビ割れが多く見られるので。）	モデル地区周辺のインフラ整備にあたっては、各施設管理者と適切な時期に協議を行い、事業の進捗に影響を与えないよう配慮するとともに、整備後の維持管理も含めて十分な検討を行ってまいります。
41	全てのインフラは配置が確定しないとコメントしようがない。	モデル地区周辺のインフラ整備にあたっては、各施設管理者と適切な時期に協議を行い、事業の進捗に影響を与えないよう配慮してまいります。また、インフラの整備計画についても、基本計画の中でお示しできるよう努めてまいります。
42	横山金足線から商業施設への出入口を交通渋滞の行らないようにする。横山金足線から左折、右折専用レーンの増設を行う。又、商業施設から横山金足線に出るための右折専用レーンの増設を行ってほしい。建物だけ立派な物を作りではなく、周辺道路の整備も、しっかり作ってほしい。	道路については、モデル地区周辺の道路の整備状況や想定される交通の渋滞状況を踏まえ、道路の渋滞緩和や歩行者の安全性に配慮した整備について検討を進めてまいります。なお、整備にあたっては、交通解析等の調査を行ったうえで交通処理計画を策定することとしております。
43	インフラ整備方針は計画が本決まりとなった時に、秋田市・事業パートナーが、全てのインフラについて話し合いをして決めるべきと考える。	モデル地区周辺の道路等のインフラ整備については、今後、事業が具体化される中で、各施設管理者と整備のあり方について検討してまいります。なお、道路については、交通解析等の調査を行ったうえで交通処理計画を策定し、必要な道路改良を行う予定で検討しております。
44	協議中との部分もあるかと思われませんが、今後も令和5年度の基本計画が策定なされなければ着手の責任は問うまでもなく市に転化分担なされ各社路線が関与の上で交通面でのインフラ整備は後戻り無くなく捗る位でありますので、慎重にしていればと思います。	モデル地区周辺の道路等のインフラ整備については、今後、事業が具体化される中で、各施設管理者と整備のあり方について検討してまいります。なお、モデル地区周辺のインフラ整備は、モデル地区の整備に歩調を合わせて行う予定としております。
45	この施設へのアクセスはもちろん、秋田市内全体の公共交通の見直しを求めます。例えば現在高齢者に限定されているワンコインバスの全世代ワンコイン化、あるいは18歳未満の公共交通の無償化を実施し、自家用車に頼らない高齢化しても安心して過ごせる街を実現していただきたい。	交通アクセスについては、自動運転によるオンデマンドPMVやオンデマンドシャトルバスの提案を受けているところであり、本市で進めている公共交通網の再編に向けた検討とも調整を図り、利便性の確保に向けた検討を進めてまいります。 なお、対象年齢を限定した場合であっても、公共交通の無償化は、受益と負担の適正化の観点から実施は困難です。

○6章 想定事業スケジュール

No.	意見	意見に対する市の考え方
1	全体的に1年前倒しを求む。	基本構想の策定後も基本計画の策定、事業パートナーや協力企業との協議、土地利用に関する諸手続や関係機関との調整などを要することから、工事着手までには一定の期間が必要だと考えております。関係各所と協議しながら適切なタイミングで事業を進めてまいります。
2	・いつもながら、時間がかかり過ぎて若い人は興味をなくす。今までにないような前倒し、スピード感をもって進めていくべき。 ・賛成、反対、批判など多く出ると思うが、決めたら一気に進めていく行動力をもっていただきたい。	
3	スピードが重要です。 全てにおいて急いでください。	
4	できる限り早期の事業化を期待します。	
5	早めの策定、工事着手が必要だと思う。	
6	いつもいつも後ろ倒しになっているイメージしかないので、早め早めでお願 いしたい…。 特にスタジアムは、早急にやらないとブラウブリッツが可哀想だなと思って しまいます。	
7	・時間がかかることが、良く分かりました。 ・優先順位をつけずに、全体を進めて行って欲しい。	
8	民間商業施設、スタジアムのところももっとスケジュールを詰めて計画を前 倒してすすめるべきである。 現状のペースですすめた場合、完成したはいいが、現在の秋田県、秋田市の 現状と変化しすぎていて、マッチしないものが出来上がってしまう。 そういう点でも、こういう開発は、スピード感が非常に大切である。 今治のスタジアムは、イオンモールと隣接して作っているの、イオンはそ ういうノウハウもあるはずなので、もっとスピード感を持って進めるべきで ある。	
9	多くの法整備が必要になります。市有地である卸売市場はともかく、賑わい 創生のメインとなる新スタジアム、民間施設は地域未来投資促進法の活用が 望ましいとのことでしたが、それでも事業着手まで4年かかります。その4年 間で更なる人口減少が進むことは明らかです。計画自体は理にかなってお り、現実的に経済効果も見込まれ、秋田市の賑わい創出に寄与するもので すので、早急に進めて欲しいと一市民として感じています。	
10	地域の社会課題は待たなしで進んでおり、毎年若者たちが県外に流出して います。また、民間企業と組んだ本構想において、民間企業は事業を営んで おり、企業にはスピード感が求められます。一年でも早く本構想を実現する ことが、若者離れや、先進地区での産業創出によって生まれた魅力ある職業 や未来へのわくわく感こそが、秋田に残る・戻るきっかけになるのでスピー ド感をもって取り組む必要があります。	
11	・コロナ禍になって改めて感じたことは、スポーツや文化は人が生きている うえで必ずしも必要でないかもしれないが、あることで充実した人生になる ということです。今年、あきた芸術劇場ミルハスが完成し、市民は文化の面 で充実している。スポーツの面では、県立体育館は動き出しています、次は スタジアムだと思っています。そのためにも、可及的速やかな着手を期待し ています。	
12	スタジアムに関しては、もっと速く進めて欲しい。ブラウブリッツ秋田の成 長スピードとスタジアムの進捗状況が合わなければ、2017年と同じことが起 こりかねません。2017年、J3を優勝したのに昇格できませんでした。J2の基 準に見合ったスタジアムがなかったからです。その後、陸上競技場の部分改 修で、暫定的なJ2ライセンスを得て昇格できる条件がひとまず整いました が、2018年、2019年の2年間は、他チームの包囲網に苦しみ、次に優勝でき たのは2020年です。現在、J2にいて、コロナ禍であるにもかかわらず、目に見 えて観客が増えていること、対戦相手が大きなクラブであれば、アウェイから のお客さんの数のケタが違うことを考えれば、2年間みすみすこの交流人口を 逃していたということになります。その2年間はコロナ禍ではありませんで した。それをどうお考えになるでしょうか。 「クラブはJ1に上がる体制が整ったのにスタジアムが整わない」では、また 同じことが起こりかねません。たかがサッカーではありません。そこに付随 する人の流れ、秋田市に、秋田県にやって来る「人を逃す」ということで す。	
13	今現在ブラウブリッツは例外適用にてJ1ライセンスを取得しているが、2 025年までに新スタジアムが着工しないとライセンスが取り消されるた め、早期の着工をお願いしたい。	
14	進捗に係る日数がこれほどまでに長いのか、というのが率直な感想。例え ば、基本構想をまとめあげるのに1年も要するようでは、待たなしで進む 少子高齢化に対して後れを取ることは明白であると感じる。新スタジアム整 備を含めて、想定事業の早急なる着手、及び進行、そしてスケジュールの短 縮を期待したい。	
15	行政の最大の弱点であるスピード感を、パートナー企業であるイオンタウン の経験・知見を駆使され、事業計画を早急に固め、一日でも早く着工に努め られたい。	
16	早期の実施を期待いたします。	
17	想定スケジュールを拝見致しましたが、一言で云うとこんなにも時間がかか るのかというのが感想であります。無論、議会への説明、様々な諸問題があ るにせよ、まったなしの秋田県。更にスピード感を持って民間感覚で実行し ていただきたい。	
18	様々な法的問題があると思うが、所管部署と事業パートナーの経験・知見を 駆使すれば、想定スケジュールも短縮可能と考える。 本年度の人口減少率を見ると今の事業スケジュールに感じて不満である。	

19	イオンタウンによる大型複合施設構想がテーブルに載ってからここまで来るのに6年が経過している。ここから完成するまでに更に6年がかかることになっている。これで本当に住みやすい街になるのだろうか？ アバウトな計画では不安が募るだけである。もっと住民に寄り添った計画を立てて欲しいものである。	ご指摘のイオンタウン株式会社による大型複合施設構想は、民間事業者による開発計画でしたが、現在検討を進めている外旭川地区のまちづくりは、市と民間事業者が協働で行う官民連携事業として実施するものであり、市民や議会等の意見を聞きながら、市が主体となって進めてまいります。
20	できるまで長すぎるように思います。泉の駅のように必要な時に出来なければ、時期をいっってしまう様な気がします。市場とスタジアム、大きな駐車場それだけ早く作ると思います。	基本構想の策定後も基本計画の策定、事業パートナーや協力企業との協議、土地利用に関する諸手続や関係機関との調整などを要することから、工事着手までには一定の期間が必要だと考えております。関係各所と協議しながら適切なタイミングで事業を進めてまいります。
21	いかにも来年からやらないといけないように作っただけである。	基本構想の策定後も基本計画の策定、事業パートナーや協力企業との協議、土地利用に関する諸手続や関係機関との調整などを要することから、工事着手までには一定の期間が必要であり、来年度、直ぐに着工するものではありません。関係各所と協議しながら適切なタイミングで事業を進めてまいります。
22	秋田県全体、25市町村のご自慢のパフォーマンスまで考えたら、秋田全体の力になるのでは？	「人口減少下にあっても持続可能な社会基盤の構築」と「交流人口の拡大による新しい活力や魅力づくり」の実現に向け、引き続き取り組んでまいります。いただいたご意見については、今後、具体的な検討を進める中で参考とさせていただきます。
23	地域未来投資促進法は、地域の特性を活かして高い付加価値を創出し地域の事業者に対する相当の経済波及効果を及ぼす事業を実施する民間事業者を支援することにより、地域の成長発展の基盤強化を図ることが目的とされている。地域の事業者に対する相当の経済波及効果を及ぼすはずのスタジアムや民間施設整備の事業主体が未定で、如何なる事業で地域の民間事業者を支援し、地域の成長発展に寄与するのか不明なまま秋田市のスケジュールだけが具体化されているのは本末転倒である。スタジアムと民間施設整備の事業を具体化して法の目的に合致することを示すべきである。特にスタジアムに関して、成功を確信している個人・団体・会社等の資金により最小限の整備に留めるべきであり、サッカーチームの努力が実りJ1常勝チームになるまでは、血税は投入しないことを市長は市民に約束するべきである。(理由：スタジアムが地域の所得や雇用、賃金および税収増加につながる裏付けがないとされていることから。)	地域未来投資促進法第4条第1項に基づく基本計画を作成するためには、当該エリアを今後どうしていくのかを示すまちづくり基本構想の策定が必要不可欠なものであると考えております。この基本計画について国の同意を得た後、各事業者が地域経済牽引事業計画を作成し、県の承認を得る必要があります。そうして初めて各種支援措置が受けられるようになることから、必要な手続の第一歩とご理解ください。また、スポーツ庁の「スタジアム・アリーナ改革指針」では、スタジアム等について「にぎわいの創出や持続可能なまちづくり等の実現と投資以上の効果を地域にもたらす施設」にする必要があるとされております。外旭川地区を候補地とした新スタジアムについては、現段階では民設民営で、行政の支援を受け整備するとしておりますが、その詳細については、県や関係者と引き続き協議してまいります。
24	ゆっくり、じっくり、迅速に。	基本構想の策定後も基本計画の策定、事業パートナーや協力企業との協議、土地利用に関する諸手続や関係機関との調整などを要することから、工事着手までには一定の期間が必要だと考えております。関係各所と協議しながら適切なタイミングで事業を進めてまいります。
25	1章～5章に関する意見で述べた通り、本基本構想に基づくまちづくりでは1章に掲げる「まちづくりの目的」を達成することは不可能です。したがって、目的とする真に魅力あるまちづくりをするためには基本構想を作り直す必要があるため、策定事業のスケジュールもそれに応じて設定し直す必要があります。	外旭川地区のまちづくりは、本市がこれまで取り組んできた多核集約型コンパクトシティの考え方を基本としつつ、将来のまちづくりを見据え、行政だけでは実現できない、民間事業者の知見やノウハウを活用したまちづくりを行うものであり、多核集約型コンパクトシティを補完するモデル地区と位置付けるものであります。このモデル地区では、AIやICTなどの技術を活用した先端的なサービスの導入により、本市が抱える課題の解決を他の地域に先駆けて行い、この実証的な取組で得られた成果を他の地域にも波及させることで、全市をより充実発展させてまいりたいと考えております。本基本構想は、外旭川地区まちづくりの基本的な方向性を定めるものであり、いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。
26	整備の規模に反し、スケジュールがあまりに拙速すぎると考えます。まずは既存の都市計画の範囲内で整備できないかをあらためて検討する必要があると考えます。また、当該エリアを整備する理由としてスタジアム整備をあげている以上、スタジアムを当該地域に整備することを正式に決定することが最優先ではないでしょうか。この大規模開発は、市の将来にかかわる重要な決定となります。中核市としての責任と自覚を持ち、もう少し丁寧かつ慎重に議論を進めてほしいと考えます。	モデル地区については、泉外旭川駅の開業、秋田北インターチェンジや秋田港への近接、都市計画道路泉外旭川線などの新たな幹線道路の整備など、交通・物流機能に優れていること、卸売市場の再整備を契機とする地域の活性化、現卸売市場敷地の有効活用ができるといった地域特性を踏まえ、外旭川地区としたものです。また、新スタジアムについては、令和2年2月に秋田県と秋田市が取りまとめた「新スタジアム整備に向けた諸課題の調査・研究について（最終報告）」に基づき、令和3年7月に秋田市が「外旭川地区（卸売市場敷地とその周辺）」を新スタジアムの候補地とすることを決定したものであり、本基本構想においてモデル地区を構成する要素として検討を進め、県やブラウブリッツ秋田と協議を行ってまいります。外旭川地区のまちづくりは、人口減少下にあっても持続可能な社会基盤の構築を目指し、AIやICTなどの先端技術を活用したサービスの導入により、本市が抱える課題の解決を他地域に先駆けて行い、実証的な取組で得られた成果を全市域に波及させることで、本市が若者が将来に希望を持ち、「これからをこのまちで暮らしていきたい」と感じられるような魅力あるまちとなることを目指すものです。本事業が重要な決定というご意見を受け止め、引き続き丁寧かつ慎重な議論に努めてまいります。
27	担当部署で作成した工程表なのでいろいろ吟味していると思いますので肅々と進捗してほしい。	基本構想の策定後も基本計画の策定、事業パートナーや協力企業との協議、土地利用に関する諸手続や関係機関との調整などを要することから、工事着手までには一定の期間が必要だと考えております。関係各所と協議しながら適切なタイミングで事業を進めてまいります。
28	新スタジアムと民間施設整備計画が進んでいないように感じた。	新スタジアムは、事業パートナーから民設民営の提案をいただいており、民間施設の主体はあくまで民間事業者になります。このため、新スタジアムおよび民間施設の実施主体となる各事業者によってそのスケジュールも前後することが想定されることから、現在の記述としております。関係各所と協議しながら適切なタイミングで事業を進めてまいります。
29	予算確保を考えると、スケジュールの変更もあるかと感じた。ただ、新しい町づくりの気運を下げないように、今後の進展を見守りたい。	基本構想の策定後も基本計画の策定、事業パートナーや協力企業との協議、土地利用に関する諸手続や関係機関との調整などを要することから、工事着手までには一定の期間が必要だと考えております。関係各所と協議しながら適切なタイミングで事業を進めてまいります。

30	このスケジュールに沿った秋田市の人口動向を想像すると、その時点で人口減少がますます進んでいたら（学級内の子供の数、学校の統廃合、など現在の子供たちの状況を考えると恐ろしいくらいのスピードで減少しています。）秋田市の財政状態はきつくなり、この開発は非現実的だと思われる。	外旭川地区のまちづくりでは、卸売市場再整備、官民連携で行う新スタジアム整備および民間施設の整備と、先端技術を活用した様々な取組を一体的に行うことで、「人口減少下にあっても持続可能な社会基盤の構築」と「交流人口の拡大による新しい活力や魅力づくり」を目指すものです。このモデル地区では、AIやICTなどの技術を活用した先端的なサービスの導入により、本市が抱える課題の解決を他の地域に先駆けて行い、この実証的な取組で得られた成果を他の地域にも波及させることで、全市をより充実発展させたいと考えております。
31	骨子案で良いと思う。	基本構想の策定後も基本計画の策定、事業パートナーや協力企業との協議、土地利用に関する諸手続や関係機関との調整などを要することから、工事着手までには一定の期間が必要だと考えております。関係各所と協議しながら適切なタイミングで事業を進めてまいります。
32	スケジュール通り運ぶと良いですね。生きている内、見たいものです。	基本構想の策定後も基本計画の策定、事業パートナーや協力企業との協議、土地利用に関する諸手続や関係機関との調整などを要することから、工事着手までには一定の期間が必要だと考えております。関係各所と協議しながら適切なタイミングで事業を進めてまいります。
33	スケジュールに対して具体的な意見はございません。計画としての期間、規模とかなり大掛かりと改めて把握した次第でございます。	基本構想の策定後も基本計画の策定、事業パートナーや協力企業との協議、土地利用に関する諸手続や関係機関との調整などを要することから、工事着手までには一定の期間が必要だと考えております。関係各所と協議しながら適切なタイミングで事業を進めてまいります。

〇7章 地域への経済効果・地元企業の活用方針

No.	意見	意見に対する市の考え方
1	ぜひとも農業のこれからを明るくするような効果、PRをしていって地元の底上げをしていって欲しいと思います。	「人口減少下にあっても持続可能な社会基盤の構築」と「交流人口の拡大による新しい活力や魅力づくり」の実現に向け、農業分野に関しても、ICTを活用した次世代型農業や担い手の発掘につながる取組などについて検討してまいります。
2	秋田市もおみやげ品の開発を望む。又道の駅を作ってほしい。	秋田ならではの商品などに加え、体験や参加を通してここでしか得られないものを提供するなど、市民だけでなく市外・県外からの来訪者にとっても魅力あるものとなるよう事業パートナー等と検討を進めてまいります。いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます。
3	・住宅区画を広げて、地域の人口を増やす手だてを考えていく必要がある。 ・特に若い人をどうやって呼び込むか、「食」「花」「スポーツ」、各テーマのコラボを上手に企画、運営できるか、カギとなる。	外旭川地区のまちづくりは、これまでにない官民連携の新たな取組であり、秋田ならではのモデル地区を作るための柱として2つの目的と7つの取組を掲げたものです。それぞれの取組を単独で行うのではなく、各取組を連携させることで秋田ならではの取組を生み出していきたいと考えています。いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます。
4	・まちづくり前と後の経済効果は具体的にどのくらいになるのか。 ・現在、地元企業の出店計画はあるのか。(地元資本) ・雇用される人数はどのくらいなのか。	現在は、まだ構想の検討・作成段階であるため、経済効果の具体や雇用創出人数などの試算はしておりませんが、事業パートナー選定プロポーザルでは、経済波及効果、雇用創出効果および地元企業の活用方針についても条件として求めていることから、民間事業者の事業計画が明らかになった段階には示せるよう、事業パートナーと協議してまいります。
5	もっとこの事業を行政側がメディアを活用することが重要だと思います。このパブリックコメントも誰もわかっていません。秋田市民に知っていただくことで民間企業の競争意識も高まると思います。また、卸売市場は行政中心ですがその他は民間ベースでの整備だと思います。より地元企業を活用して取り組むことができれば経済効果は高まると思います。	当該地区での取組を広く市民にご理解いただく手法としてマスメディア等の活用も検討してまいります。いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます。
6	秋田市駅前及び中心市街地には今まで、県・市が多額の税を投入して来た。又、最近まで、JRや民間事業者が協力して活性化に努めてきたが、イオンが出来ると大きな影響を受ける。現在中心市街地の商店の年商は約2~3億円、イオンの年商は恐らく1千億円以上。これの10%影響を受けると、駅前及び中心市街地の商店は壊滅状態となるのは明らか。十分な調査と分析を行ってほしい。	人口減少下にあつては、市外・県外からも人を呼び込めるまちづくりが必要だと考えております。一方で、にぎわいの創出には中心市街地や他地域の商業施設、商店街等との連携が重要であるとの考えから、事業パートナーにも中心市街地への影響や配慮についての考えを求めており、引き続き、事業パートナーと十分に協議・検討してまいります。
7	今後、実現に向け具体的な取り組みが必要。(案)で終わらないことを期待します。	基本構想は、外旭川地区まちづくりの基本的な方向性を定めるものでありますが、構想で掲げる取組については、その実現性や実効性についても事業パートナーと十分に検討してまいります。
8	新たなにぎわいの創出の中で、「秋田大学等高等教育機関などとモデル地区をシャトルバスで結ぶ」とあった点で各高校との利便性も考慮いただき、結果高校生の通学や活動に広がりを持たせてほしい。	交通アクセスの確保については、自動運転によるオンデマンドPMVやオンデマンドシャトルバスの提案を受けているところであり、運転免許を持たない若い世代の方々にとっても利便性の高い場所とするため、本市において進められている公共交通網の再編に向けた検討とも調整を図り、利便性の確保に向けた検討を進めてまいります。
9	・近隣スーパーと競合しない商品を取扱う。 ・大型の農業ハウスで秋田産のイチゴを生産する。湯沢産のイチゴを食べたことがない。 ・北東北三県で協力してそれぞれの特産品を作り、流通網を整備して食文化の共有を図る。 書いたら限がない。	秋田ならではの商品などに加え、体験や参加を通してここでしか得られないものを提供するなど、市民だけでなく市外・県外からの来訪者にとっても魅力あるものとなるよう事業パートナー等と検討を進めてまいります。いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます。
10	地元企業との連携は是非実施して頂きたいと思います。	施設整備段階における地元企業の起用や経済的効果だけではなく、長期的視野での波及効果についても検討する必要があると考えております。モデル地区では、事業パートナーと協力企業・団体の知見やノウハウの活用に加え、地元企業との連携を促進させることで、地元企業の企業力向上や発展につなげてまいりたいと考えております。
11	中心市街地等との相乗効果がほんとうに出来るのか。	モデル地区を新たなにぎわい創出の起点として集客力を高め、中心市街地との相乗効果を生むことが重要と考えております。サッカー観戦やクルーズ船客など、県内外の来訪者が中心市街地を始めとした市内各所を周遊できる移動手段、電子マネーやアプリを活用した地元店舗への支援など、中心市街地等へのにぎわいの波及と経済の好循環につながる取組について、引き続き検討してまいります。
12	深谷にできたアウトレットのように、秋田のおいしい食べ物がいっぱい提供される様なフードコートと東京の駅ビルのようなチェーン店が並ぶエリア2こあると地元の人でも来やすいと思う。	事業パートナーからは、秋田ならではの食が集まるゾーンやシェフズレストランなどの提案も受けております。いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます。
13	活用方針はすばらしいと思います。にぎわい創出は絶対に必要ですが、得てして中途半端に終わるケースが過去に多々見られました。これを成さずに秋田の未来はないと思いますので、しっかりとがんばってください。	にぎわい創出につながる魅力ある観光コンテンツや、他地域へにぎわいを波及させる取組などについて、引き続き検討してまいります。
14	近隣にすでに商業地域があるため、既存の店舗との共存はどう考えているのか。	近隣の商業施設等との回遊性を高めるイベントの実施など、市を盛り上げる取組を通じて、周辺の既存事業者とモデル地区との相乗効果を創出してまいりたいと考えており、近隣の商業地域へのにぎわいの波及と経済の好循環につながる取組について、引き続き検討してまいります。
15	・飽きのこない、持続可能な経済効果を期待したい。 ・全国レベル、国際レベルで注目してもらえたいイベントやビジネスの展開を期待したい。	施設整備段階における地元企業の起用や経済的効果だけではなく、長期的視野での波及効果についても検討する必要があると考えております。モデル地区では、事業パートナーと協力企業・団体の知見やノウハウの活用に加え、地元企業との連携を促進させることで、地元企業の企業力向上や発展につなげてまいりたいと考えております。いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます。
16	分散化する懸念があるが、とある。懸念しかない。にぎわいの創出というのは新たに何かを作れば良いというものではない。	人口減少下にあつては、市外・県外からも人を呼び込めるまちづくりが必要だと考えております。一方で、にぎわいの創出には中心市街地や他地域の商業施設、商店街等との連携が重要であるとの考えから、事業パートナーにも中心市街地等への影響や配慮についての考えを求めており、引き続き十分に協議・検討してまいります。

17	<p>J2、2年目の今年、コロナ禍が続いて以前のようにアウェイ戦にサポーターが行って…という状況ではないが、それでも山形や新潟、仙台を中心に多くのサポーターが秋田に足を運んでスタジアム集客も増えてきている。そういう経済効果は大きくそういう県外から来るサポーターを増やすためにもアクセスの良さや、魅力的なスタジアム作りが必要だと思う。試合後、イオンモールが隣接しているのは、子連れのサポーター等にとってはとても助かると思うし、そこから帰る前に食事を済ませたり、お土産を買ったりできることは、経済の活性化に繋がります。</p>	<p>新スタジアムについては、その規模や駐車場台数、アクセス方法、多用途での活用方策、民間施設等との相乗効果を生み出す取組などについて、引き続き県や関係者と十分に協議してまいります。</p>
18	<p>モデル地区整備のため、県内業者への受注、県内資材の活用は重要ですが、一番大切なことは「整備後の持続的な収益確保」です。そのためにも計画段階での「プロ集団」の介入が必須です。新スタジアムにおいてはスタジアム運用のノウハウを知るブラウブリッツ秋田、民間施設においてはイオンタウン、参画事業主を中心に据えて、計画・準備をお願い致します。特に新スタジアムは、秋田のみならず、東北を代表する一大観光地になりますので、大いに期待しています。</p>	<p>施設整備段階における地元企業の起用や経済的効果だけではなく、長期的視野での波及効果についても検討する必要があると考えております。モデル地区では、事業パートナーと協力企業・団体の知見やノウハウの活用に加え、地元企業との連携を促進させることで、地元企業の企業力向上や発展につなげてまいりたいと考えております。いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます。</p>
19	<p>・地域への経済効果というとき、建設および事業運営に予定される支出の総計か、そのうち地元へ落とされるお金の総計のいずれかで概算されるのが普通ですが、本事業の効果判定にあたっては、文字通り“経済”効果、すなわち経済成長の指標であるGDP（域内総生産）への貢献度を示して頂きたいと思っております。初年度±0億円、2年目±0億円、3年目±0億円、・・・10年累計で±0億円、20年累計で±0億円、のようによです。</p> <p>それは、生産者が財やサービスを生産し、顧客が支出し、所得が創出されるプロセスにおいては、生産＝支出＝所得となりますから、GDPは域内の生産の合計であり、支出の合計であり、所得の合計でもあります（GDP三面等価の原則。現に国のGDPもそのように三面から別々に求められ、符合させる手順となっております）。つまり、GDPを増やすことに貢献できれば、支出＝消費も増え、人々の所得も増えるわけですが（県がGDPを算出しているのは知っておりますが、市がGDPを算出しているかどうかは存じません）。したがって、本構想が果たして秋田市のGDPを実質的に増やすことになるかどうか、本構想にゴーサインを出すべきかどうかの一番の判断基準となりうるのです。</p> <p>巷間「人口が減っているからGDPが伸びないのは仕方がないのだ」と言う向きもありますが、人口が減っていても大きくGDPが伸びている国はありますし、人口が増えていてもGDPは伸びない国もあります。ただし、日本は1997年以来ほとんどGDPは伸びず（例：http://mtdata.jp/data_76.html#meimoku）、先進国はもとより、世界各国と比較しても、異常な状態が続いております。</p> <p>この原因は、实体经济に循環する円資金が諸般の事情により増えない状況が続いているからです（その国政の原因はここでは述べません）。GDPが生産＝支出＝所得の合計である以上、そこに循環する円資金が増えなければGDPが増えるわけがないからです。</p> <p>したがって、国であれ県であれ市であれ、GDPを増やすためには、そこで循環する資金量を増やす必要があるわけですが、</p> <p>そして、GDPの減少（国が減少している以上、秋田は同様に、あるいはもっと減少しているはず）こそが、国民一人あたりの所得を減少させてきた結果、特に貧しい県では「結婚したくても金がなくてできない」「子供が欲しくても金がなくてできない」と自然減を招来し、同時に「仕方ないから東京に働きに出るか」と社会減の原動力となっております。</p> <p>ですから、遠回りのようでも、人口増を目指すには（他のいろいろな手段も講じつつも）GDPを増やすのが本筋なのです（GDPが増えないのは人口が減っているからというのは、原因と結果を取り違えていることとなります）。ですから、本構想が本当にGDPを増やすことになるのかどうか、冷静かつ厳格に計算して、まずはプラスになることが必要といえます。</p> <p>しかしながら、残念ながら商業においては、経営主体が域外に本社をもつ企業であり、地元消費を対象として商品を販売するという業態である限り、GDPに貢献するということは通常ありません。</p> <p>そういう商業の生み出すGDPとは、いわゆる粗利益高（付加価値高）ですが、企業本社が域外にあるとすれば、直接的な販売高＝売上高は、収受した段階で、すべて本社所在地の銀行に入金されます。そこから商品の仕入高、付加価値算出の原価となるものを支払いますが、そのうちごく一部は地元からの仕入れですが、大部分は域外の仕入先に支払われます。</p> <p>イオンのようなスーパーマーケットの付加価値高（粗利益高）は通常売上対比で20～25%程度ですが、そのうち、地元へ落ちるのは、人件費（本社社員を除く、大部分はパートタイマーなので）5%程度、地元へ発注する設備補修や地代家賃でせいぜい5%程度、残りは利益（法人税含む）として、やはり域外の（ここでは幕張のイオン）銀行に入金されるのです。つまり、地元へ落ちるお金は、せいぜい10%程度でしかありません（数字は概数）。</p> <p>同時に外旭川にイオンタウンというショッピングセンターができたとして、そこで作られる売上は、すべて秋田市内の他の（地元資本を含めた）スーパーから薄く広く奪いとられるのです。つまり、本来地元企業が作る売上、地元銀行に入り、そこから地元の経済循環に使われるGDP原資が、イオンタウンができることによって、その売上分、秋田市は落ち込むこととなります。</p> <p>これは非常にショッキングな事実であり、学者など一部の方々のご存知のほどですが、大部分の市民は知らないのです。これが事実かどうかは、大店法廃止以後の商店街の空洞化や、イオン御所野開店以来の地元商業の衰退をみればわかります。それが“真綿で首を絞める”ようにゆっくりと、長期間かけて進められてきたために、今やそれが原因であったことに気づいていないだけなのです。</p> <p>したがって、長いパブコメとなりましたが、どうか市長はじめ市役所ご担当、関係委員の皆様は、本構想の検討を機に、この域外商業企業の地域経済に与えるマイナス効果を十分にご理解の上、敢然と本構想を白紙に戻し、改めて地元企業による経済対策を考え、当初のコンパクトシティ構想の本旨に戻られることを祈念してやみません。</p> <p>なお、本パブコメは、何も今さら「大店法を復活せよ」とか「規制緩和は間違いだった」とかの政治主張を申し上げるつもりはありません。しかしながら、製造業ならともかく、商業やサービス業の域外企業を安直に誘致ないし放置し、あまつさえ増長させるのは、実は地域の自殺行為に加担するにほかならないという厳然たる事実をよくご理解頂きたいものと願う次第です。</p>	<p>外旭川地区のまちづくりは、これまでにない新たな官民連携の取組として、先端技術の活用や民間事業者の優れたノウハウと知見を生かした様々な取組により「人口減少下にあっても持続可能な社会基盤の構築」と「交流人口の拡大による新しい活力や魅力づくり」を目指すものであります。</p> <p>現在は、まだ構想の検討・作成段階であるため、経済効果の具体や雇用創出人数などの試算はしておりませんが、事業パートナー選定プロポーザルでは、経済波及効果、雇用創出効果および地元企業の活用方針についても条件として求めていることから、民間事業者の事業計画が明らかになった段階には示せるよう、事業パートナーと協議してまいります。</p>

20	<p>モデル地区にクルーズ船など・・とありますが、クルーズ船でわざわざ秋田に寄港した国内外の観光客に何をさせるのでしょうか？</p> <p>クルーズ船であれば酒田、新潟、青森等との差別化が必要と思いますが、クルーズ船によらず、本事業ではスタジアム含め、実質的にそれほど観光に寄与するものがあるように感じないです。単に買い物を楽しむならコストコを誘致してもらった方が余程効果があると思います（外資に資金流出してしましますが・・）。</p>	<p>人口減少下にあつては、市外・県外からも人を呼び込めるまちづくりが必要だと考えております。モデル地区では、ICTを活用したバーチャルな観光体験などに加え、リアルな交流を創出する参加・体験型機能の導入などにより、モデル地区ならではのコンテンツも提供してまいりたいと考えております。引き続き、魅力ある観光コンテンツについて検討してまいります。</p>
21	<p>スタジアムについて、高齢化や人口減少が著しい秋田において「関係人口・交流人口」は、持続可能な社会づくりには必須要件です。スポーツ、とりわけJリーグに関しては、それぞれのクラブに熱烈的なサポーターが地元クラブを応援し、敵地での試合に出向きます。ブラウブリッツ秋田においても多くの効果を発揮しており、コロナ禍かつ現在の屋根がないスタジアムでも、昨年は県外客だけで4,693名が、今シーズンは6,434名の敵チームのサポーターが来県しています。クラブ関係者や大会運営に係る方々も含めると、この二年間で述べ13,000人近くの県外客が訪れています。SNS調査では、せっかく秋田に行ったのであればと、1泊ないし2泊する方も多く、コロナ過で打撃を受けている県内各地の観光地や飲食店・宿泊施設に大きく貢献しています。他にも地域意識の高揚や都市イメージ向上を図る上では最良のコンテンツであり、より良いスタジアムを建設することで更なる地域活性化が図れることとします。</p>	<p>新スタジアムについては、プロスポーツ単体利用だけではなく、これからの秋田を担う若い世代への楽しみの場の提供、秋田の活性化や魅力あるまちづくりおよび健康増進、防災拠点など様々な観点から活用の可能性についても検討を進めてまいります。</p>
22	<p>にぎわいとは何か。中心市街地がにぎわえば、秋田全体が幸せになるのか。それは違うと思います。</p> <p>中心市街地は美術館や芸術劇場がある。アートや音楽、演劇の地区にすればいい。駐車場をきちんと設け、バスや電車の便をよくして、歩いて回れるようにすればどうでしょうか。</p> <p>それぞれの地区の強みを活かして、地区ごとに性格の違いを作る。例えば、外旭川地区はスポーツと農の街。どうでしょうか。</p> <p>事業パートナーに協力する企業は、地元企業にする。秋田市から事業パートナーへきちんと伝え、秋田市も支援する。それくらいのことはやって然るべきと考えます。</p>	<p>スマート農業などの次世代型農業や新スタジアム整備による交流人口の拡大など、外旭川地区の地域特性を生かした取組について引き続き検討するとともに、モデル地区を新たなにぎわいの起点として集客力を高め、中心市街地との相乗効果も図りたいと考えております。また、地元企業の積極的な起用や地元企業との連携についても、事業パートナーと協議・検討してまいります。</p>
23	<p>(3)アについて</p> <p>外旭川のみ発展させても駄目なので、秋田の玄関口である秋田駅周辺も同時に発展させてほしい。以前の秋田駅前のにぎわいを知っているだけに、いまの居酒屋だけが目立ち、閑散としている状況は寂しいと感じる。</p> <p>まずは秋田駅前に人が集まる仕組みを作り、外旭川に人が自然に流れるような状況が理想と思われる。</p>	<p>モデル地区を新たなにぎわい創出の起点として集客力を高め、中心市街地との相乗効果を生むことが重要と考えております。サッカー観戦やクルーズ船客など、県内外の来訪者が中心市街地を始めとした市内各所を周遊できる移動手段や、近隣の商業施設等との回遊性を高めるイベントの実施などにより、中心市街地等へのにぎわいの波及と経済の好循環につなげてまいりたいと考えております。</p>
24	<p>・地元の建設業者への受注が増えること、県産資材の活用がされることは大変良いことと思います。</p> <p>・地元商店街との連携はオープン時などの一時的なものではなく、長期的にお互いが発展し合える計画を立てていくことが必要と考えます。</p>	<p>施設整備段階における地元企業の起用や経済的効果だけではなく、長期的視野での波及効果についても検討する必要があると考えております。モデル地区では、事業パートナーと協力企業・団体の知見やノウハウの活用に加え、地元企業との連携を促進させることで、地元企業の企業力向上や発展につなげてまいりたいと考えております。いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます。</p>
25	<p>地元企業、就業希望とのマッチング促進は非常に大切と思うし、県市のコミュニティ作りにもっとグローバル的見方をして将来に向かってほしい。米どころ秋田”をかかげ寿命100歳をめざす計画がほしい。</p>	<p>「人口減少下にあつても持続可能な社会基盤の構築」と「交流人口の拡大による新しい活力や魅力づくり」の実現に向け、雇用の場の創出やICTを活用した次世代型農業、次世代医療など様々な取組について、引き続き検討してまいります。</p>
26	<p>交流人口の増加を期待します。</p>	<p>「人口減少下にあつても持続可能な社会基盤の構築」と「交流人口の拡大による新しい活力や魅力づくり」の実現に向け、引き続き取り組んでまいります。</p>
27	<p>期待しています。</p>	<p>「人口減少下にあつても持続可能な社会基盤の構築」と「交流人口の拡大による新しい活力や魅力づくり」の実現に向け、引き続き取り組んでまいります。</p>
28	<p>構想中は夢も希望もあり（これはこれで大切であるが）、少子高齢化の人口減少でお客の奪い合いになり、空洞化する地域が出てこないか心配している。</p>	<p>人口減少下にあつては、市外・県外からも人を呼び込めるまちづくりが必要だと考えております。一方で、にぎわいの創出には中心市街地や他地域の商業施設、商店街等との連携が重要であるとの考えから、事業パートナーにも中心市街地や他地域への影響や配慮についての考えを求めており、引き続き十分に協議・検討してまいります。</p>
29	<p>中心市街地との相乗効果を生むことが重要となる点は当然だと思う。その際、大切にしてほしいことは総合計画にある各地域の特性の中で外旭川地区とつながりがあるものはないか具体的に検討してほしい。単純に外旭川地区をどう作り上げていくだけでは分散が進むだけだ。</p> <p>各地域と外旭川地区の関連性を常に検討し各地域の活性化も高める意識を大切にしていってほしい。</p>	<p>外旭川地区のまちづくりは、本市がこれまで取り組んできた多核集約型コンパクトシティの考え方を基本としつつ、将来のまちづくりを見据え、行政だけでは実現できない、民間事業者の知見やノウハウを活用したまちづくりを行うものであり、多核集約型コンパクトシティを補完するモデル地区と位置付けるものであります。このモデル地区では、AIやICTなどの技術を活用した先端的なサービスの導入により、本市が抱える課題の解決を他の地域に先駆けて行い、この実証的な取組で得られた成果を他の地域にも波及させることで、全市をより充実発展させてまいりたいと考えております。また、波及させる成果についても、取組そのものを広めるだけではなく、そこで実証された官民連携と民間事業者のノウハウの活用方法なども波及させていく考えであります。いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます。</p>
30	<p>H27年に秋田市が行ったイオンタウンの「秋田北/農/工/商共存型まちづくり構想」の検証結果では、交流人口、地元商業者、雇用、税収、地元経済・商業、農業、インフラ、環境、まちづくりのいずれもメリットがないとしていることと、現計画がどう違うのか第三者を交えて議論し理由を説明すべきである。</p>	<p>ご指摘の従来のイオンタウン株式会社による大型複合施設構想は、民間事業者による開発計画でしたが、現在検討を進めている「外旭川地区まちづくり」は、市と民間事業者が協働で行う官民連携事業として実施するものであり、市民や議会等の意見を聞きながら、市が主体となって進めてまいります。</p>
31	<p>他県のスタジアムの周辺はどうだろうか。</p>	<p>他の事例等を参考にしながら、具体的な検討を進めてまいります。</p>

32	<p>「(3) 中心市街地等との対応」に記載されている通り、人口が減少している中で、市街化調整区域において開発を行うことは、にぎわいの持続に必要な要因が分散化することです。「にぎわいの持続に必要な要因が分散化する」ということは、とりまなおさず、秋田市のどの地区においてもにぎわいを維持できなくなることを意味します。そのような、どの地区においてもにぎわいがみられない都市からは魅力が失われ、1章で本基本構想の目的として掲げているような『本市が、若者が将来に希望を持ち、「これからをこのまちで暮らしていきたい」と感じられるような魅力のあるまち』にはなり得ず、若者の市外流出が加速します。</p> <p>秋田県立美術館、にぎわい広場、にぎわい交流館AU、あきた芸術劇場ミルハスなどを建設し、中心市街地における交流人口拡大やにぎわいの創出のために多額の投資を行う一方で、その効果を打ち消す外旭川地区での開発を公費で行うことはまったく矛盾した政策であり、公的支出に関する財源に限られている状況において、きわめて不適切です。</p> <p>3章に関する意見で述べた通り、新スタジアムは、秋田市の基本的な都市計画においてスポーツゾーンとして位置づけられている山王地区に建設するのが適当です。</p>	<p>人口減少下にあつては、市外・県外からも人を呼び込めるまちづくりが必要だと考えております。一方で、にぎわいの創出には中心市街地や他地域の商業施設、商店街等との連携が重要であるとの考えから、事業パートナーにも中心市街地等への影響や配慮についての考えを求めており、引き続き十分に協議・検討してまいります。</p> <p>新スタジアムを外旭川地区に整備する理由としては、令和2年2月に秋田県と秋田市が取りまとめた「新スタジアム整備に向けた諸課題の調査・研究について（最終報告）」に基づき、令和3年7月に秋田市が「外旭川地区（卸売市場敷地とその周辺）」を新スタジアムの候補地とすることを決定したものであり、本基本構想においてモデル地区を構成する要素として検討を進め、県やブラウブリッツ秋田等と協議を行ってまいります。</p>
33	<p>中心市街地との連携に関する記載は不要であると考えます。距離的な問題から御所野地域と中心市街地との連携ができないのと同様に、中心市街地とこの地域の連携はそもそも不可能です。無理にこのことを記載する必要を感じません。記載されている内容もこのモデル地区が整備されなくとも、すぐにも実現できる内容ばかりであり、何ら目新しさを感じられません。</p>	<p>モデル地区を新たににぎわい創出の起点として集客力を高め、中心市街地との相乗効果を生むことが重要と考えております。にぎわいの創出には中心市街地や他地域の商業施設、商店街等との連携が重要であるとの考えから、事業パートナーにも中心市街地等への影響や配慮についての考えを求めており、引き続き十分に協議・検討してまいります。</p>
34	<p>多くの市民が快適さを味わえる《スマートシティ構想》に秋田ならではの、秋田の人々が作り上げる空間を取り入れていただきたい。</p> <p>秋田は自然に恵まれ、伝統的な無形有形の文化や歴史、芸能さらに郷土の食文化など数多くの資源を有する魅力ある地域です。</p> <p>その中で、米の生産量が多く、その収穫した米から作られる『麴』の文化が盛んになりました。冬が長く雪深いという地理的条件も、食品を保存させるための生活の知恵として、発酵食品の歴史も発展していきました。まさに発酵食品王国と呼んでも良いと思われまふ。</p> <p>その発酵食品を日本のみならず、世界へ発信することにより、秋田の経済発展に寄与することを目的とします。</p> <p>発酵食品は、日本各地すべての都道府県にあり、多岐に渡っています。</p> <p>そこで、この秋田を日本の発酵文化の中心として位置付け、海外に発信できるフレームワークを検討議論し、その成果物として「秋田発酵 文化ストーリー」の設置をします。</p> <p>海外からの旅行者にとって秋田も「日本」なのです。</p> <p>観光の目的は現地の風景・人（おもてなし）そして食。</p> <p>そこでしか食べられない美味しいものに観光客は集まってくる。</p> <p>しかし、何の前知識もなく目の前に腐ったような匂いのもを出されても、手は出ないでしょう。</p> <p>そこで、SNSを活用した情報提供を予め行います。</p> <p>その食品がどのように作られ、どのように食べられているか、そしてどれだけ美味しいかの情報発信を早期に行なうことが重要かと思われまふ。</p> <p>海外からの観光客が「〇〇を食べるために日本に来ました」と言わせるくらいの情報発信。</p> <p>発酵食品は概して発酵、熟成した食物で、海外に持ち帰るのが不可能なものが多いと思われまふ。</p> <p>発酵食品がここで食べられる施設「ここでしか食べられないもの。」これは重要ポイントです。</p> <p>また、ここで日本酒とのマッチングを図ることができます。</p> <p>海外からの観光客への発酵食品の販売は厳しいものがありますが、日本酒を売ることはできるかと。さらに、同じような情報発信を国内向けにすることで販売につながれると思ひます。</p>	<p>事業パートナーからは、発酵文化体験施設の提案も受けており、いただいたご意見については、今後、具体的な検討を進める中で参考とさせていただきます。</p>
35	<p>計画箇所の位置は秋田北ICから近いこともあり位置的には申し分ないと思ひます。経済効果についてはやってみないとわからない面がありますがチャレンジが必要と思ひます。又、地元活用方法等は当初計画はこれで良いと思ひますがその時の情勢に応じて臨機応変に対応してほしひ。</p>	<p>モデル地区においては、施設整備段階における地元企業の起用や振興のみならず、長期的な経済波及効果についても検討する必要があると考えております。情勢に応じた地元企業の活用や経済波及効果については、今後、事業パートナーと協議してまいります。</p>
36	<p>やはり、卸売市場が経済効果等みえてこない。</p>	<p>卸売市場の再整備による経済波及効果については、建設投資による直接効果、それに誘発される他の産業への波及効果等が想定されます。具体的にどの程度の効果があるかについて、今後、検証してまいります。</p>
37	<p>世の中が少子高齢化が進む中で、どんどん変化し、今までの考え方を考えることが求められています。この地ではできない、新しい価値が生まれて、それが地元の方にも喜びとなるといいなと思ひます。</p>	<p>「人口減少下にあつても持続可能な社会基盤の構築」と「交流人口の拡大による新しい活力や魅力づくり」の実現に向け、引き続き取り組んでまいります。</p>
38	<p>①地元FMラジオスタジオを造り、地域情報や、ミルハスにくる芸能人や、芸術文化、食文化の情報発信は大切と思ひます。</p> <p>②青年農家の交流の場、婚活の場を県外にアピールする。農業世帯の増加に向かう。</p> <p>③地元米粉を使った料理、スイーツを研究（例えば、米粉パン、米粉麺、米粉スープ）して、観光資源・ブランド化していく。</p>	<p>メディア媒体との連携や情報発信は重要であると認識してしております。また、事業パートナーからは、秋田ならではの食が集まるゾーンやシェフズレストランなどの提案を受けており、いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます。</p>
39	<p>外旭川「モデル地区」における街づくり、そしてスタジアム整備は、我が市の課題解決につながるだけでなく、市外の交流人口を増やすことにより地元経済の活性化に大いに寄与するものとする。地元企業の参画や若者の起業支援等には、条件等の障壁を極力設けず、市民一体で街づくりに携われる方式を考慮していただきたい。</p>	<p>外旭川地区のまちづくりは、卸売市場再整備、官民連携で行う新スタジアム整備および民間施設の整備と、先端技術を活用した様々な取組を一体的に行うことで、「人口減少下にあつても持続可能な社会基盤の構築」と「交流人口の拡大による新しい活力や魅力づくり」を目指すものです。いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます。</p>
40	<p>円高やロシアの侵攻による建築関連資材の増大が見込まれる中、スライド条項などで受注企業への安心感が必須と考える。その際、地元関連資材の活用や地元企業との連携は、プロジェクトチームを作りパートナー企業との相互連絡を密にすべきである。</p>	<p>地域への経済効果や地元企業との連携は重要であると認識してしております。いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます。</p>

41	<p>P21 地域への経済効果 「県産材など地元の建築資材の活用」が「期待されます」では期待できません。活用の数値目標を書き込むべきです。甘いです。同様に、「域内の所得や雇用の増加が見込まれます」では見込めません。「魁」紙も報じていましたが、大型の公共事業ですら県の業者の参入率は10%。ミルハスの工事にも県内業者の参入率は非常に低いものでした。期待や見込みは、それなりの覚悟と決意をもって、数値目標を掲げるべきです。これでは、今までと同じように県内の財産がすい上げられていくだけです。</p> <p>地元企業の活用方針 このままで開店するようなことになれば、土崎地域を中心とした地域の商店が大きな影響を受けるでしょう。そこを案じて、松本でのイオンと商店街の連携の例を示したのですが、同じような取り組みができるとはかぎりません。市は、松本市との違いも考慮に入れこの例を書き込んだのでしょうか。イオンがきて全国どこでも地域の商店街との連携が成功していると市が確信しているのであれば、その例を全て教えてください。過去のはなしではなく現在進行している生きた例として示して、秋田市でも大丈夫ですよと示すことが責任です。それができなければイオンにおんぶにだっこですね。</p>	<p>地域への経済効果や地元企業の活用は重要であると認識しております。他地域での取組事例も参考に検討を進め、どのような目標や指標が適切か検討してまいります。</p> <p>また、人口減少下にあつては、市外・県外からも人を呼び込めるまちづくりが必要だと考えております。一方で、にぎわいの創出には中心市街地や他地域の商業施設、商店街等との連携が重要であるとの考えから、事業パートナーにも中心市街地や他地域への影響や配慮についての考えを求めており、引き続き、その点についても十分に協議・検討してまいります。</p>
42	<p>「交流人口」の増加とありますが、その「増加」はそのままそっくり他地域の「交流人口」の減少となります。消費者の財布は普通は一つしかありませんから。また「観光客」ですが、県外からの来訪者（クルーズ船客を含む）をここの施設においてワンストップで囲い込むような展開では秋田を知ってもらうこととは少し違うのではないかと思います。</p>	<p>人口減少下にあつては、市外・県外からも人を呼び込めるまちづくりが必要だと考えております。一方で、中心市街地や他地域の観光・文化施設等との連携も重要であり、相乗的なにぎわいの波及につながる取組について、引き続き、事業パートナーと協議・検討してまいります。</p>
43	<p>電子マネーを活用した地域貢献策にはWAONだけでなく、PayPayやアカキやSuicaを使えるようにすべき。秋田市ではバス乗車にアカキを導入したので。</p>	<p>いただいたご意見については、今後、電子マネーを活用した地域貢献策について具体的な検討を進める中で参考とさせていただきます。</p>
44	<p>工事に関しては、出来る限り地元企業に発注し、地元経済に貢献していただきたい。</p>	<p>モデル地区の整備に当たっては、地元企業が経済的な効果を実感できるよう積極的な起用を検討してまいります。</p>
45	<p>地元企業の起用と振興に関しては大事ではあるが、すべてを安易に考えて欲しくない。諸課題に対するノウハウ等の問題で事業パートナーを選定しているのであるからアドバイスを受けながら継続して共存する仕組みを模索しない限り一過性のものとなりかねないと懸念する（出来たはいいが地元にはあまりメリットがないなど）。</p> <p>地元企業の起用と振興といっても、県都であることから極端に秋田市だけにとらわれないほうが長期的な観点では継続的で複合的な効果が望めるのではないかと考えます（特に観光振興や商業的な部分で）。交流人口の創出、魅力的なコンテンツといった観点からも。他での運営実績や魅力的なアイデアを持つ市外業者や県内業者と市内業者の企業体も参入可能とするなど。単に地元優先的な思考ではなく、広い観点と長期的な視点で地元企業の起用と振興を考えて欲しい。</p>	<p>施設整備段階における地元企業の起用や経済効果だけではなく、長期的視野での波及効果についても検討する必要があると考えております。モデル地区では、事業パートナーと協力企業・団体の知見やノウハウの活用に加え、地元企業との連携を促進させることで、地元企業の企業力向上や発展につなげてまいりたいと考えております。また、地元企業の参画については事業パートナーと協議・検討してまいります。</p>
46	<p>今ある外旭川のスーパーや商店が競合する事によって淘汰されないか？ また、外旭川にこれら施設が集中する事により、周辺の市町村から人が移動し労働人口は元より、買い物人口も減るのではないか？</p>	<p>地元商店街と連携した地域通貨や地元商店街のニュースなどを配信できるアプリの導入など、既存事業者との連携を図ることで、モデル地区だけでなく周辺の既存商店や小売店などにもにぎわいを波及させたいと考えています。</p>
47	<p>当初拝見した三菱UFJの経済波及効果、地元フィデア総研のまとめた波及効果が参考でもいいので欲しかった。 委員の方々も大変参考に出来たのではないか。</p>	<p>これまでにない新たな官民連携の取組として、事業パートナーの提案を基に、本市が主体となって基本構想を策定してまいります。具体的取組を検討していく中で、それに合わせて、経済波及効果についても検討してまいります。</p>
48	<p>シャトルバスで結ぶ先を、大森山動物園等観光先も入れてみたらどうか。（県外から来る人の為に）</p>	<p>いただいたご意見については、今後、モデル地区と他地域を結ぶ移動手段について具体的な検討を進める中で参考とさせていただきます。</p>
49	<p>他の資料にもありましたフィデア総研のまとめた波及効果は大変参考になるものとする。 商工会議所・商工会連合会等も積極的にこの計画をビジネスチャンスと捉え、地元事業者の参画支援、起業活動支援等を、後押しすべきと考える。</p>	<p>「人口減少下にあつても持続可能な社会基盤の構築」と「交流人口の拡大による新しい活力や魅力づくり」の実現に向け、事業パートナーを始め、関係者と協力しながら、引き続き取り組んでまいります。</p>
50	<p>モデル地区としてデジタルサービスでの取り組み、特にイオンモールの例を挙げておりますが（道の駅等でよく実施されているスタンプラリー等を指しているのでしょうか!?) イオンブランドが経済効果としての呼び水となるのかは、私は意見として差し控え致します。</p>	<p>「人口減少下にあつても持続可能な社会基盤の構築」と「交流人口の拡大による新しい活力や魅力づくり」の実現に向け、事業パートナーを始め、関係者と協力しながら、引き続き取り組んでまいります。</p>

〇8章 リスク分析・関係法令の整理

No.	意見	意見に対する市の考え方
1	早期検討してもらいたい。	いただいたご意見を踏まえ、市と事業パートナーとの間で今後、協議してまいります。
2	リスクについては行政・イオン側で連携を図っていくことを期待します。行政側は法令順守に努めながらも、現状の規制について必要に応じて対応することが大事だと思います。	リスク分担の考え方については、いただいたご意見を踏まえ、市と事業パートナーとの間で今後、協議してまいります。現状の規制への対応についても、本基本構想を策定する中で方向性を整理してまいります。
3	市長は従前より、秋田市の進むべき方向性として、コンパクトシティを旨とすと言って来たが、ある時から（秋田県出身のイオンの役員との面会以降）外旭川地区まちづくりを持ち出しました。どのような経緯があったのか知りたい。	外旭川地区のまちづくりは、本市がこれまで取り組んできた多核集約型コンパクトシティの考え方を基本としつつ、将来のまちづくりを見据え、行政だけでは実現できない、民間事業者の知見やノウハウを活用したまちづくりを行うものであり、官民連携のモデルとして位置付けるものであります。このモデル地区では、AIやICTなどの技術を活用した先端的なサービスの導入により、本市が抱える課題の解決を他の地域に先駆けて行い、この実証的な取組で得られた成果を他の地域にも波及させることで、全市をより充実発展させてまいりたいと考えております。また、波及させる成果については、取組そのものを広めるだけでなく、そこで実証された官民連携と民間事業者の優れたノウハウの活用方法なども併せて波及させていく考えであり、これまでの取組の方向性を変えたものではありません。
4	専門家の意見を聞くことである。	市が主体となってまちづくりのモデル地区に係る検討を行い、事業パートナーと対等に協議・検討を進めていくに当たって、コンサルタント会社とアドバイザー業務委託契約を締結しており、専門的な見地からの助言等を参考に本基本構想の策定作業を進めてまいります。
5	リスク分析を明確にしてもらいたい。	市が主体となってまちづくりのモデル地区に係る検討を行い、事業パートナーと対等に協議・検討を進めていくに当たって、コンサルタント会社とアドバイザー業務委託契約を締結しており、リスク分析についても専門的な見地からの助言等を参考に本基本構想の中で整理してまいります。
6	勉強になりました。	「人口減少下にあっても持続可能な社会基盤の構築」と「交流人口の拡大による新しい活力や魅力づくり」の実現に向け、引き続き取り組んでまいります。
7	リスクを恐れて事成さず、では困りますので、勇気をもって、しっかり行動して下さい。	事業パートナーを始め関係者と協力し、様々なリスク分析とその分担についても検討しながら基本構想の策定作業を進めてまいります。
8	コロナ対策と並行して進める必要がある。	事業パートナーを始め関係者と協力し、様々なリスク分析とその分担についても検討しながら基本構想の策定作業を進めてまいります。
9	リスク自体の整理と同時に、民間に丸投げすることのない様に管理体制を整えて欲しい。	外旭川地区のまちづくりは、市で行う卸売市場再整備、官民連携で行う新スタジアム整備および民間施設の整備を一体的に行うこととしており、事業パートナーを始め関係者と協力し、リスクの整理と民間事業者とのリスク分担についても検討してまいります。
10	公が準備して民に任せ、あとは知らないというのが透けて見える。	外旭川地区のまちづくりは、これまでにない新たな官民連携の取組として、先端技術の活用や民間の優れたノウハウと知見を生かした様々な取組により「人口減少下にあっても持続可能な社会基盤の構築」と「交流人口の拡大による新しい活力や魅力づくり」を目指すものであり、本市が主体となって進めるものであり、事業パートナーを始め関係者と協力しながら進めてまいります。
11	民間のノウハウや今までの経験等は、より良いものを作り、運営していく上で必ずプラスになります。リスクを考えずに進めるわけにはいかないが、リスクがあるから進まないでとどまっている現状では衰退しかならないと思う。それが、現状の人口減少なのだと思う。もっと真剣に先に進む方法を考えてほしい。	外旭川地区のまちづくりは、これまでにない新たな官民連携の取組として、先端技術の活用や民間の優れたノウハウと知見を生かした様々な取組により「人口減少下にあっても持続可能な社会基盤の構築」と「交流人口の拡大による新しい活力や魅力づくり」を目指すものであり、様々なリスク分析とその分担についても検討しながら、実現に向け引き続き取り組んでまいります。
12	今回のまちづくりはイオンタウン、ブラウブリッツ秋田など民間企業が積極的に介入する事業になります。しかしながら新スタジアムは特に国、県、市が中心となって費用負担する予定ですので、採算性の確保、サッカー以外の有効活用が重要な課題となります。この度、不慣れながらも骨子を隅々まで拝見しましたが、これまでの秋田のまちづくり事業で初めて純粋にワクワクするものでしたし、採算性も十分可能であると感じました。新スタジアムは完成すれば、日本で例のない画期的な施設ですし、周りに娯楽施設があることで、新スタジアムを中心にモデル地区一帯が夢のテーマパークになる可能性を秘めています。若い私としても、今後の秋田市に夢を魅せることができました。期待しています。	新スタジアムについては、プロスポーツ単体利用だけではなく、これからの秋田を担う若い世代への楽しみの場の提供、秋田の活性化や魅力あるまちづくりおよび健康増進、防災拠点など様々な観点から活用の可能性についても検討を進めてまいります。
13	当該地区は農業振興地域で今でも田んぼとして利用されています。土壌の柔らかさが懸念され地盤改良工事は必須と考えられますが、その分のコスト増になる可能性があるため、釈迦に説法ですが事前調査はすべきです。	いただいたご意見を参考に、今後、リスクの抽出・整理を行い、分担方法について検討を進めてまいります。
14	大規模小売店舗立地法	今後、関係法令と必要となる手続きの整理を行ってまいります。
15	将来的にはリスクは当然あると思うが、〇年計画、という考え方で最小は小さくスタートすべきであると思います。世界の情報を取り入れリサーチしながら1歩1歩進めたら良いのでは。	いただいたご意見を参考に、今後、リスクの抽出・整理を行い、分担方法について検討を進めてまいります。
16	すでに検討されていることかもしれませんが、他の前例を十分調査研究してほしい。	引き続き、リスクの抽出・整理を行い、分担方法について検討を進めてまいります。

17	イオンが撤退した場合のリスク、サッカーチームが結果を残せなかった場合のリスク、中心市街地など地域への経済波及効果がゼロまたはマイナスになった場合のリスク、事業が市の財政に及ぼすリスク、20年後人口減少に歯止めがかからない場合のリスクなど、記載されている以上に深刻なリスクが山積している。今一度、考えうるリスクを深掘りして、その対応策を示すべきである。	いただいたご意見を参考に、今後、リスクの抽出・整理を行い、分担方法について検討を進めてまいります。
18	進行しながら考えればよい。	「人口減少下にあっても持続可能な社会基盤の構築」と「交流人口の拡大による新しい活力や魅力づくり」の実現に向け、引き続き取り組んでまいります。
19	1章～7章に関する意見で述べた通り、このモデル地区における土地利用に関しては、新スタジアム、民間施設は取りやめ、卸売市場再整備など「にぎわいの創出」に関係しないものに限るべきです。したがって、リスク分析・関係法令の整理に関してもその考え方に適応したものにする必要があります。	外旭川地区のまちづくりは、卸売市場再整備、官民連携で行う新スタジアム整備および民間施設の整備と、先端技術を活用した様々な取組を一体的に行うことで、「人口減少下にあっても持続可能な社会基盤の構築」と「交流人口の拡大による新しい活力や魅力づくり」を目指すものです。今後、事業パートナーを始め関係者と協力し、様々なリスク分析とその分担について協議を進めてまいります。
20	今後、スタジアム整備の整備方針が変更となる場合もあるため、その場合は当該整備計画も白紙に戻る可能性があります。これをリスク分析に追記する必要があるものと考えます。	いただいたご意見を参考に、今後、リスクの抽出・整理を行い、分担方法について検討を進めてまいります。
21	リスクの抽出は概評価できます。又、関連法令等において許認可手続きで遅延が生じないように工程を管理してほしい。	いただいたご意見を参考に、今後、リスクの抽出・整理を行い、分担方法について検討を進めてまいります。
22	皆が納得できる連携のもとで進んでいく事業であってほしいと切に思います。	「人口減少下にあっても持続可能な社会基盤の構築」と「交流人口の拡大による新しい活力や魅力づくり」の実現に向け、引き続き取り組んでまいります。
23	リスク分析や関係法令整理などは専門的知見を有することと考えるのでコメントは控えたい。専門分野の見識者を多数招致いただきたい。若者が秋田に定住するようになり、そして近未来には少子高齢化に歯止めをかけ、ブラウブリッツ秋田のホームゲームに多数の来場者で外旭川が賑わう、そんな活気ある街づくりを切に願う。	「人口減少下にあっても持続可能な社会基盤の構築」と「交流人口の拡大による新しい活力や魅力づくり」の実現に向け、引き続き取り組んでまいります。
24	分析、法令の整理は、私共市民にはコメントの仕様が無い。次世代のゼット世代が秋田で仕事をして暮らせるような計画ならば、彼等にも理解できるようにパブリックコメントとするのが当然と思う。	いただいたご意見を踏まえ、若者が将来に希望を持ち、「これからをこのまちで暮らしていきたい」と感じられるような魅力あるまちを目指して検討するとともに、若い世代の方にもご理解いただけるよう、引き続き丁寧な説明に努めてまいります。
25	官民連携でPFI事業を行っていくわけですが分担されるべき「リスク」は例示されているものだけではないと思います。最終的にこの事業目的が達成できているかという観点から。事業終了時以降の経済効果の評価によるリスク（予想より集客力なし、にぎわいならず、スマート農業ならずなどの場合、何年後までという期限は設ける）を入れないと無責任というものでしょう。そのための大前提として秋田市についての冷静な現状分析と数値で示した目標を示しておくべきだと思います。	いただいたご意見を参考に、今後、リスクの抽出・整理を行い、数値目標についても、取組の具体に合わせて引き続き検討を進めてまいります。
26	骨子案で良いと思う。	「人口減少下にあっても持続可能な社会基盤の構築」と「交流人口の拡大による新しい活力や魅力づくり」の実現に向け、引き続き取り組んでまいります。
27	リスク分析を確実にし、手戻りや無駄な支出を徹底的に排除していただきたい。	いただいたご意見を参考に、今後、リスクの抽出・整理を行い、分担方法について検討を進めてまいります。
28	魅力的で、長期的な観点で持続的なまちづくりを目指して欲しい。リスクを最小限に抑えることを優先的に配慮して欲しい。	いただいたご意見を参考に、今後、リスクの抽出・整理を行い、分担方法について検討を進めてまいります。
29	リスク分析・法令の整理は専門的分野となりますのでコメントは控えます。構想資料を読破致しましたが全体的にネガティブな表現となっていました。市長も公約をして掲げ、議会でも承認された案件ですので、未来の子供達が住みたい秋田市で暮らせる為に早期に実現していただきたい。	「人口減少下にあっても持続可能な社会基盤の構築」と「交流人口の拡大による新しい活力や魅力づくり」の実現に向け、引き続き取り組んでまいります。
30	リスク分析・法令の整理は担当部署にて早急に行なっていただきたい。今だ秋田市が経験したことのないプロジェクトでございますので、市長自ら先頭に立ち本計画を立ち止まることなく進めていただきたい。	今後、リスク分析や関係法令の整理を行ってまいります。 「人口減少下にあっても持続可能な社会基盤の構築」と「交流人口の拡大による新しい活力や魅力づくり」の実現に向け、引き続き取り組んでまいります。
31	リスクとしての分担を民間にもとの事に関してですが、これは秋田市のみならず各自治体にも何らかの影響で発生する可能性がございますので定かではありませんが、おそらく項目に該当するのは間違いないかと。これをはね除ける事の出来る案が求められているのは確かです。	いただいたご意見を参考に、今後、リスクの抽出・整理を行い、分担方法について検討を進めてまいります。

○その他

No.	意見	意見に対する市の考え方
1	<p>外旭川まちづくり基本構想に関する意見 十月十九日の秋田魁新聞で外旭川モデル地区の施設配置案を具体的に示されていることを知り、これに関して私なりに意見を述べさせていただきます。この示された案にはほぼ賛成です。その理由、第一に卸市場が現地であること。移転となれば土地取得に多額なお金がかかります。今の場所が良い。第二にスタジアムはなるべく住宅地から離れた方が良い。第三にイオンが外旭川にくること。これは賛成できないが、決まったのであればやむを得ない。その理由は現在の買い物のあり方にある。現在、八柳地区周辺にはタカヤナギ、ナイス、ウエタ、ハッピー、ツルハ、コンビニが四店舗、この地域にいろいろあってそれぞれ特徴があり、主婦の私は品物選びをしている。この地域に又、一つ加わることは問題である。イオンが来ることによって現在の店舗が移転、撤退になるのではと心配です。なるべく秋田にお金（税）が入ればと思います。私は外旭川に生まれ、七十七年間をこの地で過ごしてきました。どうか、外旭川が住み良い町であることを願っています。</p>	<p>卸売市場の再整備場所の候補地を現卸売市場敷地内としたことについては、市有地であり土地の取得や賃借が不要であること、土地の造成が不要であることなどの理由に加え、市場内事業者の意向を踏まえて決定したものです。新スタジアムの整備場所の候補地を北側としたことについては、住宅地から離れた場所で騒音や光害のリスクを避ける必要があることや、まちづくり懇話会での委員からの意見を踏まえて決定したものです。外旭川地区のまちづくりは、卸売市場再整備と官民連携による新スタジアム整備、民間施設の整備を一体的に行うことで得られる相乗効果を生かしたまちづくりを行うものであり、既存商店街等にも配慮して検討を進めたいと考えております。</p>
2	<p>秋田市の形は、このままでいいですか。 少子高齢化とコンパクトシティが横たわる中で、広小路をがら空きにしてイベントであくせくするより、秋田市の中心部に目を向けずに周辺を中途半端に町づくりをすることが、将来的にどの位の効果が生まれるのでしょうか。 秋田駅の東西は新幹線が止まります。そのラインに県庁・市役所、中央地下道、秋田駅、高速中央インターと近距離で結ばれています。 交通アクセスの効率の良いこのラインは、秋田県、東北、全国を結ぶ重要な要素です。そこに、様々な建物・施設等を作り秋田市の真ん中を充実させることは、人口減少の時代に事業の好転を生む基本だと思えます。 卸売市場があるだけでは、秋田市を大局的に将来を考えるには甘い考えだと思えます。 また、新スタジアムも当然、全県、東北、全国を意識しなければなりませんし、交通アクセスの良くないと思われる事が目に見えている外旭川に作ることは理解出来ません。 ヨーロッパのように県都の中央部分を充実させ、周辺から無料バスを運行出来る位の大胆な事例もありますので、参考にしてください。 秋田市の中央部分を80%、周辺は20%位の比率で町づくりをしないと、総てが中途半端になります。 イオンの商業構想だけに負ぶさって、近くにある御所野イオンの存在影響はどうなりますか。大問題に発展しませんか。 現実を直視して5年、10年後の秋田市を真剣に考えてください。</p>	<p>外旭川地区のまちづくりでは、卸売市場再整備、官民連携で行う新スタジアム整備および民間施設の整備と、先端技術を活用した様々な取組を一体的に行うことで、「人口減少下にあっても持続可能な社会基盤の構築」と「交流人口の拡大による新しい活力や魅力づくり」を目指すものです。このモデル地区では、AIやICTなどの技術を活用した先端的なサービスの導入により、本市が抱える課題の解決を他の地域に先駆けて行い、この実証的な取組で得られた成果を他の地域にも波及させることで、全市をより充実発展させてまいりたいと考えております。 また、交通アクセスについては、自動運転によるオンデマンドPMVやオンデマンドシャトルバスの提案を受けているところであり、本市で進めている公共交通網の再編に向けた検討とも調整を図り、利便性の確保に向けた検討を進めてまいります。</p>
3	<p>結論として、①わかりにくい「骨子（案）」だということ。市民に示すのには不十分な内容だと思えます。 ②細かい、数値目標が明示されていない。 ③イオンにお任せの部分が多すぎ、果たして秋田市が主体的にかかわっているのか疑問を持たざるを得ません。 ④こういう事業で果たして「得られた成果を全市に波及させる」ことができるのか、一体何をもち「成果」とするのかさっぱり分からない、抽象的すぎ、全市に波及させるには不十分。 ⑤今でも遅くないので、考え直すべきです。</p>	<p>①「市民に示すには不十分」というご指摘については、まちづくり懇話会における議論の中で、内容が固まった段階でパブリックコメントを実施するよりも、骨子案のタイミングで行った方がより様々な意見を反映できるという意見を受けて実施したものであり、ご理解をいただきたいと思えます。 ②数値目標は、3章(5)に既存計画における数値目標を記載しておりますが、今後、ふさわしい数値目標の設定について検討してまいります。 ③今回の基本構想の策定に当たっては、行政だけでは実現できない、民間事業者の知見やノウハウを活用したまちづくりを行うとの考えに基づいてプロポーザルを実施したものであり、その提案に基づいて、本市が主体となって基本構想を策定していくものであります。今後、基本構想をとりまとめている中で、さらに市としての主体性も示したいと考えております。 ④「得られた成果」とは、「人口減少下にあっても持続可能な社会基盤の構築」と「交流人口の拡大による新しい活力や魅力づくり」を目指し、AIやICTなどの先端技術を活用して、産業・観光・スポーツ・環境・防災などの幅広い分野の取組を横断的に進めることで得られた結果と捉えており、本市が掲げた7つの取組を連携させながら引き続き整理してまいります。 引き続き、丁寧な説明に努めてまいります。</p>

秋田市外旭川地区まちづくり基本構想 骨子（案）を読ませていただきました。以下感想を述べさせていただきます。

1. 先ずこの案について、私は反対です。理由は次のとおりです。
・秋田市が当初目指していた中心市街地の活性化を核としたコンパクトシティの構想に反する。そのためにナカイチを作り、わざわざ平野美術館から藤田の絵を運び込んだのではないか。（あの絵は、平野美術館にあってこそ、のものだと今でも思う。）
……「多核集約型コンパクトシティ」とは何ぞや。

・少子高齢化の一層の加速、それに伴う人口減少、歳出が常に歳入を上回っている市の財政状況等に鑑み、大事な税金をむやみに使ってほしくない。市民が望むのは、このような一大プロジェクトの実現ではなく、暮らしやすい街づくり～スムーズな除排雪であったり、インフラ設備の整備であったり、交通網の充実であったり～の実現である。

・何故外旭川地区なのか。この案に提示されている理由は、“先に外旭川ありき”ですべて後付けのような気がする。

・“一企業に街を売り渡す”という感情をどうしても拭い去ることができない。

2. 次に個別の項目について、問題点を述べさせていただきます。

リモートワークについて
新型コロナウイルス感染症は、社会経済情勢や人々の価値観に急激な変化をもたらしており、リモートワークによるビジネスのオンライン化の加速とあるが、しかし、これがすぐにリモートワークの加速につながるかといえようそのなると思う。首都圏近郊の通勤圏であればいざ知らず、日帰りやよつとのエリアで現実的な考えとは思えない。現在リモートワークを実践している企業でもほとんどの場合週一の出社が求められているようだ。

令和元年9月実施秋田市シティプロモーション

『秋田市内外の10代から30代の男女を対象に、令和元年9月に実施した秋田市シティプロモーション基本方針の策定に向けた調査では、本市に住み続けるために必要なものとして、「娯楽施設の増設・整備、お店、レジャー施設、商業施設、遊び場、イベントの開催」に関する回答が最も多かったことから、若者の定住には、新たにぎわいの創出についても一定の必要性があるものと認識しています。』とある。しかし、このアンケート調査で当該世代が具体的にどの様に思い描いているのかを把握できるのか、具体的な内容（東京ディズニーリゾートのようなもの、原宿のような商店の集積地など具体例）の把握ができていなければ事業者の言いなりの施設整備になるのではないかと懸念する。例に挙げた原宿のような商店の集積地だとすると今回のイオン構想は根本から否定されるものと危惧する。また、秋田市内外とあるが調査対象者の範囲人数を示してほしい。

コンパクトシティの手法

『多核集約型コンパクトシティを基本』とあるが、本当に適切な選択であったかの評価がない。一回立ち止まり『多核集約型コンパクトシティ構想』が有効であったか否かを評価してからでないと前に進むべきではない。私は多核集約型コンパクトシティが本来のコンパクトシティの手法ではないと思っている。本来は一極集中させることがコンパクトシティの手法だと思う。

AIやICTなどの活用について

AIやICTなどの技術を活用した先端的サービスの導入は、当然これからどんどん活用すべきだが、ことさら強調することでもなく、どの地域でもこれから要求されることであり、モデル地区も何も必要なく実行すればいいだけのことである。それよりもAIやICTなどの技術者の育成に力を入れ（例えば、秋田商業に専攻科を整備する。国際教養大学、県立大学、秋田大学、ノースアジア大学に秋田市の支援で専攻科を整備する。AI、IoT、ICTを専攻している秋田市出身の学生に秋田市の企業に就職することを条件に返済無用の奨学金制度を作る。等）AI、IoT、ICT技術開発企業の誘致、起業の受け皿を整備することが雇用の場の確保に寄与するものと思う。

新スタジアム整備

新スタジアムの整備の前に、ブラウブリッツの経営安定の方法も合わせて検討すべきである。スタジアムができたと思ったらチームが解散ではいい笑いものである。イオングループには強力なスポンサーになる覚悟があるかが問われる。例えばB1のササノウマジックは、バンダイナムコが経営に参画してから目覚ましい活躍を見せている。また、DeNAは、J2のSC相模原を今後子会社とするそうだ。これを参考にイオングループにスタジアム建設前にブラウブリッツのトップスポンサーになって頂くことを条件とすることである。

防災施設整備について

防災については、現在秋田市として具体的計画を持っていないように思われる。ただ単に市民に耳障りのいい文言を並べているように思われる。具体的に秋田市民が必要とするのは何なのか、理想とされるシステム、組織はどのようなものか精査して提案、交渉すべきである。また、秋田地区河川防災ステーションが国土交通省のもと整備される予定であり、両者との役割分担の調整が必要だ。とにかく無駄な施設整備にならないように予算の無駄遣いにならないように慎重に検討してほしい。

自動運転によるオンデマンドPMV8やオンデマンドシャトルサービスの導入について

自動運転によるオンデマンドPMV8やオンデマンドシャトルサービスの導入と記載があるが2023年4月からは国はレベル4の自動運転車を条件が合えば許可するとのことである。モデル地区での自動運転によるオンデマンドPMV8やオンデマンドシャトルサービスの導入ではあまりにも先見性がない。高齢化社会の先進県として自動運転車を高齢者に積極的に導入して頂けるように、外旭川地区に限らず、全市に環境を整備すべきである。そのためには雪国のネックとなる除排雪体制の構築が大きな課題になると思う。

千葉県旭市 おひさまテラスについて

多世代交流施設の例として「千葉県旭市 おひさまテラス」を挙げているが、2022年4月にオープンしたばかりである。評価も何も定まっていらないのに参考例とするのは、施設を作るための方便としか思えない。秋田市と旭市を比較すると人口は秋田市の約5分の1、面積は約7分の1である。秋田市にはすでに拠点センターアルヴェをはじめ市内全域にコミュニティセンターなどの施設が多世代交流施設ではないが配置されている。面積で圧倒的に小さい旭市と比較しても参考にはならないように思うので、これからの施設の有効活用を検討することが財政難の中とるべき道である。

雇用問題について

外旭川地域のイオンの誘致には雇用の創出もテーマにあると思うが、果たしてイオンは正社員としてどのくらいの雇用を目指しているのだろうか。非正規雇用中心の雇用体系ではいくら雇用が増えても何ら意味がない。雇用を求めている人々に失望感を与えるだけである。雇用の言質は取れているのだろうか疑問に思う。

これまでいろいろ述べたが、このような大きなプロジェクトは相手方のペースで進めるのではなく、ましてや丸投げするものでもなく、毅然と自分たちの理想を掲げ厳しく行うべきであると思います。

1. この案について

外旭川地区のまちづくりは、本市がこれまで取り組んできた多核集約型コンパクトシティの考え方を基本としつつ、将来のまちづくりを見据え、行政だけでは実現できない、民間事業者の知見やノウハウを活用したまちづくりを行うものであり、多核集約型コンパクトシティを補完するモデル地区と位置付けるものであります。このモデル地区では、AIやICTなどの技術を活用した先端的なサービスの導入により、本市が抱える課題の解決を他の地域に先駆けて行い、この実証的な取組で得られた成果を他の地域にも波及させることで、全市をより充実発展させてまいりたいと考えております。

2. 個別項目について

リモートワークについては、現在多様な働き方のあり方がある中で、時代の大きな流れとしてあるものとして示したものであり、秋田に住んで首都圏で働くという勤務形態もあり得るものと考えており、またワーケーションなどの動きもあることから、これを否定するものではないと認識しております。

秋田市シティプロモーション基本方針策定に向け実施した意識調査において、「遊ぶ場所がない」「娯楽、商業施設が少ない」という意見も多くあったことから、若者が求めるものはこうした施設が欲しいという意見を裏付けられるものと認識しております。

また、本調査は、秋田市内外の10代から30代の約12,000人の男女を対象に、市内の高等学校や大学等を通じて、アンケートを実施したもので、有効回答者数は768人となっております。

コンパクトシティについては、本市が目指す将来都市構造として、総合都市計画の中に「多核集約型コンパクトシティ」を位置付けており、これを本基本構想策定に当たり見直すことは考えておりません。

AIやICTの活用については、「どの地域でもこれから要求されることであり、モデル地区も何も必要なく実行すべき」とのご意見も参考にしながら、まずはモデル地区で実証的に取り組み、その結果を見ながら波及させることで、市全体でロスのないよう留意してまいります。

新スタジアムについては、ブラウブリッツ秋田を中心とする特別目的会社を事業主体として整備・運営する提案をいただいております。事業の採算性や継続性などについても十分に検討してまいります。

防災拠点整備については、今後必要な機能などについて検討をしたいと考えておりますが、ご指摘の秋田地区河川防災ステーションとの役割分担は十分になされるものと認識しております。

自動運転によるオンデマンドPMVやオンデマンドシャトルサービスの導入については、「外旭川地区に限らず、全市に環境を整備すべき」とのご意見も参考にしながら、まずはモデル地区で実証的に取り組み、その結果を見ながら波及させることで、市全体でロスのないよう留意してまいります。雪国のネックとなる除排雪体制の構築は今後の課題とさせていただきます。

千葉県旭市のおひさまテラスについては、ご指摘のとおりオープンしたばかりではありますが、想定を超える利用者数があるなど、多世代交流施設として機能していることは承知しております。旭市より面積も人口も大きい秋田市においても、旭市に限らず、他の先進事例も参考としながら、本市の課題解決につながる取組について検討したいと考えております。

雇用問題については、事業パートナーであるイオンタウン株式会社の提案には、創出される雇用数なども示されておりますが、基本構想策定の中で想定事業費を算出する予定であることから、現段階で明示することは困難であり、基本計画などを策定する過程で明らかにしてまいります。

いずれにしても、本基本構想は、外旭川地区まちづくりの基本的な方向性を定めるものであり、いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。